

1885-3/174

故其請求權及ヒ効果ヲ本條ニ規定シ以テ法律ノ期スル處ニシテ  
ルモノナリ

第六百二十四條 差押債權者取立手續ヲ怠リタルト

キハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル各債權者ハ

内ニ取立ヲ爲スヘキコトヲ催告シ其催

告ノ効力ヲサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自

ラ取立ヲ爲スコトヲ得

本條ハ差押債權者ニ於テ取立ヲ怠リタル時執行力ア

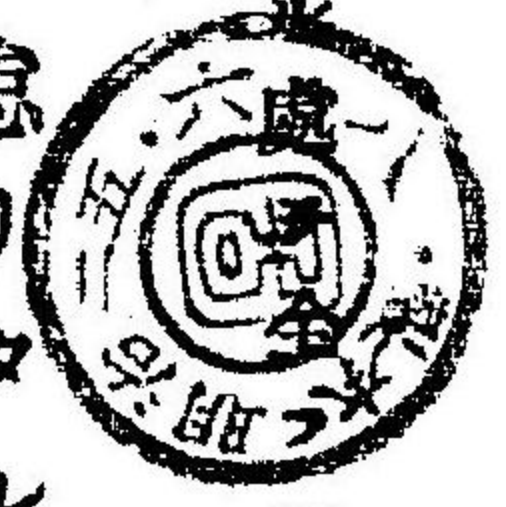
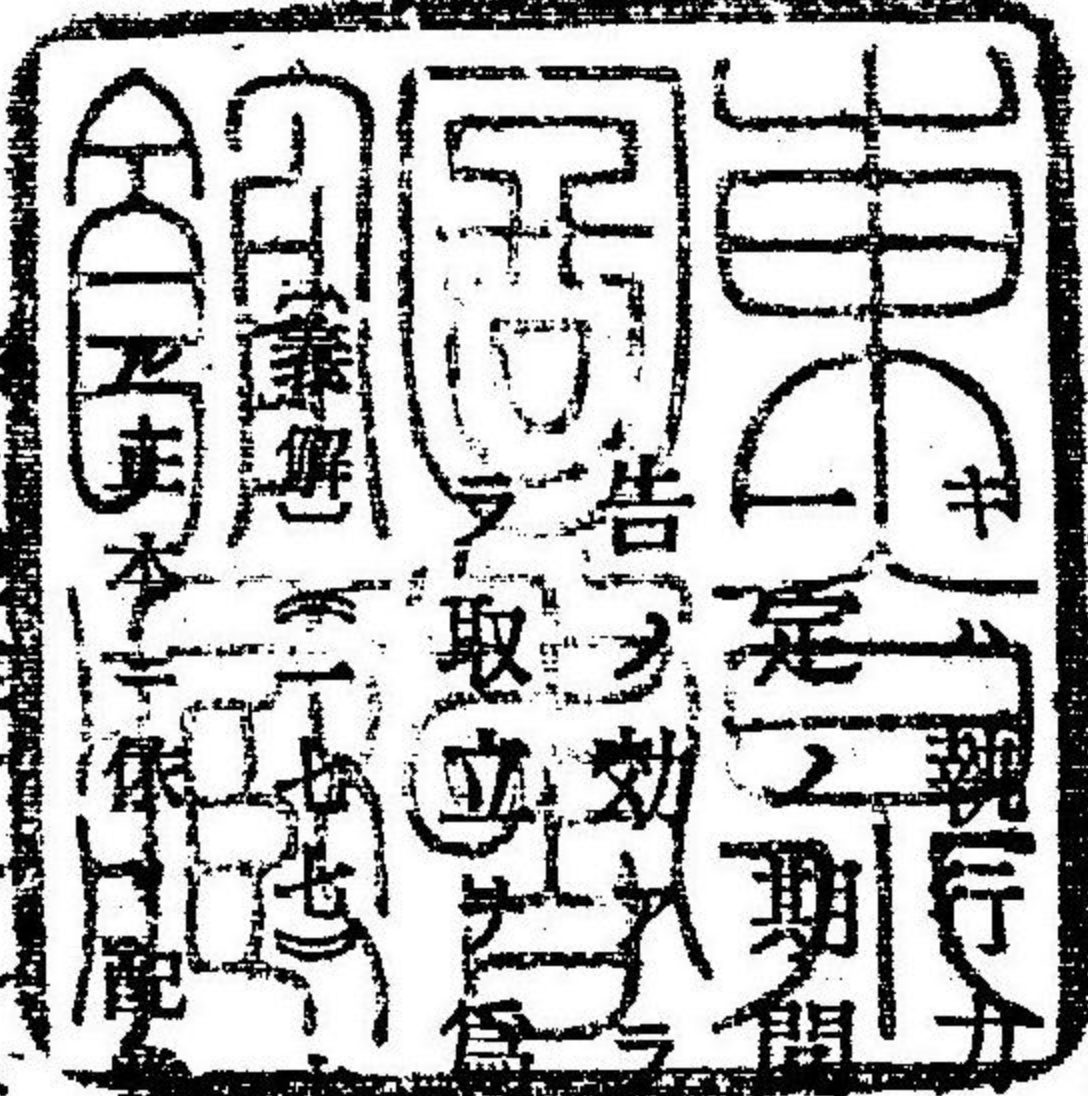
ラズ本條ニ依リテ各債權者カ之ニ對スル權利及ヒ其方

法ヲ規定シタルモノナリ

蓋シ差押債權者ニシテ取立ノ手續ヲ怠リ若シ之ノカ爲メニ債權ニ損

害ヲ生スルニ至ルホカ特リ差押債權者ニ於テ其損害ヲ蒙ルノミナラ

第六編 強制執行 第二章 第二節 第三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行 四七一





ス執行カアル正本ニ依リ配當要求ヲ爲ス凡テノ債權者モ亦之レカ損害ヲ免カル、能ハサルモノナリ故ニ此ノ關係者ニ就キテハ其損害ヲ防ク可キ方法ヲ與フルハ當然ノコトト云ハサル可ラス各債權者ニ於テ差押債權者カ取立ヲ怠ル場合ニ臨ミ一定ノ期間ヲ付シ取立ヲ爲ス可キコトノ催告ヲ發シ得ルコト定メタルハ即チ利害ノ關係ヲ蒙ル可キ者タルノ故ヨリシテ與ヘタル權能ニシテ例之ハ債權者カ債務者ヨリ第三債務者ニ對スル債權ヲ差押ヘツ、漫然徒過シテ其取立ヲ盡サ、ルキ他ノ債權者ハ二週間内ニ之レカ取立ニ着手ス可キコト若クハ一个月内ニ取立ニ着手ス可キコトヲ催告シテ以テ其取立ノ實行ヲ促カシ得ルコトト爲セシモノナリ然レモ差押債權者ニ於テ此ノ催告ヲ受クルモ尙ホ顧ミル處ナク緩漫ニ付シ去リ之レカ取立ヲ爲サ、ルキハ之レヲ如何ス可キカ法律ニ於テハ此ノ場合ヲ規定シ置カサレハ遂

ニ實効ヲ生スル能ハサルニ至ルモノナリ第二段ニ於テ若シ催告ノ効之レアラサルキニハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ら取立ヲ爲シ得ルコトト定メタルハ即チ此ノ規定ヲシテ實効ヲ生セシムルモノニテ此ノ結局ノ規定ヲ爲スニ於テ初メテ催告ノ効果ヲ全フスルヲ得ルモノナリ

第六百二十五條 不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利



ス執行カアル正本ニ依リ配當要求ヲ爲ス凡ソノ債權者モ亦之レカ損害ヲ免カル、能ハサルモノナリ故ニ此ノ關係者ニ就キテハ其損害ヲ防ク可キ方法ヲ與フルハ當然ノコトト云ハサル可ラス各債權者ニ於テ差押債權者カ取立ヲ怠レル場合ニ臨ミ一定ノ期間ヲ付シ取立ヲ爲ス可キトノ催告ヲ發シ得ルコトト定メタルハ即チ利害ノ關係ヲ蒙ル可キ者タルノ故ヨリシテ與ヘタル權能ニシテ例之ハ債權者カ債務者ヨリ第三債務者ニ對スル債權ヲ差押ヘツ、漫然徒過シテ其取立ヲ盡クハルル他ノ債權者ハ二週間内ニ之レカ取立ニ着手ス可キコト若クハ一个月内ニ取立ニ着手ス可キコトヲ催告シテ以テ其取立ノ實行ヲ促カシ得ルコトト爲セシモノナリ然レモ差押債權者ニ於テ此ノ催告ヲ受クルモ尙ホ顧ミル處ナク緩漫ニ付シ去リ之レカ取立ヲ爲サ、ルルハ之レテ如何ス可キカ法律ニ於テハ此ノ場合ヲ規定シ置カサレハ遂

ニ實効ヲ生スル能ハサルニ至ルモノナリ第二段ニ於テ若シ催告ノ効之レアラサルハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ら取立ヲ爲シ得ルコトト定メタルハ即チ此ノ規定ヲシテ實効ヲ生セシムルモノニテ此ノ結局ノ規定ヲ爲スニ於テ初メテ催告ノ効果ヲ全フスルヲ得ルモノナリ

第六百二十五條 不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲

ケタル以外ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テハ本  
款ノ規定ヲ準用ス

若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ  
處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲  
シタルモノト看做ス

右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利



## ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

〔義解〕(一七八) 本條ハ債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行ヲ規定シタル最終ノ法文ニシテ第五百九十四條以下前條ニ至ルマテ規定シタル執行ノ方法ハ特リ各條ニ於テ明定シタル場合ニ適用セラル、ノミナラス苟モ不動産ヲ目的トシタル強制執行ニアラスシテ財産權上ノ強制執行ナルモ凡テ之ヲ適用スルトノ義ニテ權利ノ種類ニ至テハ之ヲ法律上ニ數ヘ盡ステ得サルカ故若シ前條ニ至ル各條ニ規定シタル處ニ明定セサル財産上ノ權利ニ付キ強制執行ヲ要スルコトアルモ其方法ハ各條定ムル所ノ精神ニ酌ミ凡テ本款ノ規定ニ則ル可シトノコトナリ唯不動産ニ關スル場合ハ第二節以下ニ規定シタルモノアルカ故之ニ依ラサル可ラス本款ノ規定ヲ適用スルハ不動産ニ付テ強制執行ヲ求ムル場合ニアラスシテ前條マテ規定シタル事項

以外ニ於ケル財産權上ニ付テ強制執行ヲ行フ場合ヲ云フモノナリ而シテ其規定以外ノ財産權ヲ差押フル場合ニ於テ所謂第三者タル債務者ノ存セサルモ例ヘハ專賣特許權又ハ版權ヲ差押フルモハ如何ニシテ差押ノ効力ハ生ス可キモノナルヤ第五百九十八條ノ規定ニ依ルトキハ第三債務者カ負ヘル債務即チ債務者ノ債權ヲ差押フルハ第三債務者ニ對シテハ債務者ニ向ヒ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ債務者ニ對シテハ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スコラサルコトヲ命スルヲ以テ差押ハ行ハレタルモノト見做スコトト定メタリ然レモ第三債務者ナル者之レアラサル財産上ノ權利ヲ債務者ヨリ差押ヘントスルニハ此ノ規定ヲ以テ差押ノコトヲ全フスルヲ得ヘカラス是レ本條規定ノ必要アル所以ニシテ即チ第二項ニ於テ權利ノ處分ヲ禁スルノ命令ヲ債務者ニ送達シタル日時ニ於テ差押ノ効果ヲ生スルコト、爲セシ所以ナ



リ是レ第三債務者ナル者存セサルカ故此ノ如ク規定スルニアラザレハ遂ニ差押ヲ全フスル能ハサルニ至ラサル可ラサルヲ以テナリ未項ニ於テ此ノ場合ニ於テ裁判所カ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命シ得ルコト、定メタルハ即チ差押ヲシテ効果アラシムルノ方法ニシテ若シ單ニ權利ノ處分ヲ禁スル旨ヲ命スルモ債務者ニシテ之レヲ蹂躪スルニ至テハ甚メ危険ナルヲ免カレサルカ故此ノ處分ノ權ヲ規定シテ債務者カ之レヲ破ラントスル萬一ノ危険ヲ豫防シタルモノナリ

#### 第四款 配當手續

本款配當手續ナルモノハ強制執行ニ依リ金錢ノ差押ヲ爲シ又ハ競賣ヲ終リタル後ニ於テ其現存ノ金額ニ付キ各債權者間ニ配當ヲ爲スノ方法ヲ定メタルモノナリ故ニ本款ノ規定ハ差押ヲ受ケタル債務者ニ

對シ數人ノ債權者アル場合ニ於テ初メテ適用セラル可キモノニテ數人ヨリスル債權ノ要求ヲ調和スルノ方法ナリトス

#### 第六百二十六條 配當手續ハ動産ニ對スル強制執行

ニ對シ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

〔義解〕(一七九) 本條ハ配當手續ハ如何ナル場合ニ於テ之レヲ行フモノナルヤヲ規定シタルモノナリ即チ本條ニ於テハ動産ニ對スル強制執行ヲ爲ス時ニ於テ之レヲ爲スヘキモノタルコトノ原則ヲ定メタリ然レモ動産ニ對スル強制執行ノ際ニ於テモ亦常ニ之レヲ行フ可キコトニアラス之レヲ行フニハ數多ノ條件アルモノナリ本條ノ規定ニ依リ今其條件ヲ數フルホハ



第一 動産ニ對スル強制執行ヲ爲シタルキナルヲ  
 第二 強制執行後十四日ヲ過キタルヲ  
 第三 各債權者間ノ配當協議調ハサルヲ  
 第四 競賣金若クハ差押金錢ヲ供託シタルヲ  
 即チ此ノ四个ノ條件アルニ於テ初メテ配當手續ノコトヲ行フ可キモノト爲スナリ蓋シ配當手續トハ裁判所ノ命令ヲ以テ各債權者ノ要求ニ對シ債務者ヨリ差押ヘ供託ヲ爲シタル金額ヲ分配スルニ付キ其割合及ヒ之レヲ爲スニ必要ナル規定ヲ謂フモノニテ若シ各債權者ノ間ニ於テ其差押財産ニ對スル分賦ノ議纏リタルキニ於テハ別ニ本法ニ從フノ必要之レアラサルモノナリ又差押債務者ニ對シ要求ヲ提起シタル債權者カ一人ニ止マル場合ニ於テハ配當手續ノ問題ハ起ルコト之レアラス何トナレハ此ノ手續ナルモノハ各債權者ノ間ニ於ケル要

求額ヲ調和スルモノナルヲ以テ一人ニテ債權ノ要求ヲ爲ス場合ニ於テハ此ノ規定ヲ準用ス可キ必要之レアラサルカ故ナリ  
 第五百九十三條ノ規定ニ從ヘハ賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルキハ其賣得金ヲ供託ス可キコトト爲セリ故ニ各債權者間ニ於テ配當ノ協議調ハサルキハ必ス其金員ハ供託セサル可ラサルコトナリ而シテ其配當ノ協議ハ何レノ時ヲ以テ調否ヲ決スルヤノコトモ亦本條ニ規定スル所ニシテ本條ハ此ノ期日ヲ十四日間ト定メタリ故ニ動産ニ對スル強制執行ヲ爲シ金錢ヲ差押ヘタルカ又ハ動産物ヲ競賣シテヨリ十四日ヲ經過スルモ尙ホ各債權者間ニ之レカ分賦上ノ議纏ラサルトキハ其配當協議ハ調ハサルモノト見做サル可ラス已ニ配當ノ協議調ハストスルキハ之レカ供託ヲ爲サル可ラサルコト第五百九十



三條ノ規定ニ依リ明ラカナルヲ以テ此ノ規定ニ從ヒ供託ヲ爲シタルニ於テ茲ニ初メテ配當手續ヲ爲ス可キコトトナルナリ  
要スルニ本條ハ如何ナル場合ニ於テ配當手續ヲ行フモノナルヤテ規定シタルモノナルヲ以テ以上説明スル如ク動産ニ對シテ強制執行ヲ爲シ之レニ依リテ金錢ノ差押ヲ爲シタルホハ其當日ヨリ又他ノ動産物ノ差押ヲ爲シタルホハ之レヲ競賣ニ附シタル當日ヨリ起算シテ十四日ノ期間内ニ各債權者ヲシテ之レカ配當ノ協議ヲ盡サシメ若シ此期間内ニ協議調ハサルホハ其協議調ハサルモノト見做シ之レカ供託ヲ爲サシメ茲ニ配當手續ヲ開始スルコトト爲スモノ是レ本條ノ規定ナリトス

第六百二十七條 裁判所ハ事情届書ニ基キ七日ノ期間内ニ元金利息費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差

出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

〔義解〕(一八〇) 本條ハ配當手續ヲ開始ス可キ方法ヲ定メタルモノナリ第五百九十三條ノ規定ニ從ヘハ各債權者ノ間ニ配當ノ協議調ハサルホハ執達吏ハ差押金錢ノ供託ヲ爲ス可ク又裁判所ニ對シ其事情ヲ届出ツ可キコト、定メタリ故ニ配當手續ノ發端ハ此ノ事情届書ニ之レアルモノニテ裁判所ニ於テハ此ノ届書ヲ基本トシテ配當手續ヲ行ハサル可ラス而シテ配當ノ事ハ各債權者ノ要求額ヲ標準トシテ之ヲ爲ス可キモノナルヲ以テ要求額ノ計算書ヲ提出セシムルコト、爲セリ此ノ要求額ハ元金利息費用其他附帶ノ債權ヲ集メテ成レルモノナルヲ以テ之レヲ集メテ要求ノ目的ト爲サ、ル可ラス乃チ裁判所ニ於テハ各債權者ニ對シテ此ノ要求額ノ計算書ヲ七日内ニ提出ス可キ旨ヲ催告シ債權者カ此ノ期間内ニ計算書ヲ差出シタルホハ之レヲ調査



シテ配當ヲ爲スノ基礎ヲ定メサル可ラサルナリ  
 債權者ニシテ其催告ニ應シテ七日ノ期間内ニ計算書ヲ差出シタル時  
 ハ裁判所ハ之ヲ調査シテ配當ノ基礎ヲ定メサル可ラサルコト前段  
 説ク如クナリト雖モ若シ債權者ニシテ催告ヲ受クルモ本條ニ定メタ  
 ル期間内ニ計算書ヲ差出サ、ルキハ其計算ハ裁判所ニ於テ見ハレタ  
 ル處ヲ以テ之ヲ定メサル可ラス故ニ七日ノ期間ハ配當要求額ノ權  
 利ヲ確定スルモノト爲ルナリ此ノ如ク本條ニ於テ之レカ期間ヲ定メ  
 タル所以ノモノハ要スルニ配當ヲ爲ス可キ債權額ヲ確定セシム可キ  
 方法ニシテ若シ之ヲ一定ノ期間内ニ確定セシムルニアラサレハ配  
 當ヲ行フ可キ時期之ヲアラサルニ至リ債權額ハ遂ニ定マルコトヲ得  
 サルニ至ルヲ以テ此ノ期間ヲ設ク之ヲ確定セシムルコト、爲セシ  
 モノナリ然レモ此ノ期間ノ經過ハ配當要求ノ權利ヲ失フニアラスシ

テ債權其物ノ上ニハ毫モ關係ヲ及ホスコト之ヲアラサルモノナリ唯  
 其計算ニ就キ期間ノ經過ト共ニ之ヲ申立ツルノ權利ヲ失フニ過キ  
 サルナリ

第六百二十八條 前條ノ期間滿了後裁判所ハ配當表

ヲ作ル可シ

右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ル  
 ニ際シ配當要求竝ニ届書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ニ  
 依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許  
 サス

〔義解〕(二八一) 本條ハ前條ニ定メタル期間ノ滿了後裁判所ニ於テ爲  
 ス可キ方法ヲ定メタルモノナリ即チ裁判所ハ前條ニ規定アル七日ノ  
 期間ノ滿了後ニ於テ各債權者ヨリ提出シタル計算書ニ基キ配當表ヲ



作ラサル可カラス配當表トハ各債權者ノ氏名債權ノ種類數額等ヲ列記シ債務者ヨリ差押ヘタル差押額ト相照ラシテ分配ヲ爲ス可キ數量ヲ定メタル表ヲ云フナリ配當ハ此表ニ基キ之レヲ爲スモノナルヲ以テ此ノ表ハ最モ注意ヲ要スルモノナリ而シテ之レヲ期間滿了後ニ作ル可キモノト爲セシハ此ノ期間内ニハ各債權者ヲシテ其要求額ノ計算書ヲ提出セシメ得ヘキコト、定メタルカ故期間滿了スルニアラザレハ要求ノ總額ヲ知り能ハサルヲ以テナリ

第二項ニ於テ右期間ヲ遵守セサル債權者即チ七日内ニ計算書ヲ差出サ、ル債權者ノコトニ付キ規定ヲ爲シタル主意ハ之レカ爲メニ配當表ヲ作ルノ方法ハ如何ニス可キヤ語ヲ代ヘテ云ヘハ計算書ヲ差出サ、ル債權者ハ配當表ニ付キ如何ナル關係ヲ有ス可キヤノコトヲ規定シタルモノナリ即チ裁判所ハ此ノ計算書ヲ提出セサル債權者ノ要求

ニ付テハ配當要求并ニ届書ノ旨趣其他憑據書類ニ依リテ之レカ計算ヲ立テサル可ラス而シテ計算書ヲ提出セサル債權者ニ於テハ後日ニ至リ債權額ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得ス是レ計算書ヲ提出セサルノ過失ニ對スル適當ノ責任ニシテ配當表ヲ確定セシムル爲メ止ム可ラサルノ規定ナリトス然レモ裁判所ニ於テ其計算ヲ誤リ或ハ百圓ノ配當ヲ以テ足レル部分ニ付キ百五十圓ト爲セシカ如キコトアルトハ之レヲ訂正シ得ルハ當然ノコトト云ハサル可ラス之レト反對ノ場合ニ於テモ亦其計算誤謬ニ原因スルモノナルトハ之レカ訂正ヲ爲サ、ル可ラサルコト勿論ナリ唯其已ニ現ハレタル事實ニ徴シ計算ヲ定メタル後ニ於テ債權額ヲ補充セシメトテ請求スル能ハストナセシモノナ

## 第六百二十九條 裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ



配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出スヘシ但債務者ノ所在明ラカナラサルトキ又ハ外國ニアルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス

配當表ハ各債權者及ヒ債務者ニ閱覽セシムル爲メ遅クトモ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置クヘシ

〔義解〕(一八二) 本條ハ計算届ニ關スル期日ノ滿了後ニ於テ各債權者ニ對シ之レカ陳述ヲ爲サシムルコト及ヒ配當實施ノコトヲ定メタルモノナリ

前條ニ於テ已ニ見來リタル如ク裁判所ハ各債權者ニ催告シテ七日ノ期間内ニ其要求額ノ計算ヲ届出シメ之ニ依リテ配當表ヲ作ルモノナ

ルカ故此ノ催告アリタルヨリ七日ヲ過クルルハ裁判所ハ職務トシテ配當表ヲ作ラサル可ラス已ニ配當表ヲ作りタルルハ之レニ依リテ配當ヲ受クル各債權者ニ向ヒ陳述ヲ爲ステ得セシムルハ最モ適當ノコトト云ハサル可ラス何トナレハ各債權者ハ配當表ノ定ムル處ニ從ヒ其權利ヲ實行ス可キモノナルヲ以テ裁判所ニ於テ定メタル配當表ニ對シ其誤リナキヤ否ヤヲ調査シ之レカ陳述ヲ爲ステ得セシム可キハ當然ノコトタルヲ以テナリ故ニ此ノ陳述ヲ爲サシムルノ期日及ヒ配當ヲ實施ス可キ期日ヲ定メ之レヲ呼出ス可キコトト定メタルモノナリ又債務者ニ付テモ等シク此ノ呼出ヲ必要ナリト爲セシモノハ配當表ノ定ムル處ニシテ正シキヲ得ルト否トハ債務者ニ於テ最モ利害ノ關係ヲ有スルモノナルカ故之レヲシテ配當表ニ對シテ調査ヲ爲シ及ヒ陳述ヲ爲ステ得セシメタルノ理由ハ債權者ニ對シテ之レヲ爲サシ



ムルト同一ノ理由ニ基クモノナリ其配當實施ノ際ニ於テ之ヲ呼出シ配當上ノ處置ヲ窺ハシムルカ如キハ當サニ然ラサル可ラサルコトニシテ自己ノ資産ヲ配分シ各債權者ニ對スル債務ヲ補償スルコトナルヲ以テ債務者ニ於テ此ノ處置ニ立會フハ寧ロ權利トシテ認メサル可ラサル處タルヲ信スルナリ

但以下ニ於テ債務者ノ所在明ラカナラサルモ又ハ外國ニ在ルモハ呼出ヲ爲スヲ要セスト定メタルモノハ一般ニ關スルコトナルヤ又ハ債務者ノミニ限ルコトナルヤ法文上ニ於テハ疑ナキヲ得ス之ヲ何レニ解釋スルヲ以テ其精神ヲ得タルモノト爲スヤハ將サニ講説ヲ要ス可キ處ナル可シ若シ法文上ヨリ單純ニ解釋ヲ下スモハ債務者ニシテ所在明ラカナラサルカ又ハ外國ニ在ル場合ニ於テハ凡テノ關係者即チ各債權者ノ呼出モ必要トセサルコトノ規定ナルカ如シ然レモ本條規

定ノ精神ニ過リテ之レヲ考フレハ債務者ノ財産ニ對シ配當表ニ基キ配當ヲ爲ス場合ニ於テハ其利害ノ關係ヲ有スルモノハ債務者ト各債權者トノ間毫末モ異ナル處ノモノ之レアラス若シ甲債權者ノ要求ニシテ其分ヲ越ヘンカ乙債權者ノ要求スル處ハ之レカ爲メニ滅殺セラレサル可ラス即チ利害ヲ共同スルモノニテ共ニ並ヒ立テ利益ヲ保テントスルノ地位ニ之レアルモノナルカ故債務者ニ於テ之レヲ調査シ陳述ヲ爲スヲ得ルト各債權者間ニ於テ之レヲ爲スヲ得ルトハ毫モ相異ナル所之レアラサルカ故債務者ニシテ呼出ニ應シ得ルノ地位ニ在ルト否トヲ問ハス各債權者ニ付テハ必ス之レヲ呼出シ陳述ヲ爲サシメサル可ラサルコト固ヨリ明白ノ理ナリ且ツ本條ニ於テ定メタル期日ハ特リ陳述ヲ爲サシムルノ期日ニアラスシテ又配當實施ノ期日ヲモ併セ定メタルカ故若シ但以下ノ呼出ヲ要セサル規定ヲ以テ一般ニ



及アモノト爲スキハ配當實施ノコトモ亦呼出テ以テ爲スノ要ナキコト、ナラサル可ラス若シ此ノ如クナルトキハ配當上ニ於テ甚ダシキ不都合ヲ生スルコトナシト云フ可ラス而シテ呼出テ以テ配當ヲ實施スルノ規定モ之レカ爲メニ破ラル、ニ至ルヲ以テ本條但以下ノ規定ハ決シテ此ノ如キノ精神ヨリ出タルニアラスシテ唯債務者ニ限リタル規定タルコトヲ知ル可シ即チ債務者ニシテ所在明ラカナラサルカ又ハ外國ニ在ル場合ニ於テハ其債務者ノ呼出ハ之レヲ必要ト爲サストノ意ニシテ各債權者ハ之レニ係ハラス陳述ノ爲メ及ヒ配當實施ノ爲メ呼出サル可キモノタルヲ知ル可シ而シテ其債務者カ此ノ如キ事情ノ内ニ在ル場合ニ於テモ必ス之レヲ呼出ス可キコト、爲スキハ之レカ爲メニ配當ノ事ハ實施スルヲ得ス各債權者ヲシテ徒ラニ損害ヲ蒙ラシメサル可ラサルニ至ルカ故一面ニ於テハ之レヲ保護スルノ精

神ヨリ此ノ規定ヲ爲シタルモノニテ又他ノ一面ヨリ之ヲ云フキハ此ノ如キ債務者ハ自己ノ權利行爲ヲ拋棄シタル者ト見做スヲ得ヘキモノニテ已ニ配當實施ノ時ニ於テハ債務ノ存スル處モ確定シタル處ナルヲ以テ必スシモ之ヲ參與セシムルノ必要之レアラサルヲ以テナリ第二項ハ配當表ヲ關係者ニ閱覽セシムルノ規定ニシテ各關係者カ配當表ニ對シ陳述ヲ爲サントスルニハ其配當計算ノ如何ニ行ハレ居ルヤヲ熟知シタル後ニ非サレハ之ヲ爲ス能ハサルヲ勿論ナルカ故已ニ之ニ對スル陳述ヲ爲サシムル以上ハ又之ヲ閱覽セシムルコトノ規定ヲモ爲サ、ル可ラス是レ第二項ニ於テ遅クモ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ備ヘ置キ之ヲ閱覽セシム可キ者ト定メタル所以ナリ此ノ期日ハ前項ニ定メタル期日ト同一ニシテ配當實施ノ期日ヲ云フ者ナリ

## 第六百三十條 期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配



當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ  
 停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法  
 ニ從ヒテ條件ノ成否ニヨリ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更  
 ニ配當ス可シ

第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ  
 於テ未タ確定セサル債權其他異議アル債權ノ配當  
 額ハ仍ホ之ヲ供託スヘシ

配當實施ニ付テハ調書ヲ作ルヘシ

〔義解〕(一八三) 本條ハ裁判所ヨリ配當實施ノ期日ヲ通達シタル後其  
 期日到着シタル場合ヲ想像シタルモノナリ

期日已ニ至リテ異議ノ申立アラサルトキハ配當表ニ基キ配當ヲ實施  
 セサル可ラス異議ノ申立トハ第六百三十一條ニ規定スル所ニシテ該

條ニ至リ之レヲ講説ス可キカ故今茲ニハ異議ノ申立トハ配當表ニ關  
 シ各關係者ヨリ異議ヲ主張スルノ事實ヲ指セシモノタルコトヲ云フ  
 トノ一言ヲ以テ異議ノ何物タルヤヲ知了セラシメコトヲ望ム即チ期  
 日ニ至リ異議ノ申立アラサルハ配當表ハ茲ニ確定ノモノトナリ之  
 レニ基キ配當ヲ實施セサル可ラサルナリ

然レモ其債權即チ各債權者ヨリ要求シタル處ノ配當ニシテ單純ナル  
 義務ノ支拂ニ係ルハ唯計算ヲ以テ之レヲ終ルヲ得ヘキコトナレモ  
 若シ其要求ニシテ或ル條件若クハ或ル事情ニ繫リ確定セサルモノナ  
 ルハ法律上別段ノ規定ヲ以テ之レカ方法ヲ定メサル可ラス是レ第  
 二項及ヒ第三項ノ規定アル所以ナリ

停止條件付ノ債權ノ配當額トハ即チ停止未必條件付ノ債務ヲ債務者  
 ニ於テ負ヘル場合ヲ想像シタルモノニア例之ハ若シ某商品到着セハ



幾何ノ支拂ヲ爲ス可シト云フカ如キ或ハ某工事出來セハ幾何ノ支拂ヲ爲ス可シト云フノ類ニテ其支拂ヲ約シタル債務ハ某ノ事實ノ成否ニ依リテ定マル場合ヲ云フ此ノ場合ニ於テモ其要約者ノ地位ヨリ云ヘハ恰モ獨立ノ債權ニシテ唯其成否未タ確定セサルノミナルカ故若シ債務者ノ財産ニ就キ各債權者間ニ配當ヲ爲スノ事實生シタルキハ之レニ加ハリテ配當ヲ要求シ得ルコトト爲サ、ル可ラス若シ此ノ如クナラサルキハ未必條件付ノ債權者ハ債務者ノ強制執行ヲ受クルト共ニ當ニ其權利ヲ實行シ能ハサルノ地位ニ立タサル可ラサルニ至リ遂ニ其得タル權利ヲ失ハサル可カラサルコト、ナルヲ以テ等シク要求ヲ爲シ得ヘキコト、定メ本條ノ規定ヲ爲セシハ最も適當ノコト、云ハサル可ラス且ツ未必條件付ノ契約ナルモノハ其條件ノ發生ハ數年若クハ數月ノ後ニ之レアルモ已ニ之レテ發生シタルキハ其權利ハ

契約ノ當初ニ遡リ効力アルモノニテ恰モ後ニ到着シタル未必條件ノ事實ハ契約ノ當時ヨリ已ニ存立シタルト同一ノ効果アラシムルモノナルヲ以テ已ニ權利ノ存立スルニ係ハラス之レテ債務者ノ財産ノ配當ニ加ヘサル理由之レアラサルカ故停止條件ノ未タ到達セサルニ係ハラス配當要求ヲ爲シ得ヘキコト、定メタルモノナリ然レモ此ノ事タル債務者ノ地位ヨリ云フモ未タ辨濟ヲ爲ス可キ時期ニ達セサルモノナルヲ以テ其配當額ハ之レヲ供託シテ暫ラク停止條件ノ成否ヲ俟タサル可ラス而シテ若シ民法ノ規定ニ從ヒ果シテ此ノ條件到着シ債權者ノ要求確定シタルトキハ之レニ對シテ支拂ヲ爲シ之レニ反シテ其條件遂ニ到達セスシテ止ミタルトキハ更ラニ先キニ要求ヲ提起シタル債權者間ニ配當スルコト、爲サ、ル可ラサルナリ此ノ如クナルキハ未必條件付ノ債權者ト其他ノ債權者トノ間ニ最も公平ナル調和



ヲ得ルモノニテ各權利ノ存スル處ヲ盡シテ和侵スニ至ラサルヲ得ヘキナリ

第五百九十一條第三項ノ場合トハ配當要求ヲ提出シタル債權ニ付キ債務者カ之レヲ認メサルキニシテ此ノ場合ニ於テハ其認諾セサルコトノ通知アリタルヨリ三口ノ期間内ニ債權者ヨリ訴ヲ起シ其債權ヲ確定セサル可ラサルコトト定メタリ即チ要求ノ債權ニ付キ異議アルキヲ云フナリ又假差押ヲ爲シタル債權ニシテ未タ其債權確定セサルモノナルトキ其ノ他凡テ配當要求ヲ提起シタル債權ニシテ異議アルモノナルキハ果シテ其債權カ正當ノモノナルヤ否ヤハ裁判ヲ經ルニアラサレハ分明ナラサルヲ以テ之レニ向テ配當ヲ果タスコトモ爲シ能ハス又之レヲ以テ配當以外ニ置クコトモ爲シ得ヘカラス何トナレハ若シ其債權ニシテ果シテ債務者ノ抗拒スル如ク空虚ノ物ナルトキ

ニ於テ之レヲ配當シ終ルトキハ各債權者ハ其配當上ニ損失ヲ蒙ラサル可ラサルコトトナリ之レニ反シ若シ其債權ニシテ果シテ眞實ノモノナルキニ於テ之レニ對シ配當ヲ爲サ、ルトキハ之レカ爲メニ正實ナル權利者ヲ害セサル可ラサルニ至ルヲ以テナリ之レニ依リ此ノ場合ニ於テ其權利ノ確定スルマテ供託セシムルコトト爲セシハ前項ニ於テ説明シタル理由ト同一ノ理由ニ出テ最モ適當ノコトト云ハサル可ラサルナリ

末項ニ於テ配當實施ニ付キ調書ヲ作ル可キコトト定メタルハ執行裁判所ノ職務トシテ之レヲ命シタルモノニテ即チ配當上ノ顛末ハ各關係者ノ權利ニ至大ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ之レヲ調書ニ作リ其顛末ヲ明ラカナラシムルハ最モ必要ノコトタルカ故此ノ如ク定メタルモノナリ



第六百三十一條 異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者  
 ハ直チニ陳述ヲナスヘシ若シ關係人異議ヲ正當ナ  
 リト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキ  
 ハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ實施ス可シ  
 異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限り配當  
 ナ實施スヘシ

〔義解〕(一八四) 本條ハ前條ニ於テ配當期日到達シ異議ノ申立之レ  
 アサルキハ配當ヲ實施ス可キコトト定メタルニ繼キ異議ノ申立之レ  
 アリタルキハ如何ス可キヤノコトヲ定メタルモノナリ異議ノ申立ト  
 ハ債務者及ヒ各債權者カ配當表ニ對シ之レヲ認メスシテ更正セシメ  
 ノコトヲ求ムルコトニシテ即チ配當表ノ定ムル處ヲ不當ナリト異議  
 スルモノナリ異議ノ申立之レアリタル場合ニ於テハ他ノ債權者ハ直

チニ之レニ對シ陳述ヲ爲サ、ル可ラス陳述トハ即チ其異議ニ對スル  
 當否ノ陳述ニシテ此ノ場合ニ於テハ債務者ヨリ差押ヲ爲シタル財産  
 ハ恰モ各債權者間ノ財團トナルモノニテ其配當表ハ取リモ直サス各  
 債權者ノ權利ヲ定ムル處トナルモノナルカ故關係人ニ於テ其異議ヲ  
 正當ナリト認ムルトキハ申立人ノ求ムル處ニ從ヒ之レヲ更正セサル  
 可ラス又之レヲ認メストスルモ他ノ方法ヨリシテ各債權者間ノ調和  
 成リ其異議ニ合意シタルトキハ之レヲ更正セサル可ラス固ヨリ此ノ  
 配當表ナルモノハ唯各債權者ノ要求ヲ調和シテ各個ヲシテ公平ノ配  
 分ヲ得セシムルノ目的ニ外ナラサルカ故已ニ各關係者ニ於テ調和ス  
 ルトキハ其欲スル處ニ從ヒ其財團ヲ處分セシムルコト當然ニシテ其  
 調和シタル所ニ從ヒ配當表ノ更正ヲ爲シ配當ヲ實施ス可キコト、定  
 メタルモノナリ然レモ若シ其異議ニシテ各關係者間ニ於テ調和スル



所ナシ異議完結セサル場合ニ於テハ配當ヲ實施スルヲ得サルコト、ナルカ故殊ニ其異議アル部分ヲ除キ他ノ異議ナキ部分ノミニ付キ配當ヲ實施スルコト、爲セシモノナリ

第六百三十二條 期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表

ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス

若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申

立タル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議

ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

〔義解〕(一八五) 本條ハ配當期日ニ出頭セサル債權者ニ關スル規定ナリ若シ裁判所ヨリ配當實施ノ期日ヲ定メ之レヲ通達シタルニ係ハラズ其期日ニ出頭セサル債權者ノ如キハ法律上ノ推測ヲ以テ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做スハ最モ適當ノ規定ナリトス若シ其配

當表ニ付キ異議ヲ唱ヘントスル者ナレハ期日ニ出頭シテ之レカ陳述ヲ爲サ、ル可ラス其陳述ヲ爲サ、ルトキハ異議ヲ主張スルヲ得サルモノナリ已ニ此ノ如クナルトキハ配當表ノ實施ニ付キ不服アル者ハ必ス出頭シテ之レカ陳述ヲ爲スモノト看做サル可キカ故之レト共ニ其出頭セサル者ヲ以テ之レカ實施ニ同意シタル者ト見做スハ自然ノ關係上當サニ然ラサル可ラサル所ナリ是レ第一項規定ノ精神ナリトス然レモ此ノ規定タル假令ヒ之レアラスト、スルモ期日ノ經過ハ異議ノ主張ヲ杜絶スルニ至ルカ故自然ノ結果ニ於テモ亦同意シタル者ト見做サル可ラサルナリ

而シテ本條ハ寧ロ第二項ニ於テ大ニ規定ノ必要アルヲ見ルナリ即チ第二項ハ配當表ニ對シ異議ヲ主張スルモノアルト若シ期日ニ出頭セサル債權者アルトハ其債權者ハ異議ニ同意ヲ表セサルモノト見做ス



トノ規定ヲ爲セリ此ノ規定ハ最モ必要ニシテ若シ出頭シタル債權者ニ於テ異議ノ主張ニ合意スルモ出頭セサル債權者カ如何ナル思想ヲ有スルヤハ之レヲ知ル可ラス然ラハ其異議ヲ容認シタルモノト看做サンカ此ノ異議タル新タニ起リタル處ノモノニシテ曾テ欠席債權者ノ知ラサリシ處ナリ特リ之レヲ知ラサルノミナラス異議ノ提出セラシル可キコトモ亦知リ得ヘカラサルコトニ繋ルモノナリ之レヲ如何ソ其異議ヲ容認シタルモノト見做スヲ得ンヤ且ツ法律上ノ推測ニ於テハ已ニ裁判所ニ於テ作ラシタル配當表ニ満足シ之ヲ認メタルカ故出頭セサルモノト看做サル可ラサルコト當然ノコトナルヲ以テ之ト反對ノ場合即チ新ニ生シタル異議ノ申立ニ付テハ當ニ反對ノ意見即チ配當表ノ定ムル所ヲ以テ異議シ得ヘカラサルモノト見做サルヘカラサルモノアルニ於テテヤ故ニ第一項ニ於テ法律上當然ノ推測ヲ以

テ配當表ヲ容認シタル者ト看做シタルト共ニ新タナル異議ニ付テハ同意セサルモノト見做ストノ規定ヲ取リシハ甚ダ理ニ適シタル規定ト云ハサル可ラス要スルニ本條ノ二項ハ相待テ全キヲ得ルモノニテ第一項ハ一般法律上ノ推測ヲ規定シ第二項ハ此ノ推測ニ反スル例外ノ事實ハ之レヲ否認シタルモノト見做ストノ事ヲ明ラカニシ配當上ニ生ス可キ問題ヲ決定シタルモノナリ

第六百三十三條 期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立タル債權者ハ他ノ債權者ニ對シ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明スヘシ若シ其期間ヲ徒過シタルトキハ裁判所ハ異議ニ拘ラス配當ノ實施ヲ命スヘシ

〔義解〕(二八六) 本條ハ異議ヲ申立タル債權者カ盡ス可キ責任ヲ明ラ



カニシ其異議ノ目的ヲ全フス可キ方法ヲ定メタルモノナリ  
 配當實施ノ際ニ於テ異議ヲ申立テ此ノ異議各債權者ノ認ムル處ト爲  
 ラス配當ヲ實施シ能ハサルニ至リタルキハ其異議申立者ハ訴ヲ以テ  
 異議ノ理由ヲ主張セサル可ラス而テ其判決ノ定ムル所ニ依リ配當ノ  
 一ハ行ハサル可ラサルモノニテ此ノ場合ニ於テハ七日ノ期間内ニ他  
 ノ債權者即チ異議ヲ認メサル各債權者ヲ相手方トシ訴ヲ起シタルト  
 テ同一ノ期間内ニ執行裁判所ニ證明セサル可ラス此ノ證明ハ出訴ヲ  
 爲シタル裁判所ニ於テ受理シタル番號其他ノ事實ヲ以テ果シテ出訴  
 シタルトテ證シ得ルノ方法ヲ具ヘ之ヲ爲サ、ル可ラサルナリ執行裁  
 判所ニ於テハ其證明アリタル場合ニ於テハ其裁判ノ結果ヲ知ルマテ  
 配當ノ實施ヲ中止セサル可ラス即チ配當ヲ要求スルノ權利ハ此ノ訴  
 ノ爲ニ拘束セラル、ニ至ルモノナリ然レモ若シ七日ノ期間内ニ之カ

證明ヲ爲サ、ルキハ執行裁判所ハ其訴ノ事實ヲ進テ調査スルノ必  
 要之アラサルヲ以テ異議ニ拘ラス配當ヲ實施セサル可ラス即チ異議  
 ヲ爲シタル者アルニ係ラス先キノ配當表ヲ以テ適實ノモノト見做シ  
 配當表ニ基キ之カ實施ヲ命シ得ルナリ故ニ異議ノ申立ハ權利拘束  
 ノ結果ヲ生ス可キモノニアラス訴ヲ起スニ至リ初テ之カ拘束ヲ受ク  
 可キモノニテ尙ホ其訴ヲ爲シタル事實ヲ證明スルニ非サレハ執行裁  
 判所ハ之カ實施ヲ命スルヲ得又之ヲ命セサル可ラサルモノナリトス

**第六百三十四條 異議ヲ申立テタル債權者前條ノ期  
 間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受  
 ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權  
 利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラルルコトナシ**

(義解) (二八七) 本條ハ異議ヲ申立タル債權者カ出訴及ヒ證明ノ期間



ヲ怠リ之レテ徒過シタル時ニ於テ特別ノ原因ヨリシテ尙ホ出訴ヲ爲シ得ルコトヲ定メタルモノナリ

一般ノ債權者ニシテ配當表ノ計算等ニ對シ異議ヲ主張シタル後前條ニ定メタル期間ヲ徒過シ配當實施ニ至リタルハ已ニ其權利伸暢ノ道ヲ失ヒ如何ニ爲シ能ハサルコトナレド其異議ニシテ民法上ニ規定シタル優先權ヲ原由トシ之レテ主張スル者ナルハ前條ノ期間ヲ徒過スルモ各債權者ニ對シ訴ヲ以テ之レテ爭フノ權利ヲ妨ケラル、コトアラズ優先權ヲ主張スルトハ抵當權又ハ質權等ヲ理由トシ債務者ニ對シ強制執行ヲ果タシタル其收得ニ付キ他ノ債權者ヲ排除シ之レカ權利ヲ行フテ得ル場合ヲ云フ即チ異議ヲ申立タル債權者ハ其期間ヲ怠リ已ニ配當實施ニ至リタル後ト雖モ其權原カ各債權者ニ對シ優先權ヲ以テ爭フコトニ係ルハ其期間ノ徒過ハ出訴ノ權利ヲ妨クル

モノニアラス蓋シ優先權ヲ有スル債權者ハ法律ノ規定ニ基キ其權利ノ本原ニ於テ已ニ確實ナル根據ヲ有スル者ナルヲ以テ何人ト雖モ之レテ侵シテ其權利ヲ傷クルヲ得サルモノナリ故ニ一旦強制執行ノ結果ニ依リ各債權者間ニ配當セラレタルコトアリトスルモ訴ヲ以テ其權利ヲ證明シ其已ニ定マレル權利ヲ求ムルハ如何ナル場合ニ於テモ之レテ爲スヲ得セシメサル可ラス其各債權者間ニ於テ優先權ヲ有スル者アルニ係ハラス配當ヲ實施シ終リタル如キハ自ラ有セサル又ハ有スル能サル財團ニ付キ處分ヲ爲シタルコトタルヲ以テ之レニ對シ訴ヲ受ケ果シテ優先權ノ實アル場合ニ於テ之レニ一步ヲ讓ル可キハ當然ノコト、云ハサル可ラス是レ債務者ノ財産中一般ノ債權者ニ於テ隨意ノ配當ヲ爲シ能ハサル部分ニ付キ配當ヲ實施シ之レカ爲メニ一方ノ權利ヲ傷ケタルモノタルヲ以テナリ



第六百三十五條 異議ヲ申立テタル債權ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限リニアラス

〔義解〕(一八八) 本條ハ配當實施ニ臨ミ異議ノ申立テ爲シタル債權者アリ而シテ各債權者トノ調和成ラス訴ヲ以テ異議ヲ主張セントスル場合ニ於テ之レカ管轄ノコトヲ規定シタルモノナリ  
本條ノ規定ニ依レハ此ノ訴ハ配當裁判所ニ於テ之レヲ管轄ス可キモ

ノト爲セリ配當裁判所トハ取リモ直サス本條ニ至ルマテ見來リタル執行裁判所ノコトニテ執行裁判所トハ即チ債務者若クハ其財産所在地ノ區裁判所ノコトナリ此ノ管轄區裁判所ハ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ執行裁判所ト云ヒ已ニ執行ヲ終リ配當ヲ爲スキニ於テハ配當裁判所ト稱スルナリ本條異議ノ訴ヲ以テ配當裁判所ニ於テ管轄ス可キモノト定メタルハ配當裁判所ハ最モ其配當上ノ事ニ關シ調査ノ便宜ヲ有スルノミナラス又其結果ニ依リ配當ヲ實施スルコトナルカ故關係者ニ付テ之レヲ云フモ之レヲ以テ管轄ト定ムルハ最モ利便ヲ得ルコトナルカ故此ノ如ク定メタルモノナリ然レモ若シ其訴訟物ノ價格ニシテ區裁判所ノ管轄ニ屬セス地方裁判所ニ於テ管轄ス可キモノナルキハ配當裁判所ヲ管轄スル地方裁判所ニ於テ之レヲ管轄セサル可クテ其普通ノ管轄地方裁判所ニ於テセスシテ配當裁判所ヲ管轄スル地



方裁判所ノ管轄ト爲セシモノ又右ニ述ヘタル所ノ便宜ヲ得セシメン  
 カ爲メタルニ外ナラス而シテ異議ノ訴ニシテ一ニ止マラス數多並ヒ  
 起リタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所ニ於テ管轄シタルモ其他  
 ノ訴モ亦之レヲ管轄ス可キモノト定メタルハ地方裁判所ハ上級ノ裁  
 判所ナルカ故配當裁判所ニ於テ管轄ス可キ事物ノ管轄ヲ併セ爲スモ  
 之レカ爲メニ訴訟關係人ニ不利益ヲ與フルカ如キ結果之レアラサル  
 ノミナラス審理上ニ於テモ最モ便宜ヲ與フ可キカ故已ニ地方裁判所  
 ニ於テ一ノ異議ノ訴ヲ管轄シタルモ其他ノ訴ヲモ併セテ管轄ス可  
 キモノト定メ之レカ便宜ヲ得セシメタルモノナリ  
 然レモ是レ一般ノ場合ニ付テ爲シタル規定ニシテ若シ各債權者間ニ  
 於テ凡テノ異議ニ對シ配當裁判所ノ管轄ヲ合意シ配當裁判所ノ裁判  
 ヲ以テ満足スルコトニ決シタルモハ法律ハ必スシモ之レカ管轄ニ干

涉シテ左右スルコト之レアラズ即チ合意ヲ以テ管轄ヲ變スルノ自由  
 ヲ與ヘ各債權者ノ欲スル所ニ從ヒ配當裁判所ヲシテ之レカ管轄ヲ爲  
 サシム可キコトト定メタルモノナリ

**第六百三十六條 異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配  
 當額ノ係争部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額  
 ナリテ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ適當トセ  
 サルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ配  
 當手續ヲ命ス可シ**

〔義解〕(一八九) 本條ハ異議ノ訴ヲ管轄スル裁判所ハ如何ナル點ニ付  
 キ判決ヲ與フ可キモノナルヤノコトヲ定メタルモノナリ即チ異議ノ  
 訴ニ付テ裁判ヲ下スモハ其判決ヲ以テ配當額中訴訟ノ目的ト爲レル  
 争ヒノ部分ニ付キ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ支拂フ可キヤノ



コトヲ定メサル可ラス是レ判決ノ要旨ニシテ此ノ訴タル配當表ニ於テ定マレル所ノモノヲ以テ異議アリト爲シ此ノ部分ニ付テハ此ノ如キ配分ヲ爲サル可ラスト云フヲ以テ訴ノ本旨ト爲スモノナルカ故果シテ其訴フル處理アルヤ否ヤヲ調査シ之レカ判決ヲ與ヘントスルニハ勢ヒ其配當ノ如何ニ成立テルヤヲ調査シ此ノ部分ハ此ノ如ク更正ス可シト云フカ如キ又或ハ之レヲ削リテ彼レニ加フ可シト云フカ如ク係争ノ部分ニ付キ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ支拂フ可キヤノコトヲ判決セサル可ラサルナリ是レ最モ明白ナル理由ニシテ此ノ訴訟ノ本旨ハ此ノ如キ判決ヲ求メントスルヨリ起ルモノナルカ故之レニ對シ此ノ如キ判決ヲ與フ可シト規定シタルハ恰モ訴訟ノ本旨ニ付テ判決ヲ與フ可シト云フニ異ナラス之レカ規定ヲ待テ知ル可キコトニアラサルナリ故ニ本條ノ規定モ其精神ハ若シ以下ノ文字ニテ

ルコトヲ知ラサル可ラス即チ若シ之レヲ定ムルヲ以テ適當トセサルキトハ其配當表甚ク錯雜ニ涉リ誤謬少ナカラスト爲スキニ於テ先キニ成立タル配當表ヲ悉ク廢毀シ更テニ新タナル配當表ヲ作ル可キコト及ヒ他ノ配當手續ヲ行フ可キコトヲ命セサル可ラス此ノ命令ハ配當裁判所ニ對シテ効力ヲ有ス可キモノニテ其判決ニ從ヒ配當裁判所ハ更テニ新タナル配當手續ヲ開始シ配當表ヲ作ラサル可ラサルナリ而シテ此ノ後段ノ場合ニ於テ成立タル配當表ニ對シテモ各關係者ハ異議ヲ主張スルヲ得ヘキハ法律ノ明文ニ於テ之レヲ示スモノ之レアラスト雖モ其精神ヲ推シテ知リ得ヘキコトナリトス

**第六百三十七條 異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス旨ノ闕席判決ヲ爲スヘシ**



〔義解〕(一九〇) 本條ハ異議ヲ申立タル債權者即チ訴ヲ以テ異議ヲ主張スル債權者ニ於テ其異議ノ裁判ヲ爲スニ臨ミ口頭辯論ニ欠席シタルルルノ規定ヲ爲シタルモノナリ本來此ノ訴タル裁判所ニ於テ已ニ相當ノ手續ヲ經盡シ調製シタル配當表ニ對シ異議ヲ主張スルコトニ係ルヲ以テ恰モ第一審ノ判決ニ對シ上訴ヲ提起シタルルト同一ノ事情ニ座スルモノナリ故ニ口頭辯論ノ期日ニ於テ此ノ異議ノ訴ヲ提起シタル者ニ於テ出頭セサルルルハ之ヲ異議ノ取下ヲ爲シタルモノト看做シ欠席判決ヲ以テ配當表ノ定ムル處ヲ認可スルコト、爲セシハ最モ適當ノ規定ト云ハサル可ラス即チ此ノ欠席判決ハ欠席ノ儘ニテ事實ノ當否ヲ鑑査判定スルノ必要ナク配當表ノ定ムル處ニ服從シテ異議ヲ取下ケタルモノト見做シテ却下ノ判決ヲ與フルヲ以テ足レリト爲セシモノナリ故ニ此ノ判決ハ本案ヲ調査セスシテ全躰ヨリ却下スルニ

アルコトヲ知ラサル可ラサルナリ

第六百三十八條 前二條ノ判決確定ノ證明アルトキ

ハ配當裁判所ハ其判決ニ基キ支拂又ハ他ノ配當手

續ヲ命ス

〔義解〕(一九一) 本條ハ異議ノ訴已ニ終了シタル後配當實施ニ關スル規定ヲ爲セシモノナリ前二條ノ判決トハ即チ第六百三十六條ニ依リ本案ノ判決ヲ與ヘタルルル及ヒ第六百三十七條ニ於テ却下ノ判決ヲ與ヘタルトキノコトニテ異議ノ訴ニ關スル判決ノ凡テヲ云フナリ此ノ判決ニシテ確定シタル場合ニ於テハ配當裁判所ハ其證明ニ依リテ支拂ヲ爲シ又ハ他ノ配當手續ヲ爲サル可ラス判決ニ基キ支拂ヲ爲スニハ三个ノ場合アリ第一本案ノ判決ヲ以テ異議主張者ノ申立ヲ却下シタルルル第二本案ノ判決ヲ以テ異議主張者ノ申立ヲ理アリト爲シ配



當方法ニ付キ判決ヲ與ヘタルモ第三異議申立人ニ於テ口頭辯論ノ期日ニ欠席ヲ爲シ異議ヲ取下ケタルモノト看做ストノ判決ヲ與ヘタルモ即チ此ノ三ノ場合ニ於テ其判決確定ニ至リタルモハ其確定判決ニ基キ支拂ヲ爲サ、ル可ラサルナリ

本條ニ於テ又ハ他ノ配當手續ヲ爲スコシト定メタル場合ハ第六百三十六條末段若シ以下ノ規定ニ依リ異議ノ訴ヲ管轄シタル裁判所ニ於テ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ支拂フ可キヤノ判決ヲ下スヲ以テ不適當ナリトシ新メナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命シタルモ之レカ開始ヲ爲スコキコトヲ云フナリ即チ判決ノ確定スル處ニ基キ配當裁判所ニ於テ判決ヲ執行セサル可ラサルコトヲ明言シタルモノタルニ外ナラサルナリ

第六百三十九條 裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續

ヲ爲シ配當ヲ實施ス可シ

債權全部ノ配當ヲ受クヘキ債權者ニハ配當額支拂證ヲ交附スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交附スヘシ

債權一分ノミノ配當ヲ受クヘキ債權者ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シテ返還シ且ツ配當額支拂證ヲ交附スルト同時ニ右債權者ヨリ金額ヲ證記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交附スヘシ

期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託スヘシ



右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明  
確ニス可シ

〔義解〕(一九二) 本條ハ又配當裁判所ニ於テ配當上ニ關シ行フ可キ手  
續ヲ規定シタルモノナリ即チ第二項以下ニ於テ定メタル方法ハ配當  
ヲ實施スルノ方法ニシテ配當ハ此ノ手續ニ依リテ終了セラル可キモ  
ノナリ

配當表ノ定ムル處ニ依リ債權ノ全部ヲ受ク可キ債權者アルトキハ配當  
額支拂證即チ配當裁判所ヨリ如何ナル債權ニ付キ幾何ノ支拂ヲ爲ス  
可シト云ヘル命令證ヲ發スルトキニ於テ執行力アル正本若クハ債權證  
書ヲ提出セシメ之レト引キ代ヘシメ其執行力アル正本又ハ債權證ハ  
之レヲ債務者ニ還付セサル可ラス蓋シ此ノ配當要求ヲ爲ス者ハ必ス  
シモ執行力アル正本ヲ所持スル者ノミニアラズ執行力アル正本ヲ有

セスト雖モ債權證書ニ依リ配當ヲ要求シ債務者ニ於テ之レヲ容認シ  
各債權者モ亦異議スル所之レアラサルトキ若クハ異議ニ付キ訴ヲ以  
テ確定シタルトキハ債權證書ノミヲ以テ要求ヲ爲シ得ヘキコトナル  
カ故或ハ債權證書ノミヲ還付セシムルコトトナリ又テ執行力アル正  
本ヲ有スルモノニ係ルトキハ之レヲ還付セシムルコトトナルヲ以テ  
二个ノ場合ヲ定メタルモノナリ之レヲ還付セシメテ債務者ニ交付ス  
ルトキハ辨濟ノ證トナルカ故之レヲ配當裁判所ノ職務トシテ行フ可キ  
コトト定メタルモノナリ

然レモ配當ノ實施ニ依リ其支拂ハ債權ノ全部ニ及フテ得ス只之レカ  
一部ノミノ支拂ニ止マルトキハ之レカ還付ヲ命スルヲ得サルカ故其執  
行力アル正本又ハ債權證書ニ配當額ヲ記入シテ之レカ返還ヲ爲シ債  
權者ヨリ更ラニ金額ヲ證記シタル受取證ヲ差出サシメ之レヲ債務者



ニ交付セサル可ラス是レ一部ノ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ盡ス可キ適當ノ方法タルナリ

第三項ハ配當實施ノ期日ニ出頭セサル債權者ノコトニ關スル規定ニシテ其配當額ハ仍ホ之レヲ供託ス可キモノト定メテ強制競賣ヲ終リテヨリ配當實施ニ至ルマテハ其金額ハ供託セサル可ラサルコトハ第五百九十三條ニ於テ規定シタル所ニシテ即チ數多債權者ノ間ニ於テ配當ノ協議調ハサルトキニ於テ配當手續ナルモノヲ行フコトニ係ルカ故配當手續ノ規定ニ依リ配當ヲ實施スルルハ常ニ其金額ハ供託セラレアルモノタルコトヲ知ル可シ故ニ期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ニ付テハ尙ホ其供託ヲ續ケサル可ラサルコト、定メタルモノナリ

右ノ手續ヲ爲シタルル即チ本條ノ各項ニ定メタル手續ヲ盡シタルルニ於テ之ヲ調書ニ記載シテ明確ナラシム可キコト、定メタルモノハ又配當裁判所ニ對スル規定ニシテ此ノ調書ニ依リ配當ノ如何ニ終了セラレタルヤハ知ラル可キモノナルヲ以テ異日優先權ヲ以テ各債權者ニ對シ請求スルカ如キ者出ルニ於テハ證據ノ根據トシテ必要ナルヲ以テ此レヲ明確ニ保タシメタルハ法律ノ注意ヲ盡シタルモノト云フ可キナリ

### 第三節 不動産ニ對スル強制執行

前節ハ動産ニ對シ強制執行ヲ行フ方法ヲ定メタルモノニテ第五百六十四條以下前條ニ至ルマテ論說シタル處ノ如シ動産ト不動産トハ其性質ノ異ナルニ從ヒ之レニ對シ強制執行ヲ爲スニ於テモ大ニ相異ナル所之レアラサル可ラス即チ本節ニ於テ不動産ニ對スル強制執行ニ付キ之レカ規定ヲ異ニシタル所以ナリ



### 第一款 通則

第一款ハ即チ不動産ニ對スル強制執行ニ付キ一般ノ規定ヲ爲セシモノニテ全節ニ通シ適用ス可キ規定ナリトス

第六百四十條 不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

#### 第一 強制競賣

#### 第二 強制管理

債權者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇ノ方法ヲ合セテ執行セシムルコトヲ得

強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲メニモ亦之ヲ爲ス

〔義解〕(二九三) 本條ハ不動産ニ對スル強制執行ハ如何ナル方法ヲ以テ之レヲ爲ス可キモノナルヤヲ規定シ第一ヲ強制競賣ト爲シ第二ヲ

強制管理ト定メタリ蓋シ不動産ニ於テハ動産ト異ナリ之レヲ管理スルノミニテ自然ノ收益ヲ生ス可キ性質ヲ有スルカ故或ル場合ニ於テハ之レヲ競賣シテ債務ノ補償ニ供シ又或ル場合ニ於テハ唯之レヲ管理シテ自然ニ生ス可キ收益ヲ以テ債務ヲ補償セシムルノ便宜ヲ有スルモノナリ

強制競賣ノコトハ第二款ニ規定シタル所ニシテ其方法等ニ付テハ各條定ムル處ニ從ヒ之レカ講説ヲ爲ス可ク要スルニ其不動産ヲ競賣シ賣得金ヲ以テ債務ヲ償ハシムルノ方法ヲ定メタルモノタルコトヲ知ル可ク又強制管理ノコトハ之レヲ第三款ニ至リテ講説ス可ク其方法ハ不動産ノ使用收益及ヒ處分ノ權利ヲ債務者ニ爲サシメス之レカ管理ヲ強制シテ之レヨリ生スル處ノ收益ニ依リ債權者ノ要求ヲ辨濟セシムルノ方法ナリ其精細ナル方法ニ至テハ後ニ各條ヲ説クノ時ニ於



ヲ知り得ヘキコトナルヲ以テ今茲ニハ其大體ニ付キ此ノ二方法ハ此ノ如キ區別ノ存スルコト及ヒ不動産ニ對スル強制執行ハ此ノ相異ナルニ方法ニ依リテ行ハレ得ヘキコトヲ知了セサル可ラス  
 已ニ不動産ノ強制執行ヲ以テ此ノ二個ノ方法ニ依ルヲ得セシメタルカ故債權者ハ其選擇スル處ニ從ヒ其一ノ方法若クハ二個ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得ルコトト爲セリ然レモ其目的物タル不動産ニシテ一個ナルキハ已ニ強制競賣ヲ爲サシムルノ一事ニ依リ不動産ニ對スル處置ハ之ヲ行フ能ハサルニ至ルカ故之ヲ競賣ニ付シテ尙ホ強制管理ヲモ求ムルト云フカ如キコトハ事實上爲シ能ハサル處ヲサレ可ラス又強制管理ノ方法ヲ以テ之ヲ續行セントスルトキハ競賣ヲ爲ス能ハサルハ最モ看易キ處ナリ故ニ此ノ二個ノ方法ヲ併セ行フハ其目的物二個以上ニ涉ルトキヲ豫想シタルモノタルコト

ヲ知ル可シ然レモ或ハ時トシテ曾テ強制管理ヲ求メタル不動産ニ對シ更ラニ之ヲ變更シテ強制競賣ヲ求ムルカ如キコトハ必スシモ禁スル所ニ之レアラサル可シ此ノ場合ニ於テモ二個ノ方法ヲ併セ行フニアラスシテ一ノ方法ヲ變シテ他ノ方法ト爲スモノタルヲ以テ法律ノ精神ハ二個以上ノ不動産ヲ目的トシタルトキニ付テノ規定タルコトヲ知ル可キナリ

強制管理ヲ假差押ノ執行ノ爲メニモ亦之ヲ爲ス可キモノト定メタルハ強制管理ノ性質ニ於テ敢テ不動産ノ所有權ヲ轉スルモノニ之レアラシテ唯管理ヲ強制シ該不動産ニ對シ債務者ノ隨意ノ處置ヲ許サハルコトタルカ故之レヲ假執行ニ適用スルモ決シテ回復ス可カラサル危険ノ生スルコト之レアラサルノミナラス却テ最モ適當ナル差押方法ヲ得ヘキカ故強制管理ニ限リ之レヲ假差押ノ執行ニモ適用シ



得ルコトト定メタルモノナリ

第六百四十一條 不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地ノ區裁判所執行裁判所トシテ之レヲ管轄ス其不動産數箇ノ區裁判所ノ管轄區内ニ散在スルトキハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス

強制執行ハ申立ニヨリテ裁判所之レヲ爲ス

〔義解〕(一九四) 本條ハ不動産ニ對シ強制執行ヲ爲ス場合ニ於テ何レノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲ス可キヤノコトヲ定メタルモノナリ本條ノ規定ハ第二十三條ノ規定ト同一ノ精神ヨリ出ルモノニテ凡テ不動産ヲ目的トスル訴訟ニ付テハ不動産所在地ノ地ヲ以テ管轄ト定ムルコトナルカ故強制執行ヲ爲スニ付テモ亦不動産所在地ノ區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト定メタルモノナリ蓋シ不動産ニ對スル訴訟ニ付

キ其所在地ヲ以テ之レカ管轄ト定ムルハ數多ノ便益ヲ有スルヨリシテ然ルモノナレトモ執行ノ場合ニハ殊ニ其便益ノ大ナルヲ知ル可シ何トナレハ訴訟ニ於テハ不動産ノ形狀義務ノ基本等ヲ知ルノ便益ニ止マルモノナレトモ已ニ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ直接ニ該不動産上ニ手ヲ下シテ之レカ處置ヲ爲サ、ル可ラサルコトナルカ故若シ不動産所在地以外ノ場所ニ於テハ事實爲シ能ハサルコト少ナカラストセス即チ不動産ニ對シ管理ヲ命シ若クハ競賣ヲ爲サシムルカ如キ之レヲ不動産所在地以外ノ所ニ於テ行ハントスルモ甚々困難ニシテ遂行シ得ヘカラサルコト多シトス之レヲ以テ不動産ニ對スル強制執行ニ付キ其所在地ノ區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト定メ其困難ヲ避ケシメタルモノニテ此ノ困難タル一面ヨリ之レヲ云ヘハ當事者間ニ不利益ナル事實タルカ故其利益ヲ保タシメンカ爲メ本條ノ規定ヲ取リタルモノ



ト云フモ可ナリ

然レモ強制執行ヲ爲ス可キ不動産數多ニシテ且ツ數箇ノ區裁判所管内ニ散在スルキハ之レヲ如何ス可キヤ本條前段ハ唯一般ノ場合ニ付キ規定ヲ爲シタルニ止マルカ故若シ此ノ規定ノミニ止マルトキハ數區裁判所管内ニ散在スル不動産ニ對シ強制執行ヲ求メントスル債權者ハ其孰レニ就テ之レヲ求ムルヲ以テ適當ト爲ス可キヤ之レヲ知ルヲ得ス若シ其執行裁判所ノ管轄ニ付キ異議アル場合ニ於テハ如何ニ之レカ決定ヲ與フ可キヤモ亦知ル能ハス是レ本條ニ於テ「若シ以下ノ」法文ヲ以テスル場合ヲ豫想シ法律上ノ決定ヲ與ヘタル所以ナリ

本條ハ右ノ場合ニ於テハ第二十六條ノ規定ヲ適用ス可キモノト定メタリ故ニ今試ニ第二十六條ニ就テ其ノ規定ヲ考フルニ該條ハ管轄裁判所ノ指定ヲ定メタルモノニテ「管轄裁判所ノ指定ハ裁判所構成法ニ

定メタル場合ノ外尙ホ不動産上ノ裁判籍ニ訴ヲ起ス可キ場合ニ於テ不動産カ數箇ノ管轄區内ニ散在スルトキモ亦之レヲ爲スト規定セリ即チ茲ニ規定シタル如キ場合ニシテ同第二十七條及ヒ第二十八條ノ規定ニ依リ尙ホ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從ヒ直近上級裁判所ニ於テ其何レニ於テ管轄ヲ爲ス可キモノナルヤヲ判定ス可キモノナリ蓋シ不動産ニ對スル強制執行ハ不動産所在地ヲ以テ其管轄ト定ムルトノ規定ヨリ云フトキハ此ノ如ク數多區裁判所管轄内ニ其不動産カ散在スル場合ニ於テハ各區裁判所ニ於テ管轄ス可キコトト爲リ其管轄數多ニ分レサル可カラサルコトト爲ル可シ若シ然ルキハ一ノ債務者ニ對シ一ノ債權者ノ執行ヲ數多ニ分別セサル可カラサルコトト爲リ甚テ不都合ヲ生スルノミナラス之レカ爲メニ無用ノ勞費ヲ爲サル可ラサルカ故之レヲ合一シテ一ノ裁判所ニ於テ管轄ス可キコトト



爲スハ最モ適當ノコトト云ハサル可ラス而シテ之レヲ合一セントスルニハ勢ヒ其管轄權ニ對シ之レカ指定ヲ爲ス可キ必要アルヲ以テ之レヲ第二十六條ノ規定ニ依リ更ラニ裁判所構成法第十條ニ從ヒ決定セシム可キコトト定メタルモノニテ之レヲ爲スハ事實上止ムヲ得サルコトト云ハサル可カラサルナリ

動産ニ對シ強制執行ヲ爲ス場合ニ於テハ執行文ニ基キ差押ニ依リ之レヲ行フコト、定メタリ而シテ其差押ハ執達吏ニ於テ之レヲ爲ス可キモノナルカ故動産物ノ強制執行ハ執達吏之レヲ爲スト云フヲ得ヘシ面シテ不動産ニ對スル強制執行ハ殊ニ之レヲ分別シテ本條末項ニ規定スルカ如ク申立ニ依リ裁判所之レヲ爲スコト、定メタリ是レ法律カ動産ト不動産トノ間ニ設ケタル區別ニシテ不動産ハ之レヲ動産ニ比スレハ最モ貴重ニシテ又容易ニ其權利ヲ廢移ス可カラサルモノ

ナルカ故殊ニ裁判所ヲシテ之レヲ爲サシム可キモノト定メタル所以ナリ蓋シ執達吏ニ於テ其執行ヲ終ルト之レヲ裁判所ニ於テ爲ストハ其手續上ニ於テモ大ニ相異ナル所アリ最モ鄭重ニシテ且ツ不測ノ損失ヲ蒙ラシムルカ如キ憂ヒテ防カンカ爲メ殊ニ裁判所ヲシテ之レヲ爲ス可キモノト定メタルモノナリ而シテ裁判所ニ於テ之レカ執行ヲ爲スハ請求者ノ申立ニ依ルモノニテ裁判所ハ此ノ申立ニ因リテ其執行ヲ爲ス可キモノトス

以上本條ノ規定ヲ要言スレハ不動産ニ對スル強制執行ハ不動産所在地ノ區裁判所ニ於テ執行裁判所トシテ之レカ管轄ヲ爲シ若シ其不動産數多ノ區裁判所管内ニ散在スルトキハ之レヲ合一シテ一ノ區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト定メサル可カラス之レカ指定ハ裁判所構成法第十條ニ從ヒ直近上級裁判所ニ於テ之レヲ爲ス可キコトナリ其此ノ



如クニシテ定マリタル執行裁判所ハ申立ニ因リ不動産ノ強制執行ヲ爲ス可キコト之レナリ

### 第二款 強制競賣

本款ノ規定ハ不動産ニ對スル強制執行ノ方法トシテ定メタル第一ノ強制競賣ニ關スル規定ナリ即チ債務者ノ所有ニ屬スル不動産ニ對シ之レテ強制シテ競賣ニ附シ以テ債權者ノ債權ヲ補償セシムルノ方法ヲ定メタルモノナリ要スルニ本款規定ノ各條ハ不動産ノ競賣ニ於テ適用セラル可キモノナリトス

## 第六百四十二條 強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 債權者債務者及ヒ裁判所ノ表示

第二 不動産ノ表示

第三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義

〔義解〕(一九五) 本條ハ強制競賣ヲ請求スル債權者ニ於テ之レカ申立ヲ爲スニ付キ其申立中ニ具備セサル可カラサル事項ヲ規定シタルモノニテ即チ前條ニ於テ強制執行ハ申立ニ因リ裁判所之レテ爲スト規定シタル其規定ヨリ出ル所ノモノニテ申立トハ如何ナルコトナルヤヲ明示シタルモノナリ

本條ニ於テハ申立ニ於テ具備ス可キ要件トシテ三个ノ事實ヲ數ヘテリ即チ第一ハ債權者債務者及ヒ裁判所ノ表示ニシテ債權者誰某ヨリ債務者誰某ニ係リ何レノ裁判所ニ向テ其執行ヲ求ムト云フコト之レナリ此ノ事タル已ニ申立ヲ爲サントスルニハ必ス欠ク可カラサル事項ニシテ債權者債務者ノ如キハ之レカ執行ヲ爲シ及ヒ之レテ爲サシ



ムルノ本體タルヲ以テ之レカ執行ヲ求メントスルニハ債權者タル者ノ見ハレスシテ行ハル可キコトニアラス債務者モ亦之レヲ目的トシテ執行ヲ爲サントスル者ナルカ故若シ之レヲ示サ、ルトキハ何レノ者ニ向テ之レヲ求ムル者ナルヤモ知ル可カラサルコトト爲リ執行ヲ請求ス可キ基礎ヲ有セサルコトナルカ故苟モ執行ヲ求メントスル者ニ於テ之レカ表示ヲ爲サ、ル可ラサルコトハ言フテ俟ダサル所ナリ更テニ裁判所ニ至テハ之レニ向テ此ノ行爲ヲ求メントスルコトニ係ルカ故之レヲ表示スルニアラサレハ申立ヲ爲スノ場所一方ヨリ之レヲ云ヘハ申立ヲ受クル所モ知リ得ヘカラサルコトナルヲ以テ之レカ表示ヲ命シタルモ亦當然ノコト、爲サ、ル可カラス凡テ此ノ三者ハ之レヲ請求者被請求者及ヒ其請求ヲ受ケテ之レヲ理ス可キ者ニ係リ申立ヲ爲スノ根據タルカ故之レカ表示ヲ必要ナリト規定シタル

ハ敢テ其理由ノ細説ヲ要スヘキコトニアラサルヲ信ス

第二ニ不動産ノ表示ヲ必要ナリト爲セシモノハ本條規定ノ強制執行ハ之レヲ不動産ニ對シテ爲ス可キコトニ係ルカ故其不動産ヲ表示スルハ當サニ自ラ求ムル所ヲ明ラカニスルコトニ係リ最モ當然ノコト、爲サ、ル可ラス即チ或ル不動産ヲ目的トシ之レニ對シテ強制執行ヲ爲サントスルモノナルカ故其目的トスル不動産ヲ表示スルハ請求ノ本體ヲ表示スルモノニテ之レヲ表示セサルヨリハ求メ得サル事ニ係ルヲ以テ茲ニ其表示ヲ命シタルモ亦理由ノ存スル所多言スルヲ要セサルナリ

第三ノ表示ハ競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義ニシテ即チ競賣ハ如何ナル權利ヲ有スルカ故ニ之レヲ請求スルモノナルヤ又之レカ請求ヲ受クル者ニ於テハ何ニ依リテ之レニ



應セサル可カラサルヤ所謂其債權ヲ表示ス可キハ債權者ノ責任ト爲  
 サ、ル可ラス然レモ唯債務者ニ於テ幾何ノ債務ヲ有スルモノナルヤ  
 ノコトノミヲ示スヲ以テ足レリト爲スニアラス尙ホ此ノ債務ハ如何  
 ナル理由ニ依リ執行シ得ヘキニ至リタルヤ即チ債務ハ如何ニシテ成  
 立セシヤノコトヲ表示セサル可ラス若シ此ノ如クナラサルトキハ單  
 ニ債權者カ保有スル債權證書ヲ以テ不動産ノ強制執行ヲ迫ルカ如キ  
 コトトナリ其義務ハ或ハ尙ホ争ヒ中ニ之レアルカ如キコトモ之レア  
 ラサルニ限ラスシテ執行ニ至リ種々ノ支障ヲ生ス可キカ故茲ニ之レ  
 ナ規定シテ競賣ノ原因タル一定ノ債權ヲ表示スルト共ニ其債務ハ如  
 何ナル名義ニ於テ執行セラル可キニ至リタルヤヲ示サシムルコトト  
 定メ以テ強制競賣ヲ請求スル申立中ニ具備ス可キ要件ト爲セシモノ  
 ナリ

以上本條ニ於テ三項ノ區別ヲ以テ規定シタル競賣請求ノ要件ハ孰レ  
 モ最モ必要ナル事項ニシテ苟モ之レカ申立ヲ爲サントスルニハ之レ  
 ナ具ヘサレハ爲シ得ヘカラサルコトニ係ルモノナリ故ニ先ツ強制競  
 賣ヲ爲サントスルノ第一着ニ於テ此ノ各要件ヲ數ヘ此ノ各事項ヲ具  
 ヘテ之レカ申立ヲ爲ス可キコトト定メタルモノナリ

第六百四十三條 申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ

證書ヲ添付スヘシ

- 第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル、  
不動産ニ付テハ登記判事ノ認證書
- 第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債  
務者ノ所有タルコトヲ證スヘキ證書
- 第三 地所ニ付テハ國郡市町村、字番地、地目、反別



若クハ坪數土地臺帳ニ登録シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ムヘキ一个年ノ租稅其他ノ公課ヲ證スヘキ證書

第四 建物ニ付テハ國郡市町村字番地構造ノ種類建坪及ヒ其建物ニ付キ納ヘキ一个年ノ公課ヲ證スヘキ證書

第五 地所建物ニ付賃貸借アル場合ニ於テハ其期限竝ニ借賃ヲ證スヘキ證書

第二號第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債權者公簿ヲ主管スル官廳ニ其證明書ヲ求ムルコトヲ得第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債權者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ

申請スルコトヲ得但此場合ニ於テハ裁判所ハ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシム可シ  
強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其執行記録ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ有ルトキハ其證書ヲ添付スルコトヲ要セス

(義解) (一九六) 前條ニ於テハ不動産ノ強制競賣ヲ請求スルニ付キ其申立書ニ具備ス可キ要件ヲ規定シタルモノナリ本條ハ更ラニ一步ヲ進メ此ノ申立書ニ添付ス可キ證書ヲ規定シタルモノナリ強制競賣ヲ請求スルニハ其申立ヲ爲スト共ニ執行力アル正本ヲ備ヘサル可カラサルハ更ラニ云フヲ俟タス何トナレハ凡テ債務ノ確定シテ執行スルヲ得ルニ至ルハ執行力アル正本ノ下付アルニ至ラサレハ行ハレサル



コトニテ強制執行ハ此ノ執行力アル正本ノ効力ニ依リ行ハル可キモノナルヲ以テ其申立ニ執行力アル正本ヲ添ヘサル可カラサルコトハ明白ノコトニテ本編總則ノ規定ニ照ラシ其然ラサル可ラサルコトヲ知ル可キナリ而シテ本條ハ不動産ニ對スル強制執行ノ申請ニ於テハ之ヲ備具スルノ外尙ホ第一ヨリ第五ニ數ヘタル各證書ノ添付ヲ必要ナリト爲セリ故ニ第一ヨリ順次其添付ノ必要ナル理由ヲ講説ス可シ

第一 凡テ不動産ニ對スル強制執行ハ不動産其物ニ付キ之レヲ行フモノニテ其不動産カ債務者ノ所有ニ屬スルヲ理由トシテ之レニ強制ヲ施シ執行ヲ爲サシムルモノナルカ故其不動産ニシテ登記簿ニ於テ債務者ノ所有タルコトヲ登記シアル場合ニ於テハ其登記ノ形狀ヲ以テ之レカ債務者ニ屬スルモノタルコトヲ證スル

ニハ十分ナリトス而シテ其登記ノ形狀ヲ知ラントスルニハ登記判事ニ於テ之レカ認證ヲ爲シタル書面ヲ以テ最モ確實ナリトス登記判事トハ登記法ノ規定ニ從ヒ登記事務ヲ管掌スル區裁判所判事ノコトヲ云フ登記法ニ依レハ登記ハ凡テ區裁判所ニ於テ之レヲ行ナヒ其原本ヲ區裁判所ニ保管スルコトナルカ故此ノ原本ニ照ラストキハ果シテ何人ノ所有タルヤハ明確ナリトス而シテ之レカ管掌ヲ爲スモノハ登記判事ナルカ故登記判事ニ於テ登記簿ノ形狀ヲ認證シタルトキハ其確實ナルコト勿論ナリ故ニ或ル不動産ニ對シ強制競賣ヲ求メントスル場合ニ於テ其不動産カ果シテ債務者ノ所有ニ存スルコトヲ證明セシムル爲メ登記判事ノ認證書ヲ添付セシム可キモノトナセシハ其不動産上ニ對シ所有權ヲ有スル者ヲ確實ナラシムル爲メ最モ必要ナルコトタルヲ以



ア斯ノ如ク之レカ規定ヲ爲セシモノナリ

第二 登記簿ニ登記アラサル不動産トハ登記法ニ於テ數ヘタル土地建物及ヒ船舶以外ノ不動産ニシテ不動産ノ種類ハ之レテ民法財産編第九條及ヒ第十條ニ規定シタル如ク此ノ三種ノ外ニ於テ甚ダ少ナシト爲サス然レモ登記法ニ基キ登記ヲ爲サシムル不動産ノ類目ハ此ノ三種ニ出テス故ニ本項ニ於テ登記アラサル不動産ト稱スルモノハ土地建物及ヒ船舶以外ノ不動産ヲ稱スルモノニテ之レヨリ以外ノ物ニシテ不動産タル可キモノハ如何ナル物ナル可キヤノ疑問ハ之レテ民法財産編第九條及ヒ第十條ニ照ラシテ會得ス可キナリ已ニ不動産ニシテ登記ヲ爲サル物アル以上ハ之レカ債務者ノ所有ニ屬スル事實ハ登記簿ニ依リテ證明スルノ道ヲ有セス然レモ果シテ其所有カ債務者ニ屬スルヤ否ヤノ

事實ヲ定メスシテ之レニ對シ強制執行ヲ爲スカ如キコトアルヲ得ヘカラス而シテ其債務者ノ所有タルコトヲ證明スルノ責ハ之レニ對シテ自己ノ權利ヲ行ハントスル債權者ニ存スルコト更ラニ云フテ俟タス是レ本項ノ規定ヲ以テ債務者ノ所有タルコトヲ證明ス可キ證書ノ提出ヲ命シタル所以ナリ此ノ證書タル物件ノ種類ニ依リ自ラ相異ナラサルヲ得サルモノニテ或ハ債務者ヨリ差押ヘタル證書ニ依リ或ハ他ノ方法ニ依リ果シテ債務者ノ所有ニ存スルモノタルコトヲ證明スルヲ以テ足レリトス

第三 地所ノ強制競賣ヲ請求スルトキニハ單リ其地所カ債務者ノ所有タルコトヲ認證シタル登記判事ノ證明ヲ以テスルノミナラス尙ホ地所ノ存在スル國郡市町村字番地地目反別若クハ坪數土地臺帳ニ登錄シタル地價及ヒ其地所ニ付キ納ム可キ一个年ノ租



税其他ノ公課ヲ證ス可キ證書ヲ提出セサル可ラス蓋シ地目、反別、地價、公租等ノ如キモノニ在テハ地所ノ價格ヲ定ムル基礎タルモノニシテ且ツ其地所ノ所在即チ字番地等ノ如キモノ之レカ位置ヲ知ルニ必要ニシテ其位置タルヤ地所ノ價格ヲ左右スルモノナルカ故之レヲ詳カニシテ果シテ其地所ハ如何ナル眞價ヲ有スルモノナルヤヲ知ルノ基礎ニ備ヘシムルハ之レカ競賣上ニ於テ實ニ必要ノコトタルヲ以テ茲ニ精細ナル種目ヲ示シ之レカ證明ヲ爲ス可キコトト定メタルモノナリ

第四 建物ニ付キ茲ニ示シタル各種目ノ證明ヲ爲サシムルノ精神モ亦前項ト同一ノ理由ニ基クモノニテ別ニ之レカ細説ヲ要スルコトアラス唯其構造ノ種類建坪等ノ如キモノハ建物ニ限り備フルモノナルカ故前項地所ノ場合ニ比シ之レヲ加ヘタルニ過キサルモノトス

第五 我民法財産編第百十五條以下ノ規定ニ依レハ賃借權ヲ以テ物上權ト爲セシコトヲ知ル可シ己ニ賃借權ヲ以テ物上權ナリトシテ待ツ以上ハ賃借權ノ設ケラレタル不動産ハ恰モ一ノ義務ヲ負ヘルモノニテ所謂賃借權ナル物ハ其物ヲ追隨シテ行ハル可キモノタルコトヲ知ル可シ故ニ強制執行ニ依リ競賣セラレントスル不動産ニ付キ此ノ義務ノ附着スルヤ否ヤヲ調査スルハ最も必要ノコト、爲サ、ル可ラス而シテ其義務ノ存スルモノトスレハ其期限ノ如何其借賃ノ如何等モ亦最も必要ノ事項ヲササル可カラス若シ或ル地所ヲ競賣ニ因リ買取リタル場合ニ於テ其地所ニハ賃借權ヲ有スル者アリ其期限ハ甚タ永ク其借賃ハ甚タ廉ナリト云フカ如キコトアルニ在テハ偶之レヲ買得シタル者ハ非常ノ



不利益ヲ來タサ、ル可カラサルニ至ル可シ之ヲ以テ果シテ賃借權ノ存在スルヤ否ヤ若シ存在スルトスレハ如何ニシテ設ケラレタルヤヲ調査スルハ之ヲ買得セヨトスル者ニ於テ最モ切要ノコト、爲サ、ル可ラス是レ本項ニ於テ此ノ證明ヲ競賣請求者ニ命シタル所以ナリ

以上五項ニ規定シタルモノハ何レモ不動産ノ競賣ヲ爲スニ付キ之ヲ明ラカニセサル可カラサル事項ナルヲ以テ茲ニ列記シテ其證明ヲ競賣ノ請求者タル債權者ニ命シタルモノナリ

然レモ此ノ各項ノ事實ヲ證明セシメントスルニハ之ヲ證明シ得ヘキ便宜ヲ與ヘサル可カラス即チ之ヲ命スルモ之ヲ爲スノ權能ナキニ於テハ遂ニ其目的ヲ全フスルヲ得ヘカラス是レ更ラニ本條第二項ニ於テハ之レカ規定ヲ爲セシ所以ナリ

本條第二號第三號第四號等ノ規定ニ從ヒ債權者カ不動産ノ形狀ヲ證明セントスルニハ之ヲ公簿ヲ主管スル官廳ニ求メサル可ラス即チ此ノ事實ハ公簿ヲ主管スル官廳ニ於テハ公簿ニ對照シテ明ラカニ答ヘ得ヘキ事項ナルカ故債權者ニ於テハ官廳ニ向テ之ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノナリ而シテ官廳ハ其求メニ應シテ之レカ證明ヲ交付セサル可ラサルナリ其第四號第五號ノ事項ニ至テハ官廳ニ於テ之レヲ公簿ニ對照スルモ未ダ全ク之レヲ知り易カラサルモノナシト云フ可カラズ即チ建坪構造ノ種類ノ如キ更ニ第五號ノ賃借ニ至テハ全ク之ヲ證明ス可キ道ヲ有セサルモノタルヲ知ル可シ而シテ他ノ方法ヲ以テ示ルモ容易ニ證明シ得ヘキ材料ヲ得ルヲ難ク之ヲ證明セザレハ競賣上ニ於テ支障少ナシト爲サ、ル困難ニ係ルモノナルカ故此ノ場合ニ於テハ競賣申立ト共ニ其取調方ヲ執行裁判所ニ申請スルヲ得ルコトト



爲セリ執行裁判所ハ此ノ申請ニ對シ公力ヲ使用シ即チ執達吏ニ命シ  
 ア其取調ヲ爲サシメサル可ラサルナリ畢竟之レ執達吏ノ手ヲ以テス  
 ルニアラサレハ取調ニ困難ノ事ニ係ルカ故之レカ證明ヲ債權者ニ  
 於テ盡サントスルモ能クシ得ヘキコトニ之レアラサルナリ是レ其證  
 明ヲ命スルト共ニ又他ニ之ヲ證明ス可キ方法ヲ規定シタル所以ナリ  
 然レモ曾テ債權者ノ申請ヲ以テ其不動産ニ對シ強制管理ヲ求メタル  
 コトアリ其強制管理ヲ爲セシ不動産ニ付キ更ラニ競賣セント求ムル  
 時ニ於テ已ニ管理申請ノ際本條第一號ヨリ第五號ニ至ル要件ヲ記載  
 シタルモノアルキハ茲ニ規定シタル證書ノ提出ハ不必要ナリトス而  
 シテ此ノ記載ハ執行記録中ニ於テ之レアル可キモノニアテ此ノ執行記  
 録ハ公吏タル執達吏ニ於テ作リタルモノナルカ故最モ信用ヲ有シ更  
 ラニ他ノ證書ニ依リ之レカ證明ヲ爲スヲ要セサルナリ故ニ此ノ場合

ニ於テハ債權者ノ煩勞ヲ省カンカ爲メ殊ニ其證書ノ添付ヲ要セスト  
 定メタルモノナリ

第六百四十四條 競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債

權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ

差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコト

ヲ妨ケス

差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其効力ヲ

生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

〔義解〕(一九七) 本條ハ不動産ノ競賣ヲ開始スヘキ方法及ヒ其効力ヲ  
 規定シタルモノナリ

債權者カ其債權ノ補償ヲ爲サシメンカ爲メ不動産ノ競賣ヲ請求シ之  
 レカ申立ヲ爲シ裁判所ニ於テ其申立ヲ調査シタル上果シテ競賣ス可



キモノトスルハ茲ニ競賣手續ヲ開始スルコトヲ決定セサル可カラズ  
 即チ債權者ノ請求スル所ニ從ヒ之レヲ實行ス可キ端緒ヲ茲ニ發スル  
 モノナリ而シテ此ノ開始ハ決定ヲ以テ之レヲ爲サ、ル可カラズ裁判  
 所ニ於テ之レカ開始ヲ決定スルトキハ之レト同時ニ債權者ノ爲メニ  
 不動産ヲ差押フルコトヲ宣言セサル可カラズ即チ競賣手續ノ開始ハ  
 之レト共ニ其目的物ナル不動産ノ差押ヲ爲サ、ル可カラサルモノダ  
 ルコトヲ知了ス可シ裁判所ニ於テ不動産ノ差押ヲ命シタルモハ一般  
 ノ差押ト同シク之レニ對スル凡テノ所爲ヲ所有者ヨリ停止ス可キコ  
 ト當然ナレド不動産ニ於テハ之レヲ使用シ若クハ之レヲ管理スルカ  
 爲メ危險ヲ生ス可キモノニアラス例之ハ衣類ノ如キハ之レカ差押ヲ  
 爲スト共ニ之レコト下スノ權能ヲ奪フニアラサレハ之レヲ着服シ  
 テ其差押ヲ無効ナラシムルカ如キ恐レアルモノナレトモ地所ノ如キ

家屋ノ如キ物ニ至テハ之レヲ使用セシムルモ之レカ爲メニ其位置ヲ  
 轉スルノ憂ナク從テ之レニ對スル凡テノ所作ヲ禁スルノ必要之レナ  
 ラサルモノナリ故ニ等シク差押ヲ爲スモ唯其處分及ヒ濫用ヲ防クニ  
 止マリ之レヲ管理シ及ヒ之レヲ利用スルコトニ至テハ敢テ妨ケナキ  
 コト、爲セリ蓋シ此ノ事タル不動産ヲ傷クルコト之レアラサルノミ  
 ナラス却テ之レヲ進歩セシムルニ於テ適當ノ管理ト利用トヲ要スル  
 コトナルカ故寧ロ之ヲ求メテ爲サシム可キコト云ハサル可ラス是レ動  
 産ノ差押ト不動産ノ差押トノ間ニ於ケル最モ大ナル差異ニシテ其差  
 押ハ方法ノ異ナル此ノ二者ノ性質上ニ於テ存在スルモノナリトス  
 而シテ差押ハ之レカ決定ヲ債務者ニ送達スルニ於テ其効力ヲ生ス可  
 キモノト爲セリ即チ債務者ノ所有ニ屬スル不動産ニ對シ之レカ差押  
 ヲ爲ス可キコトノ決定ヲ債務者ニ送達シタルトキハ其不動産ハ已ニ



差押ヲ受ケタルモノニテ之レヨリ生ス可キ効果ハ其送達ト共ニ生ス可キモノナリトス此ノ送達ハ申立ニ依リ之レヲ行フニアラスシテ競賣ノ申立ヲ爲シ競賣手續ノ開始ヲ決定シタルキハ裁判所ノ職權ヲ以テ之レヲ爲サル可カラサルナリ

第六百四十五條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ就キ強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

右申立ハ執行記録ニ添付スルニ因リ配當要求ノ効力ヲ生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限りハ開始決定ヲ受ケタル効力ヲ生ス  
假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定

テ適用セス

〔義解〕(一九八) 本條ハ已ニ或ル債權者ノ爲メニ競賣手續ノ開始セラレタル不動産ニ對シ更ラニ強制競賣ヲ請求スル者アル時ニ於テ之レカ關係ヲ規定シタルモノナリ

第五百八十條ノ規定ニ依レハ執達吏ハ已ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ラニ差押ノ手續ヲ爲スヲ得ストノ規定アリ該條ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ規定シタルモノニテ不動産ノ強制執行ハ差押ニ依リテ開始セララルモノナルカ故已ニ差押ヲ爲シタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ラニ差押ヲ爲スヲ得セシメサルコト、爲セシモノニテ本條ハ恰モ該條ト同一ノ精神ヨリ規定セラレタルモノナリ即チ不動産ノ強制執行ハ強制競賣開始ノ決定ヲ以テ其効力ヲ發生スルモノナルカ故已ニ之レヲ開始シタル後ニ於テハ其不動産ハ拘束ヲ受ク



ヘキモノトス是レ本條ニ於テ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ對シ強制競賣ノ申立アルモ更ラニ之レカ開始決定ヲ爲スコトヲ得サルモノト定メタル所以ナリ其理由ニ至リテハ已ニ第五百八十條ニ於テ詳説シタル所ト同一ナルヲ以テ今改メテ之レカ詳説ヲ要セサル可シ即チ其不動産ナルモノハ已ニ強制執行ノ威力ヲ受ケ其威力ノ爲メニ左右セラル可キモノト爲リシ物タルカ故更ラニ之レニ對シテ權利ヲ行用ス可キ餘地ヲ有セス即チ事實上ニ於テ已ニ動カス可ラサルニ至リシモノナルカ故更ラニ之レト等一ナルカヲ以テ左右スルヲ得ス又之レヲ爲スノ必要存セサルヲ以テ之レヲ此ノ如クニ規定シタルモノナリ

然レモ債權者ニ於テハ之レカ請求ヲ提起スルノ權利ヲ有セサルニアラスシテ唯已ニ競賣手續開始ノ決定アリシ物ニ付キ再ヒ之レカ開始ヲ爲スコトヲ得スト爲スニ止マルカ故此ノ規定ハ寧ロ債權者ニ付テ爲シタルニアラシテ裁判所ニ對シテ之レヲ爲セシモノト云ハサル可カラス故ニ債權者ハ其債權ヲ證明シテ更ラニ之レカ請求ヲ爲スモ隨意ナルノミナラス又之レヲ爲スニ依リ第二項ノ效果ヲ收ム可キモノタルヲ知ラサル可カラス即チ已ニ競賣手續ノ開始セラレタル不動産ニ對シ更ラニ強制競賣ノ申立ヲ爲シタル債權者アルトキハ其債權者ノ申立ハ之レヲ執行記録ニ添付スルニ因リ配當要求ノ効力ヲ生スルコト又若シ已ニ開始シタル競賣手續取消トナリタルトキハ開始決定ヲ受ケタルノ効力ヲ生スルコト是レナリ此ノ規定ニ依レハ已ニ競賣手續開始ノ決定ヲ受ケタル不動産タルコトヲ知了スル債權者ト雖モ更ラニ之レカ請求ヲ提起スルハ最モ必要ノコトタルヲ知ラサル可カラス何トナレハ若シ之レヲ爲サル時ニ於テ其不動産ニ對スル競賣



手續取消トナリシトキハ該不動産ハ債務者ニ於テ隨意ノ處分ヲ爲シ得ルコトトナリ確定シタル債權者モ之ニ對シ如何トモ爲シ能ハサルニ至ルノミナラス競賣ノ後ニ於テモ其買得金ニ付キ配當ヲ求ムルコトヲ得サルニ至ル可キヲ以テナリ之ニ依リ已ニ競賣手續ノ開始セラレタルコトヲ知了スルモ他ノ債權者ハ更ラニ之レカ申立ヲ爲スノ甚々必要ナルコトヲ知ル可シ唯裁判所ニ於テハ更ラニ之レカ爲メニ其開始決定ヲ與フルヲ得サルモノトス第二項ノ規定ハ即チ後ニ申立ヲ爲シタル債權者ノ權利ニ關スルモノニテ其前後ノ債權者ノ關係ヲ見ル可キ法條ナリトス已ニ此ノ規定ニ依リ更ラニ申立ヲ爲シタル債權者ニ於テハ配當要求ノ權利ノ存スルコト明ラカナルカ故其開始決定ハ之レヲ事實ニ於テハ行フ能ハサルモ其結果ヨリ云ヘハ更ラニ之レヲ行フタルト毫モ異ナル所アラズ何トナレハ先キニ開始決定ヲ

受ケタル債權者ト相並ニテ配當ヲ受ケ又若シ先キノ手續無効トナリシ場合ニハ之レニ代ハリテ開始決定ノ効力ヲ有スルコトト爲ルカ故ナリ然レトモ茲ニ定メタル如ク之レカ爲メニ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ妨クルコト能ハサルハ勿論ナリトス該條ハ後ニ於テ講説ス可キ順序ナルカ故茲ニハ之レカ講説ヲ爲サスト雖モ之ヲ法文ニ就テ見ルニ該條ハ差押債權者ノ債權ニ先立ツ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ストノ規定ニシテ即チ不動産上ニ於テ或ル特別ノ義務ヲ負フ物ニ對シ強制競賣ヲ求メントスルトキハ其特別ナル負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ之レヲ辨濟スルニ足ル見込ナキトキハ賣却ヲ爲シ得サルコトニテ取リモ直サズ差押債權者ニ於テ競賣ノ爲メニ毫モ其利益ヲ



獲得ス可キ目途ナキニ於テハ之レカ競賣ヲ迫ルヲ得サルコトナリ此  
 ノ場合ニ於テハ第一ニ開始ノ決定ヲ受ケタル債權者ト雖モ亦強ヒテ  
 其競賣ヲ求ムル能ハサルモノナルカ故其取消ニ依リ第一ノ決定ト同  
 一ニ見做サル、ヲ得ルニ至リタル債權者ニ於テモ之レト同一ノ効果  
 ヲ受ケ此ノ規定ヲ妨ケ能ハサルハ固ヨリ當然ノコト、云ハサル可ラ  
 ス之レヲ第二項ニ於テ定メタルハ唯其用意ノ周到ヲ見ル可キモノニ  
 テ之レカ規定ナシト雖モ自然此ノ如クナラサル可カラサルモノナル  
 ヲ知ル可キナリ  
 假差押ニ在テハ未ダ確定シタル權利ノ執行ト云フヲ得ス即チ債權者  
 ノ申立ツル所ニ徴シ假リニ之レカ差押ヲ命シ其將サニ來ラントスル  
 損失ノ憂ヲ防クノ方法ト爲セシニ過キサルモノナルカ故之レヲ行ヒ  
 タルカ爲メ確定セル權利ノ拘束ヲ受ケタルモノト云フ可カラス故ニ

已ニ假差押ヲ爲シタル不動産ニ付テモ競賣開始ノ決定ハ之レヲ行フ  
 ヲ得ヘキモノニテ假差押アルカ爲メ執行力アル正本ニ依リ不動産ノ  
 強制競賣ヲ求ムル債權者ノ權能ヲ左右ス可キモノニ非ス即チ第三項  
 ニ於テ假差押ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セサルモノト定メタル所以  
 ニシテ最モ適當ノ規定ト云フ可キナリ

**第六百四十六條 配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判  
 所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルモノハ  
 假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ  
 右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ  
 得**

〔義解〕(一九九) 本條ハ競賣手續開始ノ決定ヲ受ケタル債權者以外ノ  
 債權者ニ於テ競賣ニ付セラレントスル不動産ニ對シ配當要求ヲ爲ス



場合ノ手續ヲ規定シタルモノナリ  
 動産ニ對スル強制執行ニ就テハ之レヲ第五百九十條以下ニ於テ規定  
 シ其配當要求ヲ爲ス可キ方法及ヒ期日ヲ明ラカニシタリ而シテ本條  
 ハ恰モ該條以下ノ規定ト同一ノ目的ヲ以テ同一ノ事項ヲ定メタルモ  
 ノナリ故ニ之レヲ該條ニ徵スレハ其講説ヲ要ス可キ事モ亦相異ナル  
 モノアラス即チ配當要求ヲ爲サントスル債權者ハ其原因タル債權ヲ  
 開示シ若シ裁判所々在地ニ住所ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ假住  
 所ヲ選定シ執行裁判所ニ對シ之レカ請求ヲ爲ス可キコトニテ唯其配  
 當要求ヲ爲ス者ニ於テ當サニ盡スヘキ手續及ヒ裁判所ニ於テ之レヲ  
 理スルニ於テ必要ノ事ヲ命スル爲メ其住所ノ届出ヲ命シタルニ過キ  
 サルナリ

第二項モ亦此ノ要求ハ競落期日ノ終リニ至ルマテ爲スコトヲ得ルモ

ノトナシ動産物ニ對スル第五百九十二條ト同一ノ主意ヨリ之レヲ規  
 定シタルモノナリ要スルニ此ノ配當要求ナルモノハ強制執行ニ依リ  
 債務者ノ不動産ヲ競買シ之レニ依リテ得タル金銭ヲ以テ債務ノ辨償  
 ニ充ツルモノナルカ故他ノ債權者ニ於テ其權利ヲ明ラカニシ其配當  
 ヲ要求スルコトヲ以テ競落期日ノ終リニ至ルマテ之レヲ爲シ得ヘキ  
 モノト定メタルハ最モ適當ノコトト云ハサル可カラサルナリ

**第六百四十七條 執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要  
 求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知ス可シ**

執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權  
 者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ  
 期限内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ裁判所ニ申出  
 ツ可シ



債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定スヘシ

〔義解〕(二〇〇) 本條ハ執行裁判所ニ於テ前條ノ申立アリタルトキ之レヲ其關係人ニ通知ス可キコト及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當要求ヲ爲スノ債權者アル場合即チ動産ニ對スル強制執行ニ關シ第五百九十一條ヲ以テ規定シタルト同一ノ事項ヲ規定シタルモノナリ。執行裁判所ニ於テハ前二條ノ申立即チ已ニ競賣手續開始ノ決定アリタル不動産ニ對シ更ラニ強制競賣ノ申立ヲ爲ス者アルカ或ハ又其強制競賣ヲ爲サントスル執行ニ付キ配當要求ノ申立ヲ爲ス者アルトキハ之レヲ其利害關係人ニ通知セサル可カラス利害關係人トハ如何ナル者ヲ云フヤハ之レヲ次條ニ定メタル所ニシテ該條ニ至リ之レヲ講

説ス可ク唯本條ニ於テハ此ノ申立ハ特リ申立人ニ於テ之レカ結果ヲ生スルニ止マラス凡テ其執行ニ付キ利害ヲ有スルモノニ及フコトナルヲ以テ之レカ申立テ其關係者ニ通知ス可キハ最モ適當ノコトナルヲ知ル可シ何トナレハ若シ其要求ニシテ或ハ不當ニ出テソカ正當ナル各債權者ハ其要求者ニ配當ヲナス爲メ自己ノ得ヘキ利益ヲ侵奪セラルレ其利益ヲ失ハサル可ラサルニ至ル可シ故ニ其何人カ如何ナル原由ヨリソテ之レカ配當ヲ要求スルヲ得ルヤヲ調査スルハ最モ必要ノコト、云ハサル可カラス是レ其申立テ利害關係人ニ通知ス可キコト、定メタル所以ナリ

第二項ハ此ノ要求ヲ提起スル債權者カ執行力アル正本ニ因ラス即チ確定ノ判定ヲ得タルニアラスシテ單ニ其有スル處ノ債權證ヲ以テ配當ヲ要求セントスル場合ヲ想定シタルモノナリ此ノ要求ニ對シテハ



債務者ニ於テ之レヲ認諾スルヤ否ヤ即チ其債權ハ適實ニ成立シ債務者ニ於テ之レカ責任ヲ有スルモノナルヤ否ヤ之レヲ債務者ニ於テ調査シ其認否ヲ申立サル可カラズ此ノ期間ハ三日ニシテ若シ三日ヲ徒過シタルキハ之レヲ認諾シタルモノト見做サル可キナリ蓋シ執行力アル正本ニ因ラサレハ強制執行ヲ爲スヲ得サルコト、定メタルモノハ其權利カ果シテ確實ナルモノナルヤ否ヤ語ヲ代ヘテ言ヘハ債務者ニ於テハ必ス之レカ履行ノ責ヲ認メサル可カラサルモノナルヤ否ヤ確定セサルカ故或ハ徒ラニ債務者ニ損害ヲ加フルカ如キコト之レヲラフコトヲ恐レ執行力アル正本ニ因ルニアラサレハ強制執行ヲ爲ス能ハサルコトト定メタルモノナリ故ニ已ニ債務者ニ於テ債務ノ存スル事ヲ認メ其請求ニ應ジテ配當ヲ爲ス可キコトヲ認諾シタル以上ハ敢テ必スシモ執行力アル正本ヲ待ツ可キコトニアラス況ンヤ此ノ場

合ニ於テハ債務者ニ對シテハ他ノ請求已ニ確定シ之レニ因リテ強制執行ヲ受ケントスルノ位置ニ之レアルコトナルカ故若シ此ノ場合ニ於ケル配當ニ付キ悉ク執行力アル正本ニ因ラサル可カラサルコトトナストキハ之レカ爲メニ曾テ訴ヲ起サ、リシ債權者ハ非常ノ損失ヲ蒙ラサル可カラサルコトトナリ恰モ訴訟ノ提起ハ或ル特別ノ權利ヲ獲得スルカ如キ結果ニ至ルヲ免カレス是レ第二項ニ於テ一般ノ債權者ニ於テモ配當要求ヲ爲シ得ヘキ權能ヲ認メ已ニ債務者ニ於テ之レヲ認諾スルトキハ配當ニ加フ可キモノト定メタル所以ナリ然レトモ若シ債務者ニ於テ其要求ヲ拒ミ即チ債權ノ存在ヲ認メサルトキハ如何此ノ場合ニ於テハ其争ヒアル請求ニ付キ配當ヲ爲シ得サルハ勿論ノコトニテ若シ此ノ如キ争ヒアルニ係ハラス之レヲ配當シ異日ニ至リ果シテ債務者ノ主張スルカ如ク其債權空虛ナルトキハ特



リ債務者ニ於テ直接其損害ヲ蒙ラサル可カラサルノミナラス其關係人ニ於テモ亦甚クシキ損害ヲ蒙ラサル可カラサルニ至ルナリ之レニ依リ債務者カ其債權ヲ認諾セサルコトノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ之レヲ債權者ニ通知セサル可カラス而シテ此ノ通知ヲ受ケタル債權者ハ之レヲ受ケテヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ノ確定ヲ爲サ、ル可カラス即チ此ノ訴タル配當要求ノ債權者ト強制執行ヲ受クル債務者間ノ訴訟ニシテ若シ此ノ訴ニ於テ債務者ノ申立ツル所理アリト決セラレ債權者敗訴シタルトキハ配當要求ノ權利ハ茲ニ消滅セサル可カラサルモノニテ之レニ反シ債權者ノ要求理アリト判決セラレタルトキハ當初ノ要求ニ基キ之レカ配當ニ加ヘサル可カラス即チ此ノ訴訟ノ起リタルトキハ配當要求ノ債權者ト強制執行ヲ受クル債務者間ノ關係ハ訴訟ノ決着マテ其權利行爲ヲ停止セ

ラル可キ結果ヲ生スルモノナリ

第六百四十八條 左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ

利害關係人ト爲ス

第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者

第二 債務者

第三 登記簿ニ記入アル不動産上ノ權利者

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フヘキ届出ヲ爲シタル者

〔義解〕(三〇一) 本條ハ前條ニ於テ不動産ニ對スル強制執行ノ利害關係人ニ通知ヲ爲ス可キコトヲ規定シタルカ故之レニ繼キ其利害關係人トハ如何ナル者ヲ云フヤ即チ此ノ法律ニ從ヒ不動産ノ強制執行ヲ



爲スニ付キ法律上ノ推測ヲ以テ利害關係人ト稱スル者ヲ數ヘタル者ナリ以下各項ニ付キ之レヲ觀察ス可シ

第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ競賣ノ結果及ヒ其配當上ニ於テ最モ直接ノ利害ヲ有スル者タルコト云フヲ俟タス所謂差押債權者トハ強制執行ヲ要求シ其競賣開始ノ決定ヲ求メタルモノニアテ其競賣手續ニ付キ根本ノ請求者ナルカ故之レヲ以テ利害關係人ト定メタルハ最モ明白ノ理由ヲ備ユルモノト云フ可シ又執行力アル正本ニ因リ配當要求ヲ爲ス債權者ニ在テモ其債權ハ已ニ確定シタルモノニアテ差押債權者ト相並ンテ競賣ノ結果ヨリスル賣得金ニ付キ權利ヲ行フヲ得ヘキ者ナルカ故其競賣手續ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルコトハ差押債權者ト一毫モ異ナル處之レアラヌ故ニ之レヲ並列シテ共ニ

競賣手續ニ於テノ利害關係人ト定メタルハ最モ適當ノコト、云フ可キナリ

第二 債務者カ競賣手續ニ於テノ利害關係人タルノ理由ハ更ラニ説クヲ要セサル可シ何トナレハ其差押ヲ受ケ競賣ニ付セラレタル結果ハ最モ甚シク債務者ノ利害ニ關係ヲ有スルコトニアテ其結果ニ依リ債務ノ全部ヲ償却シ終ルルハ債務者ハ其義務ヲ免カレ又配當要求者等ノ要求額嵩ミ債務ノ全部ヲ償ヒ終ラサルルハ債務者ノ負擔ハ依然トシテ存セサル可カラス殊ニ其競賣ノ方法等ニ依リ賣得金ニ關係ヲ及ホスコトアルルハ之レカ爲メニ生スル利害モ最モ甚シク債務者ニ之ヲ及ホサル可カラス是レ本項ニ於テ債務者ヲ以テ利害關係人ト定メタル所以ナリ

第三 登記簿ニ記入アル不動産上ノ權利者ハ其登記ノ効果ニ依リ



他ノ債權者ヲ排斥シテ其競賣金ヲ獲得スルコトヲ得ルモノナルカ  
故其競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルコト固ヨリ云フヲ俟タス是レ  
債權者及ヒ債務者ト相併セテ利害關係人ト定メタル所以ナリ

第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ  
届出ヲ爲シタルモノトハ即チ第六百四十三條第二ノ場合ニ付キ  
講説シタル所ニ適合スルモノニテ不動産ニシテ登記ノ方法ヲ行  
ハサル者少ナカラサルカ故登記ヲ行ハサル不動産ニ對シ權利ヲ  
有スル者ハ其債權ヲ證明シテ之レヲ執行記録ニ備付セサル可カ  
ラス即チ之レヲ届出テ、其不動産上ノ債權者タル事ヲ證明シタ  
ル者アルトキハ之レヲ該不動産ノ競賣手續ニ付テノ利害關係人  
ト爲サ、ル可カラス恰モ是レ第三ノ場合ニ於ケル登記簿ニ記入  
アル債權者ト同一ノ權利ヲ有スル者ニテ其不動産ノ競賣上ニ少

ナカラサル利害ヲ有スル者タルカ故之レヲ此ノ如ク定メタルモ  
ノナリ

以上各項ニ數ヘタル者ハ即チ競賣手續ニ付テノ利害關係人ニシテ競  
賣上ノ處置ニ付キ利害ヲ有スルモノナルヲ以テ之レヲ茲ニ示シテ其  
權能ヲ定メタルモノナリ

第六百四十九條 差押債權者ノ債權ニ關スル不動産

ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ  
以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サ  
レハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス  
不動産ハ賣却ニ因リ登記簿ニ記入ヲ要スル總テノ  
不動産上ノ負擔ヲ免カルルモノトス但競落人其負  
擔ヲ引受ケタルトキハ此限ニ在ラス



登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産ノ負擔ハ競落人之  
ヲ引受クルモノトス

〔義解〕(二〇二) 本條ハ不動産カ差押債權者ノ債權ニ先ヅ可キ負擔ヲ有スル場合ニ於テ競賣ヲ爲シ得ヘキ程度ヲ規定シ及ヒ不動産ノ賣却ハ其負擔ニ於テ如何ナル結果ヲ生スルヤノコトヲ定メタルモノナリ差押債權者ナルモノハ債務者ニ對シ一定ノ債權ヲ主張シ其請求ヲ認メテ判決確定ニ至リ執行力アル正本ニ因リ競賣手續開始ノ決定ヲ以テ債務者ノ不動産ニ付キ差押ノ効力ヲ得タル一般ノ債權者ヲ云フ即チ不動産ノ競賣ハ此ノ債權者ノ要求ニ因リテ行ハルハニ至ルモノナリ然レモ不動産ハ動産ト異ナリ不動産其物ノ上ニ或ル義務ヲ負フモノナルカ故若シ其競賣ヲ求メントスル不動産カ差押債權者ノ債權ニ先ヅ可キ義務ヲ負ヘルモノナルトキハ先ヅ其負擔ヲ調査シ之

レテ競賣スルトキハ其負擔ヲ引去ルモ尙ホ差押債權者ニ利益スルノ見込アルニアラザレバ競賣ヲ爲ス能ハサルコトナリ蓋シ不動産上ニ抵當權若クハ質權ヲ有スル時ニ於テハ其不動産ハ抵當取主又ハ質取主ノ爲メニ第一ニ義務ヲ盡サ、ル可カラサルモノニテ若シ之レテ競賣ニ付シ幾何カノ賣得金ヲ生スルモ凡テ抵當取主又ハ質取主ノ義務ヲ償却スルニ止マルトキハ競賣ハ唯徒ラニ之レテ行フコトニテ一毫モ差押債權者ニ利益スル所之レアラザルカ故恰モ動産ニ對スル強制執行ノ場合ニ於テ執行費用ヲ償フトキハ他ニ利益スル所ナキ場合ヲ豫想シ此ノ如キ場合ニ於テ之レカ執行ヲ爲スヲ得セシメサルト(第五百六十四條參看)同一ノ理由ヨリシテ之レカ賣却ヲ爲スヲ得サルコトト定メタルモノナリ第六百四十五條ニ於テ第二次ノ差押債權者カ主タル差押ノ効力ヲ生スルトキニ於テモ本條ノ規定ヲ妨クルヲ得スト



定メタルモノハ畢竟此ノ規定タル不動産ノ強制執行上ニ於テ徒勞徒費一毫モ之レカ爲メニ利益スル者之レアラサル如キ結果ヲ防クノ意ニ出テタルモノナルヲ以テ如何ナル場合ニ付テモ此ノ原則ハ適用セサル可カラサルモノニテ執行上ニ於ケル一般ノ原則ト云フ可キモノナリ第二項ハ競賣ノ結果ヲ規定シタルモノニテ不動産ハ賣却ニ依リ登記簿ニ記入ヲ要スル總テノ負擔ヲ免カル、モノト爲セリ是レ此ノ負擔ハ前項ニ規定スル如ク賣却代金ヲ以テ第一ニ辨濟ス可キモノニシテ賣却ノ後仍キ競落人ニ強テ引受ケシム可キモノニ非サレハナリ但競賣人ニシテ其負擔ヲ認メ之レヲ引受ケタル場合ニ於テハ固ヨリ是モ他ニ之レカ爲メニ損害ヲ蒙ル可キモノ之レアラサルヲ以テ法律ハ敢テ之レヲ妨クルコトナシトス然レモ不動産ノ負擔ニシテ登記ヲ要セサルモノ少ナシト爲サス此ノ種ノ負擔ハ競落人ニ之ヲ引受ケシ

ム是レ其ノ登記簿ニ記入シ豫メ公告シテサレニ拘ハラズ賣却代金中ヨリ第一ニ辨濟セシムルハ爲メニ他ノ債權者ヲ害スルコト、爲ル可ク去リトテ正當ナル原因ニ依リ得タル不動産上ノ權利者ニ對シ競賣ノ爲メニ之レカ權利ヲ失ハシムルカ如キテハ道理上爲シ能ハサルコト、云ハサル可カラス故ニ此ノ負擔ハ其不動産ヲ競落セント欲スル者ニ於テ十分ニ之レカ調査ヲ爲シ之レニ相應スルノ價ヲ定メテ初メテ買得シタルモノト看做シ其責任ヲ競落人ニ命シタルモノナリ此ノ場合ニ於テ其權利ヲ主張スル者ニ對シ競落人カ果シテ其權利ノ正確ナルモノナルヤ否ヤヲ争ヒ得ルハ勿論ノコトニテ已ニ正確ナリト決セラレタル以上ハ該不動産上ニ付テハ一步ヲ之レニ讓ラサル可ラサルコト又最モ理ニ適シタルコト、云フ可キナリ

第六百五十條 權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差



押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ  
差押ノ効力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコ  
トヲ得ス

若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負  
擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限り  
新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタ  
ルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行スヘ  
シ

競賣申立ノ取下ニ因リテハ差押ハ消滅ス

〔義解〕(二〇三) 本條ハ競賣ニ付セラル可キ不動産ニ對シ第三者タル  
權利者ノ存在スル場合ヲ規定シタルモノナリ  
不動産ニ付キ權利ヲ獲得シタル者即チ法律上ノ方式ニ基キ不動産ヲ

取得シタル者ニシテ善意ナルトキハ其權利ハ何人ト雖モ之ヲ侵ス  
コトヲ得ヘカラス何トナレハ不動産ニ付テハ登記ノ方法ヲ設ケ一面  
ニ於テハ權利ノ存在ヲ證明セシメ他ノ一面ニ於テハ該不動産ニ對シ  
權利ヲ取得セントスル者ノ爲メニ不動産カ義務ヲ負ヘル事實ヲ公告  
セシムルコトヲセシカ故之レニ對シ權利ヲ取得シタル者ニシテ適當  
ノ方式ヲ履ミタルキハ其權利取得者ヲ尊重セサル可ラサルコト當然  
ナルヲ以テナリ然レモ此ノ場合ハ善意ノ取得者ニ付テノミ適用スル  
ヲ得ヘキモノニテ若シ其權利取得者ニシテ該不動産カ已ニ差押ヲ受  
ケ若クハ競賣ノ申立ヲ受ケタルコトヲ知リタルニ關ハラス殊更ラニ登  
記ヲ經之レテ取得シタルモノナルキハ差押ノ効力ニ對シ權利ヲ爭フ  
コトヲ得ヘカラス是レ法律ハ適當ノ注意ヲ以テ權利ノ獲得ヲ爲シタ  
ル者ニ對シ之レカ保護ヲ加フルト同時ニ其注意ヲ欠キ若クハ不正ノ



所爲ヲ以テ權利ヲ主張セントスル者ヲ保護セサルヲ以テ原則ト爲スカ故ナリ蓋シ已ニ差押若クハ競賣ノ申立アリタル不動産ニ付テモ果シテ善意ヲ以テ之レカ權利ヲ得タル者アルトキハ法律ハ其取得者ノ權利ヲ尊重シ之レヲ保護セサル可ラサルモノナレハ已ニ其不動産カ差押又ハ競賣ノ申立ヲ受ケタル事實ヲ知リタルニ係ハラス之レヲ爲シタルモノナルトキハ其取得者ハ差押ノ効力ニ對シ善意ヲ主張スルコトヲ得サルモノナリ善意ヲ主張スルコトヲ得ストハ取得者ノ權利ニ先ノス可キ他ノ權利者アルコトヲ認メサル可ラサルコトニテ即チ差押債權者ニ對シ其權利ヲ讓ラサル可ラサルコトナリ其理由ハ已ニ差押ヲ受ケ若クハ競賣申立ヲ受ケタルコトヲ知リタルニ係ハラス該不動産ノ權利ヲ獲得スル者ノ如キハ殊更ラニ不正ヲ企テ、差押債權者ヲ害セントスル者ニアラサレハ自ラ其責任ヲ認メツ、之レカ取得

ヲ爲シタル者ト見做スヲ得ヘキモノニテ之レニ對シ法律上ノ保護ヲ與フ可キ理由之レアラサルヲ以テナリ本條ハ裏面上ヨリシテ已ニ差押若クハ競賣申立ノ事實ヲ知リタル者ニ於テ不動産ヲ取得シタルトキハ差押ノ効力ニ對シ善意ナリシコトヲ主張シ得サルコトヲ規定シ若シ之レヲ知ラスシテ方式ノ定ムル處ニ依リ不動産ヲ取得シタル者ニ在テハ之レヲ善意ノ取得者ト爲シ差押ノ効力ニ對シ優等ノ權利ヲ主張シ得ヘキモノナルコトヲ示シタルモノナリ然レトモ若シ其不動産ニ對スル債權即チ差押債權者ノ債權ニシテ其不動産上ニ効力ヲ有スルモノナルトキニシテ且ツ已ニ其債權ノ爲メニ差押ヘラレタル場合ニ於テハ假令ヒ差押ノ事實ヲ知ラサル取得者ト雖モ之レニ對シ一步ヲ讓ラサル可ラス蓋シ不動産カ債務ヲ負擔スルニハ登記ヲ經ヘキ種類ニ付テハ登記ヲ經タルニアラサレハ不動産



上ノ債務ト見做スヲ得サルコトタルヲ以テ已ニ一方ニ於テ其不動産上ニ權利ヲ有シ且ツ之レニ對シ差押ヲ施シタルトキハ後ノ取得者ニ於テ其權利ヲ爭フ能ハサルハ當然ノコトト爲サ、ル可ラス第一項ハ一般ノ債權者カ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ付テ之レヲ規定シ第二項ハ特別ニ不動産上ニ權利ヲ有シタル者アル場合ニ付テ之レヲ規定シタルカ故彼此レ場合ヲ異ニスルカ如クナルモ權利ノ優劣ヲ定ムル基本ノ理論ニ至テハ同一ノ精神ニ基ケルコトヲ知ラサル可ラス何トナレハ不動産上ニ權利ヲ有シタル者ニシテ且ツ差押ヲ爲シタルトキニ於テハ單ニ其不動産ニ付キ權利ヲ得タル者ニ優ラサル可ラサルコトハ明白ノ理タルヲ以テナリ然レニ第二項ノ場合ニ於テモ債權者ニ於テ之レカ差押ヲ爲シタル後所有ヲ移轉シタル場合ノミ差押債權者ニ於テ優等ノ權利ヲ主張シ得ヘキモノニテ若シ債權ノ原因ハ不動産ニ

存スルトスルモ未ダ差押ヲ爲サ、ルニ先チ不動産ノ所有ヲ移轉シタル場合ニ於テハ之レヲ其取得者ニ責ムルヲ得サルモノナリ是レ又差押ヲ施サ、ル不動産ハ自由ニ轉帳シ得ヘキモノニテ之レヲ取得シタル者ニ於テハ毫モ其責任ヲ負フ可キ理由之レアラサルヲ以テナリ故ニ此ノ場合ヲ除キ已ニ差押ヲ受ケタル不動産ニシテ且ツ其債權ハ該不動産上ニ原因スルモノナルキハ差押後ニ取得シタル權利者ヲ顧ミス競賣手續ノ續行ヲ爲ス可キモノト定メタルモノナリ

第六百四十四條ノ規定ニ從ヘハ不動産ノ差押ハ競賣手續ノ開始決定ニ依リテ行ハル可キモノニテ競賣手續ノ開始ト不動産ノ差押トハ密着スルモノタルヲ知ル可シ即チ競賣手續開始セラル茲ニ差押行ハルト云ヘル關係タルコトハ該條ニ依リテ之レヲ知ル可シ而シテ競賣申立ハ實ニ競賣手續開始ノ發端ニシテ又之レカ基礎タルモノナルヲ以



テ本條第三項ヲ以テ差押消滅ノ原因トシテ競賣申立ノ取下ヲ數ヘタルハ最モ適當ノコト、云ハサル可ラサルナリ是レ基本已ニ消滅スルルハ之レヨリ出ル末葉ノ事實モ相伴ハサル可ラサルハ當然ノコトタルヲ以テナリ

第六百五十一條 裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲

ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿

ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

登記判事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

〔義解〕(三〇四) 競賣ノ申立ハ競賣開始決定ノ手續トナリ競賣開始ノ決定ハ不動産ニ對スル差押ノ効力トナル可キモノニテ差押ノ有無ハ前條見來ルカ如ク不動産ニ對スル債權者ノ權利ニ至大ノ關係ヲ有スルコトナルカ故競賣申立ノ之レアリタル事實及ヒ其日時ハ大ニ嚴格

ニ保テサル可ラス之レヲシテ嚴格ナラシメントスルニハ其事實ヲ登記簿ニ記入スルヲ以テ最モ適當ト爲ス其理由ハ之レヲ登記簿ニ記入スルトキハ一面ニ於テハ正確ニ其權利ヲ證明スルノ外更ラニ一般人ヲシテ差押ノ事實ヲ知ラシムルノ便宜アルコトニテ一ノ記入ヲ以テ二个ノ目的ヲ達スルヲ得ルカ故ナリ而シテ此ノ記入ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際ニ於テ執行判事ノ職權ヲ以テ爲ス可キコトニシテ別ニ關係者ノ申立テヲ要セス之レカ差押ヲ爲サント欲スルモノハ唯競賣開始ノ申立テヲ爲セハ足レルコトナリ而シテ執行判事ハ自ラ之レカ記入ヲ爲ス可キ職ニ在ラサルカ故本條ノ規定ニ從ヒ之レカ記入ヲ登記判事ニ囑託セサル可ラサルモノトス  
登記判事ハ第二項ノ規定ニ從ヒ囑託ヲ受ケタルトキハ必ス之レカ記入ヲ爲サル可ラサルモノニテ已ニ之レヲ記入スルトキハ該不動産



ハ茲ニ差押ヲ受クルモノナリ要スルニ本條ハ強制競賣ノ手續ヲ開始スルコトノ決定ヲ爲ストキハ之レヲ爲スノ基本タル競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入セシムルコトト定メ其之レヲ記入ス可キ方法ヲ定メタルモノトス

第六百五十二條 登記判事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ

爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不動産

上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲ

モ送付ス可シ

〔義解〕(二〇五) 本條ハ登記判事ニ於テ前條規定ノ方法ニ依リ競賣申立ノ事實ヲ記入シタル後ニ於テ盡ス可キ職務ノ規定ヲ爲シタルモノナリ

登記判事ニ於テ前條ノ規定ニ從ヒ記入ヲ終リタルトキ其登記簿ノ謄

本ヲ裁判所ニ送付ス可キコト、定メタルモノハ執行裁判所ニ於テハ此ノ謄本ニ依リ差押債權者ノ爲メニ競賣手續ヲ續行シ又他ニ權利ヲ主張セントスル者アルキハ之レヲ以テ對應スルコト、ナルカ故之レヲ備フルハ最モ必要ノコトタルヲ以テ之レヲ裁判所ニ送付セシム可キコト、定メタル所以ナリ又不動産上ノ權利者タル者ニ於テ其不動産ニ對スル權利ヲ證明スル爲メ證書ヲ提出シタルキ其證書ノ抄本ヲ送付ス可キコト、定メタルモノハ此ノ證書タル不動産ニ對シ權利ノ存在ヲ證ス可キモノタルヲ以テ登記簿ノ記入ト同シク之レカ爲メニ或ル權利ヲ保タシメントスルニハ其備付ヲ必要トスルモノナリ是レ登記簿ノ謄本ヲ送付セシムルト同一ノ精神ヲ以テ又之レカ送付ヲ命シタルモノトス

第六百五十三條 豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨



ク可キ事實カ登記判事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障碍ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ

〔義解〕(二〇六)本條ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル後ニ於テ其不動産カ或ル義務ヲ負ヒ若クハ或ル條件ニ繫カレ競賣ヲ遂行シ得サルモノタルコトノ發見セラレタル場合ヲ規定シタルモノニテ即チ執行裁判所ニ於テ若シ此ノ如キ事情ノ上ニ該不動産カ存在スルモノタルコトヲ知了シタリシトキハ競賣手續ノ開始ハ爲シ得サリシモノナルヲ以テ之レヲ爲サ、リシナランニ之レヲ知ラサルカ爲メ其手續ヲ開

始シ後ニ至リテ登記判事ノ通知ヲ受ケ初メテ其開始ノ不法ナルコトヲ知ルニ至リタル場合ヲ想定シタルモノナリ此ノ場合ニ於テハ執行裁判所ハ障碍ノ事情ニ依リテハ直チニ之レカ取消ヲ命スルコトヲ得ルコトト爲セリ是レ已ニ開始ノ其事實誤リニ出テタルコト判然シタルモノアルヲ以テ其誤リヲ見テ改ムルハ最も適當ノコトナルカ故ナリ若シ法律上ニ於テ此ノ規定ナキトキハ一旦發シタル開始ノ決定ハ遂ニ之レヲ改ム可キ機會ヲ得ス其誤リヲ無理ニ遂ケサル可カラサルコトトナリ其結果ハ他ノ正當ナル權利獲得者ヲ害スルカ如キコトニ至ルナキヲ保ス可ラス故ニ殊ニ本條ノ規定ヲ以テ若シ裁判所カ知ラサルニ坐シテ此ノ誤リヲ爲シタルトキハ之レヲ正スコトヲ得ルモノト定メタリ

此ノ障碍ニ於テモ輕重ノ度相異ナルモノアル可キハ自然ノコトニシ



ヲ或ハ全ク他ノ債權者ノ爲メニ該不動産カ侵ス可カラサルニ至リタルコトモ之レアル可ク或ハ又或ル條件ニ繫カレ條件ノ發生ニ依リテ其權利定マルコトモ之レアル可シ若シ登記判事ノ通知ニ依リ知り得タル事實カ該不動産上ニ對スル侵ス可ラサル權利ニ繫ルモノナルトキハ裁判所ハ當然其職務ヲ以テ之レカ取消ヲ爲サ、ル可ラス然レトモ其權利即チ不動産差押ニ付テノ障碍カ或ル條件若クハ或ル事情ニ原因スルモノニシテ之レカ消滅ヲ期ス可キモノナルトキハ其障碍ノ消滅ヲ證明セシムルヲ以テ強制執行ヲ續クルヲ得ルコトトナセリ之レヲ證明ス可キノ責ハ固ヨリ差押ニ依リテ債權ノ目的ヲ達セントスル差押債權者ニ之レアルモノニテ其證明ニハ適當ノ期間ヲ與フ可キコト、爲セリ故ニ其不動産ニ付キ債權ヲ行ハント欲スルモノハ不動産上ニ於ケル他ノ權利即チ強制執行ノ障碍トナル可キ事情ノ止息ヲ

詳ラカニシ之レヲ證明スルヲ勉メサル可ラス若シ債權者ニ於テ裁判所ノ命シタル期間内ニ之レカ證明ヲ爲ストテ得ス其期間滿了スルニ至リタルキハ裁判所ハ其不動産ニ於ケル障碍ノ爲メニ強制執行ノ手續ヲ取消ス可キコト、爲セリ是レ止ムヲ得サルコトニテ若シ其障碍ノ消滅セサルニ係ハラス強制執行ヲ續行スルニ至テハ他ノ正當ナル權利獲得者ヲ害セサル可カラサルニ至ルヲ以テ此ノ規定ヲ設ケテ其衝突ヲ調和シ以テ差押債權者及ヒ他ノ不動産上ノ權利者其他不動産ニ於テ負擔スル義務ノ間ニ平均ヲ保タシメタルモノナリ

**第六百五十四條 裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ**



〔義解〕(二〇七) 本條ハ不動産ノ競賣ヲ行フニ付キ必要ナル手續上ノコトヲ規定シタルモノナリ不動産ニ對スル權利ノ顯然タルモノハ租稅其他ノ公課ナリ蓋シ稅法ニ於テ最モ重モナル基礎ヲ爲セルモノハ不動産ニシテ不動産ハ必ス多少ノ稅ヲ負擔スルモノナリ故ニ苟モ不動産ノ存在スル以上ハ曾テ租稅其他ノ公課ヲ負擔シタルコトヲ知ル可ク其負擔ハ如何ニ盡サレタルヤヲ知ルハ最モ必要ノコトナリ何トナレハ租稅其他ノ公課ニ付テハ國稅滯納處分法ニ因リテ他ノ債權ニ先チ不動産ノ賣却代金ニ付キ之レカ徵收ヲ爲シ又其不動産ノ所有轉讓スルモノ之レヲ不動産ノ負擔トシテ其物件ニ付キ徵收ヲ爲スモノナルカ故競賣ニ先チ之レヲ調査シ現ニ其不動産上ノ負擔カ如何ニナルヤヲ知ルハ不動産ノ引受ヲ爲サントスル者及ヒ他ノ強制執行ノ利害關係人ニ於テ最モ必要ノコトト爲サ、ルヘカラス是レ本條ニ於テ

租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知ヲ爲サシメ不動産カ現ニ負ヘル稅法上ノ債務及ヒ其限度ヲ申出シムルコトト定メタル所以ナリ而シテ此ノ申出ニ付テハ固ヨリ期間ヲ定ム可キ必要アルモノナリ其理由ハ強制執行ハ或ル時日内ニ之レヲ結了セサル可カラサルコトタルヲ以テ若シ之レニ期間ヲ付セサルトキハ勢ヒ果行ノ時日ヲ確定スルニ困難ヲ生セサルヲ得サルニ至ルカ故ナリ之レヲ以テ主管官廳ハ此ノ催告ヲ受クルニ於テハ其期間ヲ尊重シ之レニ對シ其債權ノ存否又之レアリトスレハ幾何額ノ債權ナルヤ之レヲ詳ラカニシテ其申出ヲ爲サ、ル可ラス其申出アリタルトキハ裁判所ニ於テハ第六百五十五條及ヒ第六百六十六條等ノ手續ヲ盡ス可キ材料トシテ保存ス可キモノナリ

## 第六百五十五條 裁判所ハ登記判事及ヒ租稅其他ノ



公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人  
ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最  
低競賣價額ト爲ス

〔義解〕(二〇八) 本條ハ不動産ノ最低競賣價格ヲ定ム可キ時期及ヒ其  
方法ヲ定メタルモノナリ前條ノ規定ニ因リ見ル如ク裁判所ハ競賣手  
續ノ開始ヲ決定シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ向ヒ  
該不動産カ稅法上ニ於テ幾何ノ負擔ヲ有スルヤノ通知ヲ求メ之レカ  
調査ヲ爲サ、ル可ラス是レ開始決定後裁判所ニ於テ盡ス可キ第一ノ  
手續ナリ已ニ此ノ手續ヲ終リ其通知アリタルトキハ先ツ不動産ノ價  
格カ幾何額ノ價位ヲ有スルヤ鑑定人ヲシテ之レカ評價ヲ爲サシメサ  
ル可ラス是レ本條ニ於テ競賣手續ノ開始後第二ノ手續トシテ規定シ  
タル處ナリ此ノ評價ハ競賣ニ付セラル可キ不動産ノ最低價格ヲ知ル

可キ方法ニシテ即チ不動産ノ最低價格ナルモノハ此ノ評價ニ因リテ  
得タル評價格ヲ以テ其相場ヲ定ムルモノナリ此ノ最低價格ヲ知ルノ  
必要ハ第六百五十六條以下ニ至リ知り得ヘキコトニシテ本條ニ於テ  
ハ競賣ヲ果タスノ上ニ於テ最低價格ナルモノヲ定ムルトノ必要アル  
コト及ヒ其之レヲ定ムルハ如何ナル手續ニ因リ又如何ナル時期ニ於  
テ之レヲ爲スモノナルヤヲ知ルヲ以テ満足セサル可カラズ而シテ本  
條ノ法文ハ明瞭ニ之レヲ示シテ仔細ニ講説ヲ要ス可キモノ之レアラ  
ス

第六百五十六條 裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押  
債權者ノ債權ニ先ツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ  
手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルト  
キハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ



右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債権者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ受ク可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣手續ヲ取消ス可シ

〔義解〕(二〇九) 本條ハ前條ニ於テ不動産ノ最低價格ヲ定ム可キコトヲ規定シタルカ故最低價格ヲ定ムルノ必要即チ之レヲ定メタルノ効果ヲ規定シタルモノナリ前條ノ規定ニ從ヒ已ニ競賣手續ノ開始セラレタルトキハ評價人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價ニ因リテ得タル價格ヲ以テ最低價格ト爲スコトナルカ故裁判所ハ此ノ競賣最低價格ヲ標準トシ其不動産ノ凡テノ負擔即チ租稅其他ノ公課及ヒ特別ナル不動産上ノ責任並ニ競賣手續ニ關スル諸費用ヲ計算シ其額幾

何ニ上ルヤヲ知リ其合算額ト評價人ノ定メタル最低競賣價ト對照シ之レヲ差引キスルトキハ剩餘ノ出ルコトナク結局差押債権者ノ請求ヲ充テス可キモノ之レヲサルトキニハ其次第ヲ差押債権者ニ通知セサル可ラス例之ハ差押債権者カ一千圓ノ債權ヲ行フ爲メ債務者ノ所有スル或ル土地ノ競賣ヲ求メタルニ其土地ハ抵當トナリ八百圓ノ債務ヲ負ヘルモノニア此ノ抵當債権者ノ權利ハ他ノ一般ノ債權ニ先ヅツ可キモノナルカ故之レヲ差引カサル可カラサルコトトナリ又租稅其他ノ公課及ヒ手續ノ費用ヲ合セテ二百圓ニ上ルトキノ如キ若シ評價人ノ定メタル最低評價額ニシテ一千圓ニ止マルトキハ到底差押債権者ノ要求ヲ充テス可キモノ之レナル可ラス此ノ如クナルトキハ差押債権者ハ種々ノ勞ヲ盡シテ其得ル所ヲ償ハサルニ至ラサル可ラス故ニ競賣ノ要求ハ之レヲ爲サ、ルコソ却テ得策ノコトトナ



ルナリ是レ第一項ヲ以テ若シ此ノ如キ結果ヲ見ルニ於テハ之レヲ差押債権者ニ通知ス可キコトト定メタル所以ナリ  
 差押債権者ハ此ノ通知ヲ受ケタルトキハ其利害ヲ計較シ競賣ノ請求ヲ抛擲スルカ又強ヒテ之レヲ求メントスルニハ自ラ存スルト信スル一定ノ價格ヲ表出シ評價人ノ定メタル最低價格以上ニ該不動産カ位スルコトヲ申出テ若シ自ラ信スル價格マテニ競賣ノ價格上ヲサルトキハ其價格ヲ以テ不動産ノ引受ケテ爲ス可キコトヲ十分ナル保證ヲ立テ、請求セサル可ラス此ノ請求ナキトキハ該競賣ハ競賣ノ爲メニ利益ヲ生スルコト之レアラサルモノト看做シ其手續ヲ取消ス可キモノナリ之レヲ前段ニ設ケタル例證ニ照ラスニ最低價格千圓ト定マリ又該不動産カ差押債権者ノ債権ニ先ヅツ可キ負擔ヲ千圓ニ及フマテ有スルトキノ如キ差押債権者ハ該不動産ニ於テ定マリタル最低價格

ヲ不當ト爲シ千五百圓ハ必ス其價位ヲ有スルモノトスルトキハ若シ之レヲ競賣ニ付シテ千五百圓以上ノ競選人ナキトハ自ラ千五百圓ニ其引受ケテ爲ス可キコトヲ申立テ競賣ヲ果テサシムルヲ得ルコトナリ然レトモ此ノ申立ニシテ若シ實行セラル、コトナク競落ノ價格ハ意外ニ低ク差押債権者ハ之レヲ引受ケスト云フカ如キコトアルニ至テハ競賣ヲ爲シタル手續及ヒ之レニ關スル費用ハ徒ラニ償フ可ラサル損失トナル可キコトタルカ故此ノ如キ憂ヒテ防ク爲メ此ノ申出ニ付テハ十分ノ保證ヲ立テシム可キコト、爲セリ此ノ保證タル競賣ノ結果差押債権者ノ申出テタル價格以下ニアルトキニ於テ之レヲ引受ケシムルノ用意ナルカ故其之レヲ引受クルニ足ル可キコトヲ程度トシテ其保證ヲ立テシメサル可ラス十分トハ即チ此ノ意ニシテ之レヲ強ヒテ競賣ニ付シ何人モ差押債権者ノ見込通リニ引受ケサルトキ彼



自身ヲ引受ケシムルニ足ル可キ用意即チ該不動産カ其請求スル  
債權ニ先ダテテ盡サ、ル可ラサル負擔ニ相當スル程度ノ保證ヲ供ヘ  
シメサル可ラサルナリ若シ差押債權者ニシテ此ノ手續ヲ盡サ、ルキ  
ハ該不動産ノ競賣ハ到底其効果ヲ收ムルニ足ラサルモノト看做シ其  
手續ヲ取消サ、ル可ラス是レ徒ラニ競賣ヲ爲スハ費用ト手数トヲ加  
フルノミニテ一モ其効果之レアラサルコトタルヲ以テナリ

第六百五十七條 裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費  
用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルトキ又ハ差押債權  
者前條第二項ノ申立ヲ爲シ十分ナル保證ヲ立テタ  
ルトキハ職權ヲ以テ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メ  
テ之ヲ公告ス

〔義解〕(二一〇) 本條ハ競賣手續ノ開始後ニ於テ前數條ニ定メタル手

續ヲ經盡シ評價ニ因リテ不動産ノ最低價格ヲ知り又タ諸他ノ負擔ヲ  
調査シテ競賣ニ付スルヲ以テ適當ト爲スヤ否ヤヲ知リタル上ニテ盡  
ス可キ裁判上ノ手續ヲ定メタルモノナリ即チ前條第一項ニ規定シタ  
ル差押債權者ノ債權ニ先ダツ不動産上ノ凡テノ負擔及ヒ手續ヲ辨濟  
シテ剩餘ヲ得ヘキ見込アルトキ又ハ其第二項ニ規定シタル此ノ剩餘  
ノ見込之レアラストスルモ差押債權者ニ於テ自ラ相當ノ見積價格ヲ  
定メ競賣ノ結果此ノ價格以下ニ止マルトキハ自ラ此ノ價格ヲ以テ引  
受ク可シトノコトヲ申出テ之レニ十分ナル保證ノ供託ヲ爲シタルト  
キハ競賣期日及ヒ競落期日ヲ定メ之レヲ公告セサル可ラス此ノ期日  
ハ裁判所ノ職權ヲ以テ定ム可キモノニテ此ノ期日決定ニ付テハ競賣  
關係人ヨリ別段申立ヲ爲スノ必要之レアラサルモノナリ競賣ノ期日  
ト競落ノ期日ト區別シタルモノハ先ツ其不動産ヲ競落セント欲スル



者ヲシテ其競買ノ價額ヲ申出シテ而シテ後其何人ニ於テ之レヲ競落シタルヤヲ定ムル爲メ二个ノ期日ヲ設ケシメタルモノ(第六百五十九條第六百六十條)ニテ裁判所ハ職權ヲ以テ當然競賣ヲ爲ス可キ凡テノ手續ヲ結了シタルトキニ於テ之レカ決定ヲ爲シ及ヒ之レカ公告ヲ爲サ、ル可ラサルモノトス

第六百五十八條 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具

備スルコトヲ要ス

- 第一 不動産ノ表示
- 第二 租稅其他ノ公課
- 第三 賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃
- 第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
- 第五 競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ

執達吏ノ氏名並ニ住所

第六 最低競賣價額

第七 競落期日ノ場所及ヒ日時

第八 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所

第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ

有スル者其債權ヲ申出ツ可キ旨

第十 利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨

〔義解〕(二一一) 本條ハ不動産ノ競賣ヲ實行ス可キ諸手續完備シ競賣期日ノ公告ヲ爲ス場合ニ於テ其公告中ニ具備ス可キ諸要件ヲ列記シタルモノナリ而シテ此ノ規定ハ執行裁判所ニ於テ競賣期日ノ公告ヲ爲スノ際必ス遵奉セサル可カラサルモノニテ公告中ニ於テ之レヲ具ヘサル可ラサルナリ今其各項ニ付キ其條件ノ必要ナル理由ヲ講説ス



可シ

第一 不動産ノ表示トハ競賣ニ付セラル可キ不動産ヲ表示スルノ意ニシテ即チ何レノ所ニ在ル耕地宅地何町何畝何歩ト云ヘルカ如ク競賣ノ目的物ヲ明示スルコトナリ是レ競賣ノ本躰トナル可キモノナルカ故競賣ヲ行ハントスルニハ必ス之レヲ示スノ要アルモノナリ

第二 租税其他ノ公課ヲ公告スルハ該不動産固有ノ負擔タル可キモノナルヲ以テ不動産ノ價值ヲ定ムルニ於テ此ノ諸負擔ヲ明ラカニスルコト最モ必要ナリ且ツ現ニ該不動産カ幾何ノ負擔ヲ有シ又將來幾何ノ負擔ヲ有セサル可カラサルヤ之レヲ詳ラカニスルハ競賣ニ因リテ之レカ競落ヲ爲サントスルモノニ於テ必ス知ルヲ要ス可キコトナリ若シ是等ノ負擔明ラカナラサレハ不動産

ノ眞價值知リ得ヘカラサルコトタルカ故競賣ノ公告中ニ於テ之レヲ明細ニ示シ競落ヲ爲サント欲スル者ノ要意ニ供シタルモノナリ

第三 若シ不動産カ賃借契約ノ目的物トシテ存スルトキハ其契約ニ因リテ賃料ハ幾何ニ定マレルヤ又其賃貸ノ期限ハ何年ナルヤ之レヲ明細ニ公告セサル可カラス民法ノ規定ニ從ヘハ賃借ハ不動産上ニ於ケル物權ニシテ契約者ハ不動産ノ所有カ何人ニ轉スルヲ問ハス不動産ノ上ニ其權利ヲ行フヲ得ルモノナルカ故不動産ヲ買得セント欲スル者ニ於テハ該物件ニ賃借契約ノ有無ヲ調査スルコト最モ必要ナリ何トナレハ高貴ノ價ヲ抛テ不動産ヲ購ヒタルニ其不動産ハ賣渡人ト第三者トノ間ニ賃借契約成立シ其賃料ハ非常ニ低廉ニ賃借期限ハ非常ニ長久ナリト云フカ如



キコトアルニ至テハ偶之レヲ買得シタル者ニ於テハ少ナカラサル損失ヲ招カサル可ラス故ニ賃借契約ノ不動産上ニ存立スルトスレハ其借料ハ幾何ニシテ其期限ハ如何ナルヤヲ調査シ之レヲ公告ス可キハ競賣ニ應シテ競落ヲ爲サント欲スルモノノ爲メニ最モ必要ノコトナリトス

第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨ヲ公告セサル可ラサルノ要件トシテ數ヘタルハ最モ明白ノコトナリ何トナレハ公告ノ主眼ハ強制執行ニ因リテ競賣ヲ爲スカ故之レヲ買得セント欲スルモノハ競落ヲ試ム可キコトヲ普ク知ラシムルコト之レ公告ヲ必要トスル所以ニシテ其他ノ事項ノ如キハ此ノ競賣物ノ形狀ヲ示シ競落者ニ便宜ヲ與フル爲メ附加シタル條項ト云フモ不可ナキモノナリ故ニ第四項ノ要件ハ茲ニ數ヘタル幾多ノ要件中ニ於テ公告

ノ主眼ト爲ル可キモノタルヲ知ラサル可カラス

第五 競賣ハ何月何日何時何ノ地ニ於テ之レヲ行フトノコト及ヒ競賣ノ事務ヲ管掌スル執達吏ハ何某ニシテ何レノ地ニ住スルヤノコトヲモ亦之レヲ公告セサル可カラス此ノ日時場所ハ競賣ニ應シ競落ヲ爲サント欲スル者ニ於テ欠ク可カラサル必要アルモノニテ執達吏ノ住所氏名ノ如キ又就テ該目的物ノ仔細ヲ質サントスル者ニ於テ必要ノコトナルヲ以テ之レヲ公示セシムルコト、定メタルモノナリ

第六 最低競賣價額トハ第六百五十五條ノ規定ニ因リ執行裁判所ニ於テ評價人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメタル其評價格ニシテ即チ之ヲ以テ不動産ノ最低價格ト爲スコトハ該條ニ於テ講説シタル所ナリ此ノ價格ヲ公示スルノ必要ハ不動産ノ競賣ハ此ノ



價格以上ニ出テサレハ之レヲ果行セサルノ規定ナルカ故其最低價格ハ果シテ如何ニ定マレルヤ不動産ノ競落ヲ試ミル者ヲシテ豫メ之レヲ知ラシムルハ最モ必要ノコト、云ハサル可ラス是レ茲ニ公告ノ要件トシテ數ヘタル所以ナリ

第七 競落期日ノ場所日時ヲ公告スルノ必要ハ第五項ノ場合ト同一ノ理由ニシテ其已ニ行ハレタル競賣ハ何レノ地ニ於テ何人カ競落人タルヤヲ定ム可キヤ豫メ之レヲ一定シテ公示スルコト又競落ヲ争フ者ニ於テ最モ必要トスル所ナリ

第八 執行記録トハ不動産ノ競賣手續開始ノ決定後執行上ニ關スル凡テノ事實ヲ記録ニ止ム可キコトナルカ故其執行上ニ關スル記録ハ之レヲ競賣ニ應セントスル者ヲシテ閱覽自在ナラシメサル可カラス何トナレハ競賣物件ノ形狀及ヒ競賣ニ關スル故障其

他ノ事實擧ケテ執行記録ニ詳ラカナルモノナルカ故之レヲ後ニ權利ヲ獲得セント欲スル者ニ周知セシムルハ最モ必要ノコトナルヲ以テナリ故ニ此ノ記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所ヲ一定シ競賣期日ノ公告ヲ爲スノ際之レヲ公告セサル可ラサルト一定メタリ

第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有スル者トハ土地家屋以外ノ不動産ニ對シ權利ヲ有スル者ノ如キ又現行法律ニ於テハ賃借契約ノ如キ使用契約ノ如キ凡テ登記簿ニ記入ヲ爲サスシテ不動産上ニ其權利ヲ主張シ得ル者ニシテ其例少ナシト爲サス此種ノ債權者ハ競賣期日マテニ其債權ノ申出ヲ爲シ一般ノ債權ニ先ダテテ其權利ヲ行フヲ得ルコトナルヲ以テ債權者タル者ニ於テ之レカ申出ヲ爲ス可キコトモ亦公告セサル可ラス是レニハ不動産上債權者ノ權利ヲ保護スルカ爲メニ必要ノコトニシテ



又凡テノ關係者ニ對シ其利害ヲ及ホス可キモノナルカ故之レヲ  
公告シテ其申出ヲ爲サシムルコトト定メタルモノナリ

第十 利害關係人即チ第六百四十八條ニ於テ定メタル數多ノ關係  
者ハ競賣期日ニ出頭シ其競賣カ如何ニ行ハル、ヤヲ監査スルコ  
ト最モ必要ナルヲ以テ該期日ニ於テ出頭ス可キ旨ヲ公示ス可キ  
コトト定メタリ然レモ此ノ期日ニ於テ出頭セサル者ニ對シテハ  
別ニ制裁ノ存スルモノアラス唯自ラ權利ヲ抛擲シタルモノト看  
做シ出頭セサルニ係ハラフス競賣ノ事ヲ行ナヒ異日苦情ヲ唱フル  
ヲ許サ、ルノミ

以上競賣期日ノ公告ニ必要ナル條件ニシテ競賣期日ノ公告ト稱スト  
雖モ其公告ハ右ニ數ヘタル十個ノ條項ヲ以テ成レルモノニテ即チ競  
賣期日ノ公告ト稱スルモノヲ解剖スレハ此ノ十項ヲ包含セルモノナ

ルコトヲ知了セサル可ラサルナリ

第六百五十九條 競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクト

モ十四日ノ後タル可シ

此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ  
場所ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

〔義解〕(一一二) 前條ニ於テ競賣期日ノ公告ヲ爲ス可キコト及ヒ其公  
告ハ如何ナル事項ヲ以テ之レヲ爲ス可キヤノコトヲ定メタリ而シテ  
本條ハ此ノ公告ハ競賣期日ヨリ幾日ノ前ニ於テ之レヲ爲ス可キヤ即  
チ公告ト競賣期日トノ間ニハ幾日ノ猶豫アルヲ要スルヤノコト及ヒ  
此ノ競賣ハ何レノ場所ニ於テ之レヲ開ク可キモノナルヤノコトヲ定  
メタルモノナリ

競賣期日ハ公告ヲ爲シテヨリ少クモ十四日ヲ過キサル可カラサルコ



ト、定メタリ即チ之レヲ競賣ニ付ス可キコトヲ公告シタルトキハ其  
 公告ニ於テ競賣ノ期日ヲ十四日以内ニ定ムルコトヲ得ヘカラス必ス  
 之レカ公告ヲ爲シタル日ト競賣ヲ爲スノ期日トノ猶豫ハ十四日以上  
 ナ保タサル可ラス是レ公告ニ依リテ不動産上ニ權利ヲ主張スルモノ  
 ト行フ可キ手續少ナカラサルカ故此等ノ者ニ競賣ノ時日ヲ周知セシ  
 メ其當サニ盡スヘキ手續ヲ盡サシムルカ爲メ此ノ猶豫ヲ與フルコト  
 ト爲シタルモノナリ故ニ若シ裁判所ニ於テ此ノ規定ヲ犯シ十四日以  
 内ニ競賣期日ヲ定ムルカ如キコトアルニ於テハ利害關係人ハ本條ノ  
 規定ニ基キ之レヲ異議スルヲ得ルモノナリ  
 第二項ニ此ノ期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ  
 於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシムト定メタルハ競賣ノコトニシテ之レ  
 ナ期日ト稱シタルモノハ競賣ト競落トノ間ニ區別ヲ設ケ一ヲ競賣期

日ト稱シ他ヲ競落期日ト定メタルカ故競賣期日ナル語ハ法律上ノ一  
 用語トシテ唯競賣ニ關スル事柄ノミヲ行ハシムルコトト定メタルカ  
 故此期日ハト單記シ競賣期日ノコトヲ明ラカニシ此ノ競賣期日ハ裁  
 判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ之レ  
 ナ開カシムルコトト定メタリ即チ執達吏ヲシテ競賣ノ事務ヲ管掌セ  
 シムルノ意ナリ而シテ之レヲ命スルハ裁判所ニシテ裁判所ハ其意見  
 ナ以テ之レヲ決定スルヲ得ルモノトス

第六百六十條 競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過ク  
 ルコトヲ得ス

此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

〔義解〕(二一三) 本條ハ競賣ノ事務已ニ終ハリ何人ニ於テ競落ヲ爲シ  
 タルヤヲ定ムルノ期日及ヒ其之レヲ開ク可キ場所ヲ定メタルモノナ



リ不動産ノ競賣ニ付キ競落ヲ欲スルモノハ裁判所ニ於テ公告シタル  
 競賣期日ニ於テ自ラ引受ケント欲スル價格ヲ定メ之レヲ競賣ノ場所  
 ニ申出テサル可ラス執達吏已ニ此ノ申出ヲ纏メテ競賣期日ヲ終リタ  
 ルトキハ裁判所ニ於テ更ニ競落期日ヲ開キ何人カ競落者タル可キヤ  
 ノコトヲ定メサル可カラズ而シテ此ノ競落期日ハ競賣ノ期日ヨリ七  
 日ヲ過クルコトヲ得ストス固ヨリ競賣ヲ終リテヨリ競落ヲ定ムルマ  
 ナ數多ノ日子ヲ要ス可キ理由モ之レアラサルコトタルヲ以テ七日以  
 内ニ於テハ必ス競落期日ヲ定メ之レヲ決セサルヘカラサルモノト爲  
 セシモノナリ

前條ノ期日即チ競賣ノコトハ裁判所ノ意見ヲ以テ之レヲ裁判所内又  
 ハ他ノ適當ノ場所ニ開クコトト定メテ之レトモ本條ノ期日即チ競落ノ  
 期日ハ必ス之レヲ裁判所内ニ開ク可キコトト定メテ之レトモ是レ競賣期日

ト競落期日トノ場所ニ付キ法律ノ規定ヲ異ニシタル點ニシテ本條ノ  
 コトヲ以テ必ス裁判所ニ於テ開カシムルモノハ法律ニ於テ競落ノコ  
 トヲ慎重シ最モ嚴格ニ之レヲ遂行セシコトヲ期シタルニ出ルモノナ  
 リ

第六百六十一條 競賣期日ノ公告ハ左ノ箇所ニ揭示

シテ之ヲ爲ス

第一 裁判所ノ揭示板

第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板

此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新  
 聞紙ニ掲載スルコトヲ得

〔義解〕(二一四) 本條ハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス可キ場所ヲ定メタルモ  
 ノナリ明文ニ於テ示スカ如ク競賣期日ヲ公告スルニハ裁判所ノ揭示



板及ヒ不動産所在地ノ市町村ノ揭示板ニハ必ス之レカ公告ヲ爲サ、ル可カラス此ノ二个ノ場所ハ法定ノ揭示場ニシテ裁判所ニ於テ必ス之レヲ爲サ、ル可カラサル所ナリ裁判所ノ揭示板ニ之レヲ爲サシムルハ該競賣ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルモノヲシテ之レヲ識認セシムルノ便宜ヲ與ヘ不動産所在地ノ市町村役場ノ揭示板ニ公告セシムルハ該不動産上ニ權利ヲ有シ又ハ其他ノ關係ヲ有スルモノヲシテ之レヲ識認セシムルノ便宜ヲ無ヘンカ爲メナリ而シテ他ノ一面ヨリ云ヘハ此二个ノ場所ハ不動産ヲ競落セント欲スル者ノ最モ多ク集マレル處ナルカ故之レヲ公告スルハ競落人ニ對シ多ク便宜ヲ與フルコト、ナルカ故此ノ二个ノ場所ニ揭示ス可キコトヲ命シタルモノナリ然レモ不動産ノ種類ニ依リ又或ハ土地ノ狀況ニ依リ此ノ二个ノ場所ノ揭示ヲ以テ足レリト爲サ、ルコト之レアル可シ此ノ場合ニ於テハ

裁判所ハ競賣ノ目的ヲ十分ニ達セシムルカ爲メ其意見ヲ以テ一箇又ハ數个ノ新聞紙ニ廣告スルコトヲ得ルコトト爲セリ此ノ廣告タル競賣ノ費用ハ幾分カ多額ニ出ルヲ免カレサントモ普ク競買人ヲ集メ競落ノ度ヲ上進スルニハ大ニ與リテカアルモノナルカ故場所ト場合トニ依リテハ之レカ爲メ甚々利益ヲ占ムルコトアルヲ知ル可シ故ニ此ノ決定ハ一ニ裁判所ノ意見ニ因ルコトト爲シ且ツ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ付テモ其擇ム處ニ任スルコトト爲セシモノナリ

第六百六十二條 最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限り之ヲ許ス但此合意ハ競賣期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕(三一五) 本條ハ競賣ニ關スル諸條件ノ變更ヲ競賣ニ付テノ利



害關係人ノ自由ニ任セタル法條ナリ

競賣ニ因リテ不動産ヲ賣却スルノ主意ハ該競賣ニ於ケル利害關係人ノ爲メニ之レヲ爲スモノナルコトハ更ラニ言フテ要セス故ニ其競賣ニ付キ定メタル數多ノ條件ノ如キモ一ニ利害關係人ノ爲メニ利益ヲ保テシメントスルノ意ニ出アサルモノアラス此ノ理由ヨリシテ法律上ノ此ノ規定ハ其利益關係人ニ於テ實際之レヲ不可ナリト爲シ之ヲ變更セント合意スルニ於テハ其變更ヲ自由ニ任スルコトト爲セリ唯最低競賣價額ニ至テハ不動産其物ノ眞價ヲ知ルノ必要上ヨリシテ適當ノ鑑定人ニ命シテ之レヲ爲サシムルコトタルカ故之レヲ利害關係人ノ意志ニヨリ變更シ得ヘカラサルハ當然ノコトナリ何トナレハ此ノ最低價額ヲ定ムルハ競賣ノ爲メタルニハ相違アラサントモ裁判所ニ於テ競賣手續ヲ果行ス可キヤ否ヤテモ之レニ因リテ其方針ヲ定ム

可キモノニテ且ツ特別ナル觀察ヨリシテ其決定ヲ爲スモノナルカ故之レヲ競賣ヲ果タス可キ他ノ諸條件ニ比較スレハ大ニ其性質ヲ異ニスルモノ之レアルヲ以テナリ而シテ此ノ合意ノ變更ハ之ヲ競賣期日ニ至ルマテノ間何時ニテモ爲シ得ヘキモノト定メタリ是レ競賣期日ニ至ルマテハ競落ヲ欲スル者ニ於テハ未タ手ヲ着ケサルコトナルカ故此ノ期日マテニ變更スルトキハ之レカ爲メニ其害ヲ蒙ルコト之レアラサルヲ以テナリ若シ競賣期日已ニ終ハリ競落期日ニ至ルノ間ニ至テハ已ニ公告ニ依リテ定マレル競賣法ニ從ヒ法律ノ規定ニ從ヘルモノナルコトヲ領シ競落ヲ欲スル者ニ於テ申出ヲ爲シタルコトナルカ故之レヲ變更スルニ至テハ少ナカラサル利害ヲ競買人ニ及ホスノ恐レアルモノナレハ之レヲ變更スルヲ許サ、ルヲ以テ適當ト爲サ、ル可ラス是レ競賣期日ニ至ルヲ限リトシテ之レカ變更ヲ自由ニ許ス



コト、定メタル所以ナリトス

第六百六十三條 競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告ス可シ

〔義解〕(三一六) 本條ハ競賣期日ヲ開キタル後ニ於テ執達吏カ盡ス可キ職務ノコトヲ規定シタルモノナリ競賣期日ヲ開キタルトキハ執行上ニ關シ執達吏ノ作ル可キ記録モ調フコトナルカ故執達吏ニ於テハ其執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供セサル可ラス即チ不動産ノ強制執行ニ關スル顛末ヲ記録ニ止メ之ヲシテ競賣ニ付キ關係ヲ有スル各人ニ閱覽セシムルハ必要ノコトナリトス特別ノ賣却條件アルトキトハ普通ノ競賣法ニ依ラス別段ノ方法ヲ以テ之レカ賣却ヲ爲ス可キコトアルルホノコトニシテ事情ニ因リ或ハ之レヲ爲サ、ル可カラサルコト生

スヘキカ故此ノ場合ニ於テハ其特別ナル條件ヲ告知セサル可ラザルナリ而シテ競賣期日ニ於テ競買ヲ申出タル者ニ對シテハ幾何ノ價格ヲ以テ之レヲ引受ケントスルモノナルヤ即チ競買ノ價格ヲ申出ツ可キコトヲモ併セテ催告セサル可ラサルモノトス此等ハ凡テ執達吏ノ職務ニシテ競賣期日ノ初マリテヨリ競落ノコト終ルマテ其間ノ手續ハ執達吏之レヲ擔當シテ處理セサルヘカラサルモノトス

第六百六十四條 利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメンコトヲ申立ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サス  
右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述



フルコトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ  
競買ニ付テモ亦効力アリ

〔義解〕(三一七) 本條ハ不動産ノ競買ヲ爲サント欲スルモノヲシテ保證ヲ立テシムルコトノ規定ナリ若シ不動産ノ競買ニ際シ之レカ競買ヲ申出テ他ニ競買者アルニ係ハラズ其買受權ヲ獲得シ之レテ競落スルノ時ニ至リ代價ヲ拂入レサルカ如キモノアルニ至テハ不動産ノ競賣上ニ無用ノ手數ヲ費サ、ル可カラサルコトナリ之レカ爲メニ再度ノ競買ヲ試ミ遂ニ其期セシ價ヲ得ル能ハサル等意外ノ損失ヲ招クコト之レナシト云フ可ラス之レヲ以テ苟モ競買ヲ申出タル者ニ於テハ之レカ引受ケテ爲スニ足ルノ基礎ヲ定メシムルコト必要ナリトス是レ本條特ニ保證ノコトヲ規定アル所以ナリ然レトモ此ノ保證タル競買人ニ於テ萬一テ賭シ奇利ヲ試ミントスル

カ如キモノアル場合ニ於テ初メテ必要アルモノニテ若シ其身許確實ニシテ自ラ申出タル競買價格ニ付キ之レヲ負擔スルニ苦ムカ如キ情況ナキニ於テハ固ヨリ之レヲ立テシムルノ必要アルモノニアラス故ニ其申出ハ競賣ニ付テノ利害關係人ヨリ之レヲ爲スニ於テ初メテ立保證ノコトヲ決定ス可キコトト定メタルモノナリ且ツ保證ヲ立ツルコトモ其競買者全躰ニアラスシテ或ル競買人ノ爲メニ之レヲ爲サシメントノコトナル可キカ故其競買人ニ對シ自己ノ申出タル競買價格十分ノ一ニ當ル金額ヲ執達吏ニ預ケシムルコトヲ爲セリ固ヨリ此金額ハ或ル現金ヲ以テスルモ或ハ有價證券ヲ以テスルモ隨意ニシテ之レヲ執達吏ノ手許ニ預クヘキモノト爲セリ價格十分ノ一ニ當ルモノヲ以テ保證金ト爲ス可キコトト定メタルモノハ若シ其競買ヲ取消シ更テ之レヲ行ハサル可カラサルニ至ルモ其費用ヲ償フニ足ルノ用



意ヲ爲サシメタルモノナリ故ニ若シ競買人ニ於テ競買價格ノ拂込ミ  
 ヲ爲サスシテ再ヒ競賣ヲ行ハサル可ラサルカ如キ不都合ヲ與フルニ  
 至テハ保證金ヲ以テ之レニ關スル失費ヲ償フ可キモノトス之レニ依  
 リ其保證ヲ請求セラレタルモノニ於テ之レヲ行ハサルトキハ競買人  
 ト爲スコトヲ拒ミ競買ヲ爲サシメサルコトヲ得ルモノナリ  
 第二項ニ於テ定メタル右申立トハ立保證請求ノ申立ニシテ即チ競賣  
 ヲ申出テタル者ニ對シ保證ヲ立テテコトヲ請求セントスル場合ニ於  
 テハ競買價格ノ申出ヲ爲シタル後直チニ之レヲ述フ可キモノナリ故  
 ニ此ノ規定ニ反シ已ニ競買申出ノ後、日ヲ經タルトキニ於テハ之レヲ  
 請求スルヲ得サルモノナリ  
 然レトモ此ノ保證ヲ立ツルコトノ請求タルヤ競買人其人ニ對シ其契  
 約ノ履行ヲ危ムヨリ來ルモノナルヲ以テ若シ保證ノ請求ヲ受ケタル

競買人カ更ラニ其後ノ競買ヲ爲サント欲スルトキニモ其効力ヲ有セ  
 シムルコトト爲シ再ヒ之レカ請求ヲ爲サ、ルモ裁判所ハ一回請求ヲ  
 受ケタル事實ヲ以テ之レニ保證ヲ立ツルコトノ命令ヲ下ス可キモノ  
 ナリ是レ保證ヲ立ツルハ競買ノ事實ト相伴フ可キモノニアラスシテ  
 人ノ身分ト相伴フ可キコトタルカ故之レヲ此ノ如ク定メタルモノナ  
 リ

第六百六十五條 競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ

高價ノ競買ノ許アルマテ其申立テタル價額ニ付キ

拘束ヲ受クルモノトス

競賣ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過  
 クルニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得ス

〔義解〕(三一八) 本條ハ競賣買ヲ實行スル場合ニ於テ競買人タル者ノ



責務及ヒ競賣終局ノ時間ヲ規定シタルモノナリ  
 競買ヲ許サレ其競買價額ノ申出ヲ爲シタルトキニ於テハ若シ其競買  
 人ノ申出タル價額以上ヲ以テ不動産ノ引受ケヲ爲サント申出ツル者  
 之レアラサルニ於テハ其已ニ申出テラレタル中ニ就キ最高ノ競買申  
 出人ニ競落ス可キモノナリ故ニ各競買人ハ自己ノ申出タル價額ヨリ  
 以上ヲ以テ競買ヲ申出ツルモノ之レアルマテハ其自ラ申出タル價額  
 ヲ以テ引受ク可キ責任ヲ有スルモノナリ競買ノ性質トシテ其申出タ  
 ル價額以上ニ更ラニ他ヨリ競買ノ申込ヲ爲シタルモノアルトキハ先  
 キノ低價ナル競買申込人ノ申出ハ自然消滅ス可キコトナルヲ以テ此  
 ノ場合ニハ全ク關係ヲ有セサルコトナルモノナリ唯其之レヨリ以上  
 ニ買受ケンコトヲ申出ツルモノナキ以上即チ自己ノ申出額ヨリ以上  
 ヲ以テ買受ケンコトヲ請求スルモノ之レアラサル間ハ其申出價額ニ

付キ拘束ヲ受ク可キモノトス是レ競賣ハ最高ノ競買者ニ於テ之レカ  
 引受ヲ爲シ其代價ヲ償却シ物件ノ引取リヲ爲ス可キ規定ナルカ故更  
 ラニ高價ノ競買ヲ申出ツル者アル迄ハ現ニ見ハレタル最高競買者ニ  
 於テ代價ヲ交付シ物件ノ引取リヲ爲ス可キ責務アルモノトス價額ニ  
 付キ拘束ヲ受クルトハ即チ此意義ニシテ申出ノ價額ヲ以テ引受ケサ  
 ル可カラサル責務ノ中ニ之レアルモノナリ

第二項ハ競賣終局ノ時期ヲ定メタルモノナリ即チ競賣期日ニ於テ執  
 達吏ヨリ競買價額ノ申出ヲ催告スルノ規定ナルカ故此ノ催告ヲ受ケ  
 タル競買申出人ハ其競買價額ヲ申出テサル可カラス而シテ此催告ヲ  
 爲シタルヨリ尙ホ滿一時間ノ後ニ至リ之レカ終局ヲ爲ス可キモノト  
 定メテ之レ一層高價ニ競買セント欲スルモ時間ノ爲メニ妨ケラル  
 、カ如キ者アラソコトヲ恐レ法律上特ニ此ノ注意ヲ設ケタルモノナ



第六百六十六條 執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告知ス可シ他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムル權利アリ

〔義解〕(二一九) 本條ハ競賣終局ノ方法及ヒ競賣終局ヨリ出ツル結果ヲ規定シタルモノナリ

執達吏ニ於テ競賣ノ終局ヲ告知セントスルニハ先ツ競賣場ニ現ハレタル競買人中其中申出價額ノ最高ナルモノヲ以テ競落人ト爲スコトナルカ故其競買人ニ就キ最高ノ競買價額ハ何程ニシテ之レヲ申出シタル人ハ何人ナルヤ一般競買人ニ知得セシムル爲メ執達吏之レカ呼上

ケヲ爲シ茲ニ競賣ノ終局シタルコトヲ告知セサル可ラス是レ競賣終局ノ方法ニシテ競買ハ此ノ告知ト共ニ終局セラル可キモノタルヲ知ラサル可カラズ

競賣ノ終局ハ第一ニ最高競買人ヲシテ競落者タルノ權利ヲ發生セシメ第二ニ競落者以外ニ競買申出ヲ爲シタル各人ヲシテ其競買ニ關スル責務即チ競賣ニ應シテ之レカ引受ケテ爲サントシタル各人カ此ノ申出ノ爲メニ繋カル可キ約旨ニ付テノ拘束ヲ解カル可キ効果ヲ生スルモノナリ而シテ此ノ免責ノ効果ハ之レト同一ノ理由ヲ以テ競買ノ爲メ保證ヲ立テタル場合ニ於テハ即時ニ之レカ返還ヲ要求スルノ權利ヲ生スルモノナリ是レ保證ナルモノハ競落者ト決定シタルニ關ハラス代料ノ交付ヲ怠リ物件ノ引受クテ爲サ、ル爲メ其損害ヲ競賣關係人ニ被ラシムルカ如キコトアランコトヲ恐レ之レヲ設ケタルモノ



ナルカ故已ニ他ニ競落人ノ定マリテ他ノ競買者カ競賣ニ關スル關係凡テ消滅ニ歸スルトキハ其會テ預ケタル保證ハ茲ニ其必要ヲ止メ全ク之ヲ還付セサル可ラサル關係トナルモノナリ故ニ茲ニ返還ヲ求ムルノ權利アルコトヲ定メ各競買人中保證ヲ立テタル者ニ於テハ之ヲ要求ス可キ權利アルコトヲ規定シタルモノナリ是レ競賣終局ノ効果ヨリ出ル自然ノ結果ナリトス

第六百六十七條 競賣ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ

諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 不動産ノ表示
- 第二 差押債權者ノ表示
- 第三 執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト

第四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時

第五 總テノ競買價額並ニ其申出人ノ氏名住所

又ハ許ス可キ競買ノ申出ヲキコト

第六 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時

第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買

ヲ許ササルコト

第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト

最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルトキハ其旨ヲ附記ス可シ



競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有價證券ヲ返還シタルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ調書ニ添附ス可シ

〔義解〕(二二〇) 本條ハ競賣ニ付キ作ルコトヲ要スル調書ニ具備ス可キ條件ヲ定メタルモノナリ若シ異日競賣ノ結果ニ付キ苦情等ヲ生スルトキハ此ノ調書ニ照ラシ果シテ競賣ノ如何ニ結了セラレタルヤヲ判シ其關係ヲ定メサル可カラサルコトナルヲ以テ此ノ調書ハ法律ニ於テ最モ緻密ニ作成ス可キコトヲ命シタルモノナリ

第一 不動産ノ表示トハ即チ競賣ノ目的物タル不動産ハ如何ナル物件ニシテ且ツ其形狀位置ハ如何ナル物ナルヤ等ノコトヲ調書ニ留ム可キコトノ規定ナリ

第二 差押債權者トハ配當要求ノ債權者ニ對スル語ニシテ其確定

シタル債權ヲ以テ之レカ執行ヲ求メ不動産ノ競賣ヲ要求シタル債權者ノコトナリ即チ調書ニ於テハ目的物ノ表示ニ次キ之レカ記録ヲ要スルコトト定メタルモノナリ

第三 執行記録ハ第六百五十八條ノ規定ニ從ヒ不動産ノ強制執行ニ關係ヲ有ス可キ頗末ヲ詳記シテ關係者ノ閱覽ニ供セシム可キモノニテ之レヲ閱覽ス可キ場所ノ公告ヲモ命シタルコトナルカ故此ノ規定ニ從ヒ之レヲ閱覽ニ供シタルコト又若シ特別ノ賣却條件即チ之レヲ競賣スルニ付キ利害關係人ノ合意ニ因リ賣却ノ方法ヲ改メ或ル特別ナル方法ヲ以テ賣却スルコトト定メタルカ如キ場合ニ於テハ其實事ヲ告知スルコトノ規定アルカ故之レヲ法律ノ規定ニ從ヒ告知シタルコトヲモ記録セサル可カラサルコトト定メタルモノナリ



第四 第六百六十三條ノ規定ニ從ヘハ競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之レヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告ス可シトノコトアリ前項及ヒ本項ハ共ニ此ノ規定ニ從フタルコトヲ調査ニ現ハサシムルコトニテ即チ競買價額ノ申出ヲ各競買人ニ對シ催告シタル其日時ヲ調査ニ記載ス可キコトヲ命シタル法律ナリ

第五 調査ニ於テ凡テノ競買價額并ニ其申出人ノ氏名住所ヲ記載ス可キコトト爲セシモノハ若シ最高價競買人ニ故障ヲ生シ第二ノ競買申出人ニ競落ノ轉スルカ如キコト之レアル場合又ハ其競買申出價額ニ付キ争ヒテ生スルカ如キコトアル場合ニ於テ之レヲ判斷センニハ調査ノ記載ニ因ラサル可カラサルコトナルヲ以テ凡テノ競買價額及ヒ其申出人ノ氏名住所ヲ記載ス可キコトト

ナセリ若シ又競賣ハ之レヲ行ナヒタルモ遂ニ最低價競賣價額ニ達スルモノナク即チ許ス可キ競買ノ申出ナキトキニ於テハ其事實ヲモ調査ニ留メ置ク可キコトトナセシモノナリ

第六 第六百六十五條ノ規定ニ從ヒ競賣終局ニ至リタルトキハ其終局ノ日時ヲ記録シ置クコトトナセリ是レ其競賣ハ果シテ法律ノ規定スル時間ヲ守リ正當ニ結了セラレタルモノナルヤ否ヤヲ知ルニ付キ甚ダ必要ノコトナルヲ以テナリ

第七 若シ競買申出人ニ付キ利害關係人ヨリ保證ヲ立テシコトヲ要求スルキハ之レカ保證ヲ立テサレハ競買ヲ許サ、ルコト第六百六十四條ニ規定スル所ナリ故ニ此ノ申立ニ因リ競買申出人カ保證ヲ立テタルキハ其保證ヲ立テタルコト若シ又此ノ申立アルニ關ハラス保證ヲ立テサリシ爲メ競買ヲ許サ、ルトキハ之レヲ



第四 第六百六十三條ノ規定ニ從ヘハ競賣期日ヲ開キタル後執達  
 吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ  
 之ヲ告知シ且競買價額申出ヲ催告ス可シトノコトアリ前項及  
 ヒ本項ハ共ニ此ノ規定ニ從フタルコトヲ調査ニ現ハサシムルコ  
 トニテ即チ競買價額ノ申出ヲ各競買人ニ對シ催告シタル其日時  
 ヲ調査ニ記載ス可キコトヲ命シタル法律ナリ

第五 調査ニ於テ凡テノ競買價額并ニ其申出人ノ氏名住所ヲ記載  
 ス可キコトト爲セシモノハ若シ最高價競買人ニ故障ヲ生シ第二  
 ノ競買申出人ニ競落ノ轉スルカ如キコト之レアル場合又ハ其競  
 買申出價額ニ付キ争ヒテ生スルカ如キコトアル場合ニ於テ之レ  
 ヲ判斷センニハ調査ノ記載ニ因ラサル可カラサルコトナルヲ以  
 テ凡テノ競買價額及ヒ其申出人ノ氏名住所ヲ記載ス可キコトト

ナセリ若シ又競賣ハ之レヲ行ナヒタルモ遂ニ最低價競賣價額ニ  
 達スルモノナク即チ許ス可キ競買ノ申出ナキトキニ於テハ其事  
 實ヲモ調査ニ留メ置ク可キコトトナセシモノナリ

第六 第六百六十五條ノ規定ニ從ヒ競賣終局ニ至リタルトキハ其  
 終局ノ日時ヲ記録シ置クコトトナセリ是レ其競賣ハ果シテ法律  
 ノ規定スル時間ヲ守リ正當ニ結了セラレタルモノナルヤ否ヤヲ  
 知ルニ付キ甚々必要ノコトナルヲ以テナリ

第七 若シ競買申出人ニ付キ利害關係人ヨリ保證ヲ立テンコトヲ  
 要求スルキハ之レカ保證ヲ立テサレハ競買ヲ許サ、ルコト第六  
 百六十四條ニ規定スル所ナリ故ニ此ノ申立ニ因リ競買申出人カ  
 保證ヲ立テタルキハ其保證ヲ立テタルコト若シ又此ノ申立アル  
 ニ關ハラス保證ヲ立テサリシ爲メ競買ヲ許サ、ルトキハ之レヲ



許サ、リシコトヲモ記録シ置クコトト定メタルモノナリ

第八 最高價競買人已ニ定マリタルトキハ其氏名及ヒ其價額ヲ呼上ク可キコトト第六百六十六條定メタルカ故此ノ規定ニ從ヒ之レカ呼上ケテ爲サ、ル可ラス而シテ其呼上ケテ爲シタルトキハ其事實モ亦之レヲ證書ニ記録ス可キコトト定メタルモノナリ是レ若シ此ノ呼上ケテ爲サ、ルトキハ即チ競賣ハ違法ニ行ハンタルトナルヲ以テ其果シテ適法ニ行ハンタルヤ否ヤヲ知ルカ爲メ茲ニ此ノ規定ヲ爲セシモノナリ

以上見來ル如ク此ノ調書タル競買カ適法ニ行ハレタルヤ否ヤヲ見ル可キ基礎トナルモノナルカ故最モ正確ニ之レヲ保テサル可ラス是レ最高價競買人及ヒ競買ニ立會ヒタル利害關係人ヲシテ之レニ署名捺印セシムルコトト定メタル所以ナリ已ニ此ノ調印ヲ以テ法律上之レ

ヲ爲スヲ要スルコトト定メタルカ故若シ調書作成ノ前已ニ此ノ署名ヲ要スル者ニ於テ退席シタルトキハ其次第ヲ附記セサル可ラス要スルニ調書ヲシテ正確ナラシムルカ爲メ此等ノ方法ヲ以テ嚴格ノ規定ヲ爲セシモノナリ

又競買ノ保證ノ爲メ預リタル保證金若クハ有價證券ハ之レヲ返付スルト共ニ受取證ヲ取ル可キモノナルカ故此ノ受取證ハ調書ニ添附セシメ保證金ノ返付ヲ終リタル事實ヲ證セシムルコトト爲セシモノナリ

第六百六十八條 執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金錢又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所書記ニ之ヲ渡ス可シ

〔義解〕(二二二) 本條ハ競賣終局ノ後ニ於テ執達吏ノ盡ス可キ職務上



ノ行為ヲ定規シタルモノナリ  
 執達吏ノ保管中ニアル調書ノ如キ又之レニ添附スヘキ諸多ノ書類及  
 ヒ競買申出人ヨリ徴シタル保證ニシテ返還セサルモノノ如キ已ニ競  
 賣ヲ終局シタル後ニ於テハ之レヲ執達吏ノ手裡ニ保存ス可キ必要ナ  
 ク又之レヲ執達吏ニ保有セシム可キモノニアラサルカ故凡テ裁判所  
 書記之レヲ受取り之レヲ保管ス可キモノト定メタリ本條ニ於テハ三  
 日内ニ之レヲ渡ス可キコトヲ規定シ以テ執達吏ノ職務トシテ競買ニ  
 關係ス可キ定限ヲ示シタルモノナリ競買ノ保證ノ爲メニ預リタル金  
 錢又ハ有價證券ノ類ハ竟ニ返還ヲ要ス可キモノニシテ之レヲ返還セ  
 スシテ止ムモノニアラサントモ競賣終結ヨリ三日ニシテ執達吏ハ之  
 レカ關係ヲ解キ之レヨリ以後ノ手續ハ裁判所書記ヲシテ之レニ當ラ  
 シムルカ爲メ特ニ本條ヲ規定シ競賣終結後三日内ニ裁判所書記ニ引

渡ヲ命シ三日ヲ過クレハ該競賣上ニ付テハ執達吏ノ關係ヲ止メサル  
 コトト爲セシモノナリ

第六百六十九條 最高價競買人執行裁判ノ所在地ニ

住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假  
 住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ  
 怠リタルトキハ第四百四十三條第三項ノ規定ヲ準用  
 ス

住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ  
 之ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕(三二二二) 本條ハ最高價競買人ニ於テハ遂ニ物件ノ引渡ヲ求ム  
 可キモノニテ代價ヲ納付シ不動産ノ書代ヘテ爲ス等裁判所ニ對シ種  
 々少ナカラサル關係ヲ有ス可キモノナルヲ以テ裁判所々所在地ニ住所



若クハ事務所ヲ有セサルトキニハ假住所ヲ選定シテ之レヲ届出置ク  
 可キコトト定メタルモノナリ是レ裁判所ヨリ爲ス送達ニ便宜ヲ有セ  
 シメ以テ競賣ノ結果ヲ全フセシカ爲メナリ若シ競買人ニシテ之レヲ  
 怠リ其届出ヲ爲サ、ルニ於テハ之レニ相當スル責ヲ負ハサル可カラ  
 サルハ勿論ナリ即チ此届出ヲ怠リタルトキニ於テ第四百四十三條第三  
 項ヲ準用スルコトト定メタルハ最モ適當ノ規定ニシテ此ノ届出ヲ爲  
 サ、ルキハ裁判所書記又ハ其委任ヲ受ケタル吏員交付ス可キ書類ヲ  
 原告若クハ被告ノ名宛ニテ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得此送達  
 ハ其書類ノ原告若クハ被告ニ到達スルト否トヲ問ハス又何時ニ到達  
 スルトヲ問ハス郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス  
 トアルノ規定ニ依リ郵便ニ因リ送達ヲ爲シ之ヲ以テ送達ヲ終リタル  
 モノト看做サル可キコトナリ故ニ自カラ届出ヲ爲サ、ルノ理由ニ因

リ裁判所ノ送達ヲ云々スル能ハサルコトタルヲ知ラサル可ラサルナ  
 リ  
 然レトモ此ノ住所ノ届出タル固ヨリ方式ヲ要スルコトニアラス只其  
 何レノ處ニ住所ヲ有スルヤヲ知ルヲ以テ足レルコトナルカ故之レヲ  
 執達吏ニ口述シ執達吏ヲシテ調書ヲ作ラシムルヲ以テ足レルコトト  
 爲セリ故ニ自ラ書面ヲ調ヘテ之レカ届出ヲ爲スモ亦或ハ口述ニ依リ  
 調書ヲ作ラシムルモ適意ノコトト爲セリ故ニ最高價競買人ハ此ノ二  
 方法ノ中ニ就キ住所ノ届出ヲ爲スヲ要スルナリ

第六百七十條 競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ  
 申出ナキトキハ第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害  
 セサル限りハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額  
 ナ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定ム可シ若シ其期日



ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキモ亦同シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

〔義解〕(二二三) 本條ハ競賣期日ニ於テ最低競賣價額マテニ達スル競買申出人ナキトキ即チ許可ス可キ競買價額ノ申出ナキ場合ニ於テ裁判所ニ於テ爲ス可キ處置ヲ定メタルモノナリ

裁判所ニ於テ本法ノ規定ニ從ヒ競賣ヲ實施シタルニ關ハラズ其評價人ノ鑑定シタル競賣ノ最低價額ニ達ス可キ競買申出人ナキトキハ之レヲ許可ス可カラサル競買價額ト爲スナリ若シ凡テノ競買者中ニ於テ許可ス可キ競買價額ノ申出ヲ爲サ、ルトキハ之レニ因リ其競賣ハ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ルモノナリ故ニ其競賣ヲ實行セントスルニハ更テ新ナル方法ヲ行ハサル可カラス即チ此ノ場合ニ於

テハ裁判所ハ其意見ヲ以テ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ之レヲ以テ標準ヲ示シ更テニ競賣期日ヲ定メサル可カラサルモノト爲セリ然レトモ第六百四十九條第一項ノ規定ハ嚴ニ之レヲ格守セサル可カラス即チ差押債權者ノ債權ニ先ツ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニアラサレハ賣却ヲ爲スコトヲ得サルコト是レナリ故ニ若シ其目的タル不動産上ニ特別ノ權利ヲ有スルモノアル場合ニ於テ初メニ爲シタル競賣ニ於テハ此ノ特別債權者ノ權利ヲ實行シテ餘裕アル可キ見込ナリシモ更ニ其最低競賣價額ノ引下ケヲ爲スニ於テハ差押債權者ハ毫モ求メ得ヘキモノ之レアラサルニ至ル可キトキハ其競賣ハ之レヲ爲サシメサルノ意ナリ故ニ裁判所ノ意見ヲ以テ最低競賣價額ノ低減ヲ爲ス可キ程度ト特別債權者ノ權利ト對比シテ更テニ競



賣ヲ爲サシム可キヤ否ヤノコトヲ定ムヘキモノナリ而シテ若シ更ラ  
ニ期日ヲ定メタル新競賣期日ニ於テモ前同様ノ結果ヲ生シタルトキ  
ハ之レト同一ノ方法ヲ擇マサル可カラサルコトト爲セリ

此ノ新競賣期日ヲ以テ少ナクハ十四日ノ後タル可キコトト定メタル  
モノハ更ラニ競賣萬般ノコトヲ變更スルコトナルヲ以テ此ノ期日ヲ  
設ケ競賣關係人カ競賣ニ就キ準備スル猶豫ヲ與ヘタルモノナリ

第六百七十一條 裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利

害關係人ニ競落ノ許可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ  
競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ  
之ヲ申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述  
ニ付テモ亦同シ

〔義解〕(二二四) 本條ハ競落ニ付テ異議ヲ爲シ得ルコト及ヒ之レヲ爲

ス可キ時期ヲ規定シタルモノナリ

競落期日ニ於テハ凡テノ競買人ヨリ申出シタル價額ヲ比較シ最モ高  
價ナル申出人ニ之レヲ競落セシムルコトナルカ故競落期日ハ恰モ其  
何人カ如何ナル價額ヲ以テ競落ヲ爲ス可キヤヲ決スルノ日ナリ之レ  
ヲ以テ競賣ニ付テノ利害關係人ハ其競買申出人ノ申出價額ヲ比較シ  
タル結果ニ因リ將サニ定マラントスル競落ニ付キ之レヲ許可ス可カ  
ラスト爲ストキハ其理由ヲ陳述シテ之レニ對シ異議ヲ主張スルヲ得  
ヘキモノナリ即チ競落ヲ法律ノ規定ニ違背シタル競賣法ニ因リ之レ  
ヲ果ダシ終ハラントスル場合ノ如キ若シ之レヲ看過スルニ於テハ其  
不法ナル處置ノタメ競賣關係人ヲ害スルモノ少ナカラサル可キカ故  
利害關係人ニ於テハ之レニ對シ異議ヲ主張スルコトヲ得ルコトト爲  
セシモノナリ而シテ此ノ異議ハ競落期日ノ終ルマテハ何時ニテモ之



レテ主張スルヲ得ヘキモノニテ若シ已ニ異議ノ申立ノミヲ爲シアルトキニハ其理由ヲ細述シテ競落期日ノ終ルマテノ間ハ十分ニ之ヲ主張ヲ勉ムルヲ得ルコトト爲セリ已ニ競落期日ニシテ終了シタルトキニ於テハ其競落ノコト確定スルモノナルカ故此後ニ至リテハ之ヲ主張スルコト能ハサルモノナリ唯全ク之ヲ終了ヲ告ケサル間ニ在テハ之ヲ主張スルヲ得セシメ以テ競賣上ニ關シ利害關係人ノ爲シ得ヘキ權能ヲ有セシメタルモノナリ

第六百七十二條 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス

- 第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト
- 第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其

不動産ヲ取得スル能力ナキコト

第三 法律上ノ賣却條件ニ牴觸シテ競買ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト

第四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト

第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲ササルコト

第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セサリシコト

第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト



第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト

〔義解〕(二二五) 前條ニ於テ已ニ競買ニ付キ其利害關係人カ異議ヲ主張スルヲ得ヘキコトヲ規定シタルカ故本條ハ其異議ハ如何ナル理由ニ基クテ要ス可キヤノコトヲ規定シタルモノナリ即チ利害關係人ニ於テ異議ヲ主張セントスルニハ必ス本條ニ規定シタル各項ニ照ラシ其何レノ根據ヲ以テ之レヲ主張シ得ルヤヲ明ラカニシ之レカ陳述ヲ爲サ、ル可ラス故ニ競買ニ於テ本條規定ノ一ニ觸ル、モノアルトキハ之レヲ原由トシテ異議ヲ爲スコトヲ得ルモノタルヲ知ル可シ左ニ各項ニ付キ之レヲ講説ス可シ

第一 強制執行ヲ許スコカラサルコト又ハ執行ヲ續行スコカラサルコトトハ第五百五十條ニ規定シタルカ如ク或ハ法律ノ規定ニ

因<sup>ル</sup>或ハ裁判所ノ命ニ因リ執行ヲ爲スコカラサルニ至リタル場合ヲ指スナリ此他差押債權者ノ債權ニ先ツ不動産上ノ權利者アリテ其負擔ヲ辨償スルキハ差押債權者ハ競賣上ヨリ出ル利益ヲ受クルノ見込アラサルキノ如キ第六百四十九條ノ規定ト相觸レテ執行ヲ爲スコカラサルモノタルニ關ハラス之レヲ行ハントスルカ如キ場合モ亦然リ凡テ是等法律上明ラカニ強制執行ヲ爲シ又ハ之レヲ續行シ得サルモノナルニ尙ホ之レヲ顧ミス強制執行ヲ果シ競落ヲ決セントスルニ至テハ其利害關係人タル者ハ之レニ對シ異議ヲ主張スルコトヲ得ルモノナリ即チ第一項ノ規定ハ此等ノ場合ニ適合スルモノトス

第二 不動産ヲ賣買シ得ル者ハ法律上ノ規定ヲ以テ成年以上ニ達シタル者ニ限ラレシ幼者ノ如キ禁治產者ノ如キ者ニ至テハ之



レカ賣買ヲ爲スコトヲ得セシメス故ニ競賣ノ方法ニ依リ最高價  
競買者タルノ申出ヲ爲シ競落人ヲラントスル者ニ於テ此等契約  
ノ能力ヲ有セサル者ナルトキハ其競買ノ契約ハ取消シ得ラル可  
キ性質ヲ帶フルモノナリ故ニ此ノ無能力者カ最高價競買人ト爲  
リシトキハ競賣ニ付テノ利害關係人ハ之レニ對シ異議ヲ主張ス  
ルヲ得ルコトトナセリ

第三 法律ニ於テハ競賣ノ方法トシテ種々ノ條件ヲ規定シタリ若  
シ競賣ニシテ此ノ條件ニ違背シテ之レヲ行ハントスルキハ利害  
關係人タル者ハ之レニ對シ異議ヲ主張スルコトヲ得ルモノナリ  
尤モ此ノ競賣ノ條件ナルモノハ隨意ノ條件トシテ關係人ノ合意  
ニ因リ之レカ變更ヲ許シタルモノナルカ故全躰ノ合意アルニ於  
テハ此ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ルモノナリ故ニ此ノ條件ノ變

更アリタルトキニ於テハ其變更アリタルノミニテ異議ノ原由ト  
ナラス之レヲ變更シタル顛末ニ付キ之レヲ調査シ利害關係人ノ  
合意ヲ以テ爲シタルニアラサルコト分明ナルニ至リ初メテ異議  
ノ原由トナルモノタルコトヲ知了セサル可ラサルナリ

第四 第六百五十八條ニ於テハ第一ヨリ第十ニ至ル區別ヲ以テ必  
ス競賣期日ノ公告ト共ニ之レカ公告ヲ爲サ、ル可ラサル條件ヲ  
列記シタリ然ルニ若シ公告ニ於テ此ノ各要件中ニ付キ之レヲ脱  
漏シ若クハ特ニ之レヲ掲ケサルカ如キコト等之レアルニ於テハ  
該競賣ハ適法ニ完了セラレタルノ望ヲ欠クニ至ルコト勿論ナリ  
故ニ若シ利害關係人中ヨリ之ヲ理由トシテ競落ヲ異議セントス  
ルニ於テハ法律ハ之レヲ適當ノ理由トシテ調査ス可キモノト定  
メタルナリ



第五 又競賣期日ヲ公告スルコトニ付テハ第六百六十條以下ニ於テ其方法ヲ規定シタルモノアリ故ニ若シ此ノ法律上ノ規定ニ從ヒ之レカ公告ヲ爲サ、リシキハ其公告ハ之レヲ全キモノト爲スヲ得ス公告已ニ全カラサルホハ之レニ付テ爲シタル競賣モ亦圓滿ニ果タサル、ヲ得サルノ恐レアリ故ニ若シ此ノ公告ニシテ該條以下ノ規定ニ反シタルモノアルトキハ之レヲ根元ノ理由トシテ異議ヲ主張シ得ルコトト定メタルモノナリ

第六 第六百五十九條ニ於テハ公告ヲ爲シタルトキト競賣期日トノ間ニハ少ナクトモ十四日ノ期間ヲ要スルコトト定メタリ故ニ若シ公告ヲ爲シテヨリ競賣期日ノ到着マテ此ノ期間ヲ存セサル場合ニ於テハ適法ノ期間ヲ存セザリシモノニテ法律ノ規定ニ背反シ其結果非常ノ不利益ヲ競賣關係人ニ被ムラシムルノ恐レナ

ルカ故又之レヲ原由トシテ異議ヲ主張シ得ルコトト爲セシモノナリ

第七 第六百六十五條第二項ニハ競賣價額ヲ申出ツ可キコトノ催告ヲ爲シタルヨリ滿一時間ノ後ニアラザレハ競賣ノ終局ヲ爲スヲ得サルコトノ規定ナリ故ニ若シ此ノ規定ニ反キ催告後未ダ滿一時間ヲ經サルニ之レヲ終局スルカ如キコトアルトキハ之レカ爲メ各競買人及ヒ競賣ニ付テノ利害關係人ノ利益ヲ害スルノ恐レ少ナカラサルカ故又之レヲ異議ノ原由ト爲シ得ヘキコト、爲セリ第六百六十六條第一項ハ競賣ヲ終局スルホ最高價競買人ノ氏名及ヒ競買價額ヲ呼上ケタル後競賣ノ終局ヲ告知ス可キコトノ規定ナリ即チ執達吏カ其競買價額若クハ競買者ノ氏名ノ呼上ケ或ハ又競賣終局ノ告知ヲ怠リタルホニ於テ異議ヲ主張シ得ヘ



キコトナリ畢竟此ノ規定タル競賣ニ付キ公平ヲ保テシメンカ爲  
メ設ケタルモノナルニ若シ此ノ規定ヲ破リ競落ヲ決スルカ如キ  
コトアルニ至テハ或ハ其間弊害ヲ生シ競賣關係人ヲシテ不利益  
ヲ蒙ラシムルノ恐レナシト云フ可カラサルカ故此ノ規定ヲ以テ  
法律上ノ此ノ規定ヲ破リタル場合ニ於テ利害關係人カ之レヲ匡  
濟スルノ途ヲ有セシメタルモノナリ

第八 第六百六十四條ニ於テハ競賣ニ付テノ利害關係人ハ各競買  
人中ニ就キ特ニ競賣ニ付テ保證ヲ立テシメンコトヲ要請スルヲ  
得ルコト、爲セリ而シテ競買人ニ於テ若シ之レヲ立テ能ハサル  
トキハ競賣ニ加ハルコトヲ許サ、ルモノナリ然ルニ此ノ規定ア  
ルニ關ハラス保證ヲ求メラレタル競買人カ之レヲ立ツルコトヲ  
爲サス從テ競買人タルヲ得サル者ノ身ヲ以テ競賣ヲ申出テ加之

其競買者ニ於テ最高價競買人ナリト呼上ケラレタル場合ハ即チ  
競買ヲ求メ得サル者ニ於テ之レヲ競落シタルモノニテ固ヨリ違  
法ノ跡明ラカナルカ故之レヲ理由トシテ異議ヲ主張シ得ヘキコ  
トト定メタルモノナリ

以上第一ヨリ第八ニ至ル規定ハ即チ競買ニ付テノ利害關係人タル者  
カ競落期日ノ終リニ至ルマテ主張スルヲ得ル異議ノ根據ニシテ法律  
ハ此ノ各項ヲ事由トスル異議ニ付テハ之レヲ適法ノ異議トシテ其事  
實ヲ調査ス可キモノト爲シタルナリ

第六百七十三條 異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關  
スル理由ニ基テハ之ヲ許サス

〔義解〕(三二六) 已ニ前條ニ於テ八項ノ規定ヲ以テ競落ノ許可ニ付テ  
異議ヲ主張シ得ヘキコトヲ定メタルニ要スルニ是レ其異議ノ基ク處



ハ其不法行為ノ爲メ此ノ如キ不幸不利益ヲ蒙リヨリトナシ之レカ救  
 正ヲ求ムルヨリ出ツ可キモノニア異議ノ主張ヲ設ケタル法律ノ精神  
 モ亦之レカ爲メニ損害ヲ蒙ル可キ者ニ其救正方法ヲ授ケタルニ外ナ  
 ラス故ニ此ノ異議ハ直接自身ニ關係アル場合ニアラサレハ之レヲ主  
 張スルヲ得サルコトニア若シ其所爲ノタメ他ノ利害關係人ニハ影響  
 ヲ來タスモノアルモ自身ニ關係ヲ保ダサルニ於テハ之レヲ根據トシ  
 テ異議ヲ主張スルヲ得サルコトト爲セリ此ノ理由ハ最モ明白ニシテ  
 若シ此ノ如ク爲スニアラサレハ利害關係人以外ノ者ト雖モ異議ヲ主  
 張シ得ルコトトナルニ至ルナリ何トナレハ所謂利害關係人ナル者ハ  
 競賣ニ付テ利害ノ關係ヲ有スル者ノ謂ヒニシテ異議其物ニ付テハ之  
 レヲ利害關係人ト云フヲ得ス已ニ異議ニ付キ關係ヲ有セサル者トス  
 レハ競賣ニ付テノ利害關係人ハ異議ノ點ヨリ見レハ毫モ關係ナキ他

人ト同一ノ者ト云ハサル可ラス故ニ異議ノ主張カ自己ノ利害ニ關係  
 スル場合ノ外ハ其シ競落上不法ノコトアリトスルモ無關係ナル他人  
 カ之レニ容喙スルヲ得サルト同一ノ理ヲ以テ又之レニ苦情ヲ唱フル  
 ヲ得ヘカラス唯自己ノ利益ヲ害スルノ恐レアリ而シテ其恐レカ前條  
 規定ノ各原因ヨリ發生シタル場合ニ於テ之レヲ主張シテ其損害ヲ排  
 除スルヲ得ヘキモノナリ是レ本條ニ於テ他ノ利害關係人ノ權利ニ關  
 スル理山ニ基テハ之レヲ爲シ得サルモノト規定シタル所以ナリ

### 第六百七十四條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスル

トキハ競落ヲ許サス

第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項  
 ノ一アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一  
 號ノ場合ニ於テハ競賣シタル不動産カ讓渡スコト



ヲ得サルモノナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シ  
タルトキニ限り第二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ  
資格ノ欠缺カ除去セラレサルトキニ限り第三號ノ  
場合ニ於テハ利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セ  
サルトキニ限ル

〔義解〕(二二七) 本條ハ競賣ニ付テノ利害關係人ニ於テ異議ヲ主張シ  
タルトキ裁判所ニ於テ其申立ヲ正當ナリト決定シタル場合ニ爲ス可  
キ處分ヲ定メタルモノナリ即チ裁判所ハ異議ノ申立ニシテ第六百七  
十二條ノ原由ノ一ニ相當スルモノト認メタルトキハ其競落ヲ許スコ  
トヲ得ス競落者ハ其權利ヲ主張スルヲ得サルモノナリ蓋シ前々條ニ  
於テ已ニ細說シタル如ク此ノ異議ノ原由ナルモノハ競賣ヲ不法ニ履  
行シ之レカ爲メ關係者ニ損害ヲ蒙ラシムルノ恐レアルヲ以テ之レヲ

救正セシムル爲メ許シタル能權ナルカ故若シ此ノ原由ノ存在明ラカ  
ナルニ至テハ其競落ノ取消ヲ命ス可キハ當然ノコトニシテ即チ法律  
カ不法ニ損失ヲ蒙ル者ヲ擁護スル所以ナリトス是レ先ツ第一項ヲ以  
テ其申立ヲ正當ナリトスルトキハ競落ヲ許サストノ規定ヲ設ケタル  
所以ナリ

然レモ第六百七十二條ニ數ヘタル八項ノ原由ハ利害關係人ノ請求ニ  
依リテ初メテ其競落ノ取消ヲ命ス可キモノニ非ス其事項タル法律ノ  
精神ニ戻リ競賣ニ付キ圓滿ナル結果ヲ失フノ恐アルモノヲ擇ミ之レ  
カ救正ヲ爲サシムルコトト規定シタルモノナルカ故利害關係人ヨリ  
之レカ請求ヲ爲スモノ之レヲアラストスルモ裁判所ハ此ノ原由ノ一ニ  
觸レタルコトヲ發見スルニ於テハ競落ヲ差止メサル可ラサルモノナ  
リ唯其八項中第一第二第三號ノ場合ニ於テハ少シク事情ヲ異ニスル



モノアルカ放殊更ラニ之レカ取除キテ設ケタリ  
 第一號ハ強制執行ヲ許ス可ラサルコト又ハ之レヲ續行ス可ラサルコトヲ理由トシテ異議スル場合ヲ想定シタルモノナレド此ノ場合ハ裁判所ノ職權上絶對ニ之レカ取消ヲ命ス可キモノニ非ス即チ其之レヲ許ス可ラス若クハ續行ス可ラサルコトカ競賣ノ目的物タル不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノアルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限ル可キコトニテ其他ノ場合ハ職權上之レカ取消ヲ命スルコトヲ得サルナリ不動産カ讓渡スコトヲ得サルモノナルトキトハ不動産ノ性質ニ因リ之レヲ他ニ讓與スルヲ得サル物ニシテ不使用權ノ如キ又或ハ特別ノ法律ヲ以テ之レヲ禁セラレタル世襲財産ノ如キ類ヲ云フナリ即チ此等不動産ヲ目的トシテ競賣ニ付セントスル場合ニ於テハ明ラカニ法律上讓渡ヲ爲シ得サルモノニ係ルカ故裁判所ハ其職權ヲ以

テ之レカ取消ヲ命セサル可ラス其競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキトハ或ル理由ヨリシテ競賣ヲ果行ス可ラサルニ至リ裁判所ヨリ競賣手續ヲ停止シタル場合ニシテ此ノ場合ハ勿論此ノ停止ト共ニ競賣手續ノ進行ハ之レヲ止息セサル可ラサルモノナルヲ以テ競落ハ自然ノ結果ニ於テ許可ス可カラサルコト、ナルモノナリ故ニ之レヲ以テ職權上當然停止ス可キコト、定メタルハ最モ適當ノコト、爲サ、ル可ラス而シテ第一號ノ原由トシテ生ス可キ其他ノ事情ニ至テハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ヲ俟テ之レヲ決定ス可キモノニテ職權上之レカ取消ヲ命ス可キモノニアラサルナリ

又第二號ノ場合ニ於テモ已ニ競落者ニ於テ不動産ノ賣買若クハ之レニ關スル契約ヲ爲シ得ヘキ能力ヲ回復シタルトキハ裁判所ハ其申立ヲ俟ツニアラサレハ之レカ取消ヲ命ス可キモノニアラス唯能力若ク



ハ資格欠缺ノ内ニアリテ競落者ヲラントスル場合ニ於テ職權上之レ  
 カ取消ヲ命シ得ルモノタルコトヲ知ラサル可ラサルナリ  
 第三號ノ場合ハ競賣條件ノ法律ノ規定ニ違背シタルヲ理由トシテ之  
 レカ取消ヲ要求スルコトヲ想定シタルモノナレド此ノ賣却條件ナル  
 モノハ競賣ニ付テノ利害關係人ノ合意ニ因リ隨意ニ變更シ得ルモノ  
 ナルカ故若シ之レニ背反シタルコトアリトスルモ關係人ニシテ其變  
 更ヲ異議セス之レヲ承認スルニ於テハ毫モ不都合ノコトアラス故ニ  
 利害關係人手續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限り之レカ競落ヲ取  
 消サシムルコト、定メ以テ之レカ取消キヲ爲シタルモノナリ  
 以上見來ルカ如ク第一號第二號第三號ニ付テハ裁判所ノ職權ヲ以テ  
 取消ヲ爲スコトヲ得サル例外ノ存スルコトナルカ故此ノ例外ノ場合  
 ヲ除ク可キハ勿論ナントモ其他八項マテニ規定アル條項ニ付テハ當

然裁判所ノ職權ヲ以テ取消ヲ命シ得ルモノタルコトヲ知了セサル可  
 ラサルナリ而シテ茲ニ例外トシテ取消キタル事項ニ付テモ利害關係  
 人ニ於テハ之レカ主張ヲ爲シ之レヲ理由トシテ其取消ヲ請求シ得ル  
 コト固ヨリ當然ナリトス

第六百七十五條 數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場  
 合ニ於テ或ル不動産ノ賣得金ヲ以テ各債權者ニ辨  
 濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ル可キト  
 キハ他ノ不動産ニ付テハ競落ヲ許サス  
 此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノ  
 ナ指定スルコトヲ得

〔義解〕(二二八) 本條ハ強制執行ヲ止息ス可キ程度ヲ規定シタルモノ  
 ナリ強制執行ナルモノハ要スルニ債權者ニ對シ債務ノ辨濟ヲ終了ヒ



シムルカ爲メ之レヲ行フニ外ナラサルモノナルカ故已ニ之レヲ終了  
 スルニ足ルトキハ固ヨリ之レヲ行フノ必要之レアラサルコト云フヲ  
 俟タス故ニ債務者ノ所有ニ屬スル數个ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場  
 合ニ於テ或ル一二若クハ二三ノ不動産ヲ賣却シタル賣得金ノ額各債  
 權者ニ對スル債務ノ額ヲ辨濟シ及ヒ強制執行ニ關スル費用ヲ償フニ  
 足ル場合即チ債務者ノ債務ヲ完済スルニハ其差押ヘラレタル不動産  
 中或ル部分ノ賣却ニテ十分ナル場合ニ於テハ競賣ハ之レヲ以テ其程  
 度ト爲シ之レヲ止息セサル可ラス蓋シ競賣ナルモノハ債務者ニ於テ  
 債務ノ履行ヲ怠リ債權者ヲ苦ムルヨリ止ムヲ得ス公力ヲ以テ之レヲ  
 辨濟セシムルノ方法タルカ故已ニ差押物中ノ或ル物件ニテ其目的ヲ  
 達シタル場合ニ於テハ已ニ強制執行ヲ爲スノ目的ヲ達シタルモノニ  
 テ若シ此ノ程度ニ進ミタルニ係ハラス尙ホ競賣ヲ爲サシムルカ如キ

トハ徒ラニ債務者ノ財産ニ迫害ヲ加フルニ過キサルモノニア毫モ之  
 レヲ爲スノ必要ナク又之レヲ爲ス可キ理由ナキニ之レヲ行フコトト  
 ナルモノナリ是レ本條ニ於テ各債權者ニ辨濟ヲ爲シ又強制執行ノ費  
 用ヲ償ヒ得ルノ度ニ達シタルヲ限リトシテ競落ヲ止息セサル可カラ  
 サルコトヲ規定シタル所以ナリ

第二項ハ債務者ニ於テ其差押ヘラレタル全財産ニアラサルモ其一部  
 ヲ以テ辨濟ニ十分ナリト爲スルニ於テ其競賣ニ付ス可キ物件ノ指定  
 ヲ爲シ得ルコトノ規定ナリ蓋シ債務者ハ自己所有ノ何レノ財産ヲ以  
 テモ之レカ辨濟ニ充ツルヲ得ルモノナルカ故若シ競賣ノ場合ノ如キ  
 モ必スシモ全部ヲ賣却スルヲ要セスシテ辨濟シ得ルモノト爲ストキ  
 ハ先ツ何レノ不動産ヨリ賣却ス可キヤヲ指定ス可キ自由ヲ有セシメ  
 タルハ最も適當ノコト、云フ可キナリ何トナレハ結局其指定シタル



不動産ノ賣却ニ因リ義務消滅ニ歸スルトキハ自己ノ所有ニ屬スル他ノ不動産ヲ賣却スルヲ要セスシテ其義務ヲ盡了スルコトナルヲ以テナリ恰モ任意ノ執行ヲ爲スニ際シ先ツ何レノ不動産ヲ賣却シテ其債務ノ辨濟ニ供ス可キヤヲ決シ得ルハ債務者ノ能權ナルト同一ノ理ヨリ強制執行ニ於テモ又之レカ自由ヲ有セシメタルモノナリ

**第六百七十六條** **第六百七十二條**及**第六百七十四條**ノ規定ニ從ヒ全ク競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許ス可キトキハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ

新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タル可シ

〔義解〕(三二九) **第六百七十二條**及**第六百七十四條**ハ競落ニ付キ異議ヲ主張シ得ルノ規定ナリ而シテ裁判所ニ於テ其異議正當ノ理由ア

リト爲ストキハ競落ヲ許ス可キモノニアラス故ニ已ニ一旦此ノ理由ニ因リ競賣手續ノ取消サレタル後更ラニ其故障消滅スルカ或ハ又他ノ理由ヨリ之レカ競賣ヲ果サ、ル可カラサルコト、ナリタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ更ラニ新規ナル期日ヲ定メサル可カラス是レ恰モ一旦取消サレタル競賣カ更ラニ新タニ行ハル、モノニテ此ノ新規ナル競賣ニ付テハ恰モ曾テ行ハレタル第一回ノ競賣ト同一ナルカ故裁判所ハ職權ヲ以テ其期日ノ決定ヲ爲ス可キモノト定メタルモノナリ

新競賣ノ期日ヲ以テ少ナクトモ十四日ノ後タルヘキコトト定メタルハ**第六百七十條**ニ於テ細説シタル如ク競賣ニ應セントスル者ヲシテ之レカ準備ヲ爲サシムルカ爲メナリトス

**第六百七十七條** 前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ